

～コロナ禍におけるくらしの作文集～

コロナに 負けない



令和3年3月

上天草市教育委員会

コロナ禍におけるくらしの作文集『コロナに負けない』の発刊にあたり

昨年度末、国から突然の臨時休業が告げられ、それが三か月にも及ぶことを誰が予想できたでしょう。

三月の卒業式は、時間の短縮、規模の縮小などで、卒業生に感謝の気持ちを充分表せないままに終わりました。また、入学式も、いつものような明るいムードで新入生を迎えることができませんでした。更には、新学期を迎え新たな希望を胸にした子供達も、自宅待機を余儀なくされ、家庭でのプリント学習中心のくらしが続きました。特に、新一年生のことを思うと、胸が痛みました。

ようやく、六月に学校再開となりました。子供達や先生方はこの時をどんなに待ち焦がれていたことでしょう。学習の遅れを取り戻そうと、感染症対策を行いながら全ての学校で学習がスタートしました。また、学校行事も制限が加わる中、安全を第一に創意工夫して行われ、目標が達成されると、喜びや称賛の声が聞かれました。

何事も未曾有の体験であり、苦労や不安の中、やがて一年となる節目に子供達の暮らしぶりを記念誌にして残してはどうかと、教育委員の方から会議で提案がありました。もちろん、全員賛同で準備が進められました。そして、各学校への募集からわずか一か月余りで、小学生九〇点、中学生二九点の応募があり、合計一一九点が文集にまとめられました。

小学一年生から中学三年生までの作文に目を通してみると、コロナウイルスと戦って頑張って生活している様子がよく伝わり、心から感動しました。作文の題名が似ているものもありますが、読み進めていくと、子供達それぞれが感じたことや経験したことが自分の言葉で綴られており、改めて、子供達の力強さや逞しさを感じています。

長い人生の中で、このコロナ禍における暮らしぶりは、全ての人にとって心に深く刻まれた尊い経験です。この作文集が、今を生きた人々の資料集になればと願っています。

最後になりましたが、ご指導、ご協力くださいました先生方、保護者の皆様にお礼を申し上げ、発刊にあたっての言葉といたします。

目次

はしがき

小学校の部

【一年生】

コロナにまけないみんな	登立小	木むら こう	一
コロナをおいはらうほうほう	登立小	すぎき かえで	一
できないこともおおいけど	維和小	小林 ねね	一
コロナにまけない	上小	鬼塚 まおみ	二
一年生の生活をふりかえって	中北小	田ぞえ ふみ	二
「みてくま」でいのちをたいせつに	中北小	田ぞえ ふみ	二
学校が休みのときにおもったこと	中南小	あかまつ あんず	三
コロナについておもうこと	阿村小	石丸 心望	三
学校にいきたい	阿村小	福山 愛奈夏	四
なくなれコロナ	姫戸小	山口 はずま	四
	龍ヶ岳小	すぎた れのん	五

【二年生】

「コロナ」について思うこと	登立小	松山 みちる	六
コロナについて	登立小	森本 なこ	六
かわったこと	維和小	藤本 こうき	六
コロナたいさく	上小	尾石 わたる	七
コロナでかわったこと	上小	川端 もも	八
コロナに気をつけよう	中北小	宮本 京磨	八
コロナで思うこと	中南小	吉本 結香	八
コロナで思うこと	中南小	山下 大和	九
コロナウイルスかんせんしょうで思ったこと	中北小	宮本 京磨	八
わたしのいけんや思い	今津小	植盛 和奏	一〇
新しい当たり前	教良木小	大西 姫加	一〇
手あらいとマスクとコロナウイルス	教良木小	持田 美蘭	一一
早くコロナがおさまってほしい	姫戸小	白はま らいと	一一
新がたコロナウイルスについて思うこと	龍ヶ岳小	ひらもと きい	一二

【三年生】

こわい新型コロナウイルス	登立小	小川	将吾	一三
どうなるのコロナウイルス	登立小	杉田	ひな	一三
コロナウイルスについて思ったこと	維和小	岩本	煌生	一四
コロナウイルスで変わったこと	上小	坂井	美帆	一四
ふつうになったコロナ	中北小	濱崎	彩芭	一五
新型コロナウイルスがなくなっしてほしい	中南小	野口	あゆ	一六
コロナがかえたこと	阿村小	永木	蘭	一六
かわってしまった生活	阿村小	四丸	華帆	一七
学校、やっぱり楽しいな	今津小	兵藤	圭一朗	一七
不安だった休校中	教良木小	上村	愛	一八
新がたコロナウイルスに負けない	教良木小	柿原	美優花	一九
新型コロナウイルスがはじまってから	姫戸小	久保	一心	二〇
新型コロナウイルス感染症について考えたこと	龍ヶ岳小	浦中	ひさき	二二

【四年生】

みんなで助け合おう	登立小	山崎	心優	二二
たくさんの方々に感謝	登立小	山川	更紗	二二
友だちと思いつき遊びたい	維和小	田中	蓮音	二三
コロナでかわる世界	上小	小野	海璃	二四
コロナで変わった生活	上小	和田	凜由生	二五
新型コロナウイルスとぼくらの生活	中北小	関戸	晴登	二五
新型コロナウイルスとの生活で感じたこと	中南小	原田	愛心	二六
コロナウイルスには負けないぞ	中南小	佐藤	陽向	二七
地球への挑戦状を受けて 私が考えたこと	阿村小	太田	月	二八
私の頑張りたい気持ち	阿村小	福山	華里奈	二八
今までとちがう一年	今津小	泉田	莉汐	二九
新型コロナウイルスの生活	今津小	岡村	直	三〇
コロナのかんせんが広がって私が思うこと	姫戸小	池田	明日香	三一

すっかり変わった日本 龍ヶ岳小 梅田 優保 三三

コロナと闘う人々 龍ヶ岳小 濱崎 冴 三三

【五年生】

新型コロナウイルスへの正しい知識をもつ

登立小 丸山 莉菜 三四

コロナに負けない私たち 登立小 木下 心絆 三四

新型コロナウイルスから学んだこと

維和小 永松 璃杏 三五

あらためて気づいた家族の大切さ 上小 迫田 飛雅 三六

コロナウイルスと私達 上小 藤嶋 花 三六

コロナウイルスと私たちの生活 上小 尾石 愛呼 三七

今の生活 中北小 益田 紗英 三八

変わってしまった生活 中北小 濱崎 瑚汰 三九

新型コロナウイルス感染症に関する私の思い

中南小 大山 由莉 四〇

コロナウイルスに負けない 中南小 北岡 大知 四一

家族と会えて、学んだこと 阿村小 林 更紗 四二

コロナウイルスという壁 今津小 藤本 菜々 四三

忘れてはいけないこと 今津小 吉永 麻幸 四四

臨時休業期間中にやったこと 教良木小 田中 大揮 四五

新型コロナウイルスでの変化 姫戸小 楠本 夏希 四六

新型コロナウイルスが流行してから

龍ヶ岳小 林 伊織 四七

コロナに負けない 龍ヶ岳小 浦下 治也 四八

【六年生】

コロナに教えられた大切なこと 登立小 山下 泰輝 五〇

みんなが暮らしやすい社会をつくるために 登立小 澤田 みなみ 五〇

コロナウイルスの心配 登立小 平山 優斗 五一

みんなと元氣いっぱい遊びたい 登立小 杉本 憲二良 五二

自分にできることを 維和小 山崎 つくし 五二

うばわれたあたり前で幸せな生活 上小 西口 幸花 五三

コロナウイルスで変わった生活 上小 川端 竜平 五四

新型コロナウイルスでの生活の変化

上小 森 勇人 五五

世界を変えたコロナウイルス 中北小 長瀬 空 五六

コロナへの思い 中南小 丸山 倫嬉 五七

コロナ禍の中で考えたこと 湯島小 姫野 日恋 五八

新型コロナウイルスについて感じたこと

湯島小 古賀 楓 五九

新型コロナウイルスで変わった生活

阿村小 宮崎 未来 六〇

世の中を変えた新型コロナウイルス

阿村小 瀬崎 日南子 六一

新型コロナウイルスに思うこと 今津小 深谷 灯子 六二

コロナで変わった生活や想い 今津小 永野 杏奈 六三

変化した生活 教良木小 本瀬 寛朗 六四

新型コロナウイルスで変わった生活

姫戸小 坂田 香梨菜 六五

新型コロナウイルス感染禍の生活について

姫戸小 田中 絢菜 六六

新型コロナウイルス感染症への思い

龍ヶ岳小 野口 透也 六六

新型コロナウイルス感染症で変わったネット差別

龍ヶ岳小 平井 愛佑子 六七

中学校の部

【一年生】

今は我慢の時 大矢野中 二宮 心音 六九

新型コロナウイルスについて考える 大矢野中 辻本 新奈 七〇

休校中に頑張ったことを通して見えてきたもの

大矢野中 吉田 奈々美 七一

新型コロナウイルスを通して 維和中 山崎 歩大 七二

コロナの影響で変わった生活 松島中 福吉 真琴 七三

コロナ禍での学校生活 松島中 久保田 健人 七四

差別のない世界へ 姫戸中 藤川 栞名 七五

休校中の生活	姫戸中	山中	陽向	七六
コロナ禍で学んだこと	龍ヶ岳中	江口	結愛	七六

【一二年生】

新型コロナウイルスから学んだこと

新型コロナウイルスから学んだこと	大矢野中	川口	翔己	七八
できることからしっかりと	大矢野中	上田	夢来	七九

コロナ差別と私のクラス	大矢野中	林田	美月	八〇
新型コロナウイルスさんへ	維和中	小林	夕凧	八一

当たり前前の未来へ	維和中	山下	湧心	八二
コロナ禍の中で	松島中	池田	愛梨	八三

コロナと向き合う	松島中	山下	誓梨	八四
コロナ禍について	姫戸中	碓	尊将	八五

短かった夏休み	姫戸中	志水	冨	八五
---------	-----	----	---	----

【三年生】

感染症拡大で学び、気付いたこと	大矢野中	益田	叡一	八七
コロナ禍から学んだこと	大矢野中	浦上	歩夢	八八

コロナウイルスについて	大矢野中	坂田	崇光	八九
-------------	------	----	----	----

孤独という辛さ	大矢野中	千原	一斗	九〇
SNSを通して命について考える	維和中	池田	翔太	九一

今できることに思いを込めて	維和中	中村	ありさ	九二
新型コロナウイルス感染症について	湯島中	古賀	紅葉	九三

「コロナ差別」をなくすために	松島中	岡部	心美	九四
コロナウイルス生活の中で	松島中	本瀬	真誌呂	九五

休校でがんばったこと	姫戸中	花田	大樹	九六
新型コロナウイルスに負けない	姫戸中	齋藤	渉	九六

表紙題字	今津小	四年	山本	瑚々芭
表紙絵	維和中	一年	岩本	真央



小学校の部

【一年生】

コロナにまけないみんな

のぼりたて小 一年 木むら こう

ぼくが、いまがんばっていることはマスクをつけることです。きついでがんばっています。

二つめは、手あらいです。いつもやっています。

三つめはうがいです。うがいもいつもがんばってやります。

この三つをがんばったらコロナにならないです。はやくコロナがなくなつてでん車にのりたいです。そのためにこの三つをがんばります。

ここからきゆうきゆう車の人にお手が見えます。

「だいじょうぶですか。ぼくはげん気です。さいきんがんばっていますか。ぼくもコロナにまけません。だから、ぼくといいしよにがんばりましょう。」

コロナをおいはらうほうほう

のぼりたて小 一年 すぎき かえで

ぼくは、このまえ学校でほけんしつのでんせいで「きつと来てます大きくせん」をおしえてもらいました。べんきょうをして、いまぼくががんばっていることは、手あらい、うがいです。

手あらいは、せっけんをつけてあらいます。手のひらや「かめさんかめさん」をしてあらいます。それに「おやま」もしてあら

います。

「ぐじゅぐじゅうがい」もちゃんとしています。そして、さいごは、「ばいきんばいばい。」

そして、きゆうしよくたいむ。いつばいたべてコロナにまけないぞ。

できないこともおおいけど

いわ小 一ねん 小林 ねね

わたしは、学校がすきです。どうしてかというと、ともだちとたくさんあそんだり、できなかったことができるようになったりするからです。でも、しんがたコロナウイルスで、できなくなつたことがたくさんあります。

- ・ともだちのいえにいくこと。
- ・みんなとうたったり、けんばんハーモニカをひいたりすること。
- ・じゃんけんれつ車をすること。
- ・うんどうかいがみじかくなつたこと。
- ・きゆうしよくのときに、おしやべりすること。
- ・かぞくで、とおくにお出かけすること。

ほかにもたくさんあります。いちばんできなくてかなしいことは、ともだちにくついたり手をつないだりできないことです。できなくなつたことはたくさんあるけど、できるようになつたこともたくさんあります。友だちとちかづいてあそべないので、一人でできるなわとびやてつぼうのれんしゆうをがんばりました。なわとびは、休みじかんやたいいくのじかんにれんしゆうを

して、あやとびとこうさとび、うしろとびができるようになりました。もっとたくさんとべるようになりたいし、二じゆうとびもとべるようになりたいです。てつぼうは、ちきゆうまわりとさかあがりができるようになりました。クラスの中で、一ばんにできるようになったので、うれしかったです。

おかあさんやおとうさん、おじいちゃん、おばあちゃんはしごとがあるのであそべません。さいきは、おねえちゃんとわで、なわとびのれんしゆうをしています。はやくコロナウイルスがなくなつてもだちとおもいきりあそんでみたいです。

コロナにまけない

上小 一年 鬼塚 まおみ

コロナがはやって、いろんなぎょうじやいろんなことがなくなつて、やりたいことがやれなくなつた。たくさんの人がなくなつて、コロナがこわいびょうきだとはじめてしつた。手あらい、うがいやマスクを学校ですつとしないといけなくなつた。コロナにかかっている人々にめいわくをかけてしまつたらどうしようとおもつて、あまりそとに出ないようにした。早くコロナがおさまつて、まえみために、ふつうどおりに、今まで学校でできなかつたことがしてみたい。

けんばんハーモニカで、きれいなきよくをひいてみたい。えんそくで、みんなでわになつておべんとうをたべたい。

でも、いまはむりだ。

「ぼくはかんけいないや。」

「わたしはかからないからいいや。」

と、おもつたらだめだ。ゆだんをしてはいけない。そんなまい日がまだまだつづく。学校でがまんすることがもつとふえた。いつもだつたら、ぜつたいしないのに、たいいくのときもマスクをつけないといけないから、くるしくていやだった。それでも、そとで、みんなでたいいくができるのは、たのしい。コロナがおわつたら、おもいつきりやりたいことをたくさんして、ふつうにマスクをはずしてあんしんしたせいかつをとりもどす。これからも、コロナにまけないように、マスク、手あらいなど、じぶんでできることをみんなではげましあつてがんばる。

一年生の生活をふりかえつて

中北小 一年 田ぞえ ふみ

わたしは、にゆうがくするまえに中北小へひっこしてきました。しつている人がいなくてふあんだつたけど、ちかくに一年生のともだちがすんでいました。なんかいかいっしよにあそんでなかつたから、学校でもあそぶのをたのしみにしていました。でも、にゆうがくしてすぐきゆうこうになつてぎんねんでした。ほかのともだちとも早くなかよくなりたいたいとおもつていたけど、とちゆうびしかあえませんでした。えんそくやけんがくりよちゆうもちゆうして、たのしみなぎょうじがすくなくてかなしかつたです。プールやうんどうかいやじゅぎょうさんかんは、できてよかつたです。うんどうかい、おじいちゃんとおばあちゃんも見にきてくれてたくさんおうえんしてくれたから、とてもうれしかつたで

す。休みの日は、人がおおいところには出かけられないからすしかなしいけど、かぞくでこうえんに行つてあそんでいます。おとうとたちとボールやゆうぐであそぶのがたのしいです。まいとし、なつ休みはキャンプに行つていたけど、ことはコロナでいけませんでした。たのしみにしてたから行きたかったけど、らいねんは行けたらいいなと思います。

ようちえんのねんちようさんのとちゆうからずっとマスクをつけているからなれたけど、べんきようするときは、やつぱりマスクがないほうがいいです。ともだちとはなすときやはつびようするときはなしににくいからです。ともだちのこえがききとりにくいときもあります。そとであそぶときやきゆうしよくのときにはマスクをはずすけど、ついたりはずしたりするのはたいへんだしめんどろだとおもうことがあります。マスクをつけないふつうのせいかがはやくきてほしいです。二年生になったら、コロナがおちついて、もつとたのしい学校せいかつがおくれたらいいなとおもいます。

「みてくま」でいのちをたいせつに

中南小 一年 あかまつ あんず

「ともだちとあそべなくなるのはいやだな。」

「おじいちゃんやおばあちゃんがコロナにかんせんしないかしんぱいだから気をつける。」

と、学校でともだちがいつていました。わたしは、しんがたコロナウイルスかんせんしようがはやってからかぞくでそとに出か

けることがすくなくなりました。学校で友だちともあそぶことがあるけれど、マスクをして気をつけてあそぶようになりました。どうとくのじゆぎようでいのちをまもるべんきようをしました。じゆぎようのさいごに、いのちをまもるためにじぶんたちが気をつけることをだしあいました。ふしんしゃやこうつうじこ、かじ、じしん、びようきがありました。かぞくは、じしんやかじやじこからわたしをまもつてくれるけれど、しんがたコロナウイルスは小さいから、じぶんでいのちをまもるしかないとおもいました。

わたしのゆめは、ドクターヘリのかんごしになつてケガをした人をたすけることです。このゆめをかなえるためにも、じぶんやまわりの人たちのいのちをまもるためにも、(み)みつをさける、(て)手あらいが、(く)くうきのいれかえ、(ま)マスクちやくようの「みてくま」をしつかりしていきたいです。

学校が休みのときにおもつたこと

阿村小 一年 石丸 心望

わたしは、学校が休みのとき、どうしてしゆくだいがたくさんあるんだろとおもっていました。学校にきて、そのりゆうがわかりました。学校ではたくさんのことをべんきようします。だから、そのぶんをおうちでがんばらないといけないからなんだとおもいました。

学校がお休みのときは、はやく学校にいきたい気もちだったけど、がんばったこともあります。それは、なわとびです。な

わとびは、からだもうごかすし、じょうずになりたかったのがんばりました。

そこからかえったら手あらいうがいもしつかりました。手あらいうがいをしないと、ウイルスがとれないから、じぶんもみんなもびょうきにならないようにがんばりました。

ながい休みのあと、学校でみんなとあえたからうれしかったです。わたしは、いろいろなことをおぼえるのがたのしいです。みんなといっしょにどんどんべんきようをすすめたいです。べんきようをたのしみたいです。はやくコロナウイルスがおさまってほしいです。コロナウイルスがおさまったら、きゅうしよくとうばんのおしごとをしたり、みんなとそとでたのしくおにごっこをしたりしたいです。

コロナについておもうこと

阿村小 一年 福山 愛奈夏

わたしが入学してから、しんがたコロナウイルスのえいきょうでちゆうしになってしまふぎようじがたくさんありました。しんがたコロナウイルスがやりだしてから、学校にもあまりいけませんでした。

六月からやっと学校がはじまって、いけるようになりましたが、しんがたコロナウイルスはそれからだんだんひろがっていききました。

テレビを見ていたら、いろいろなところでコロナウイルスにかかってしまう人がおおくなってきたからしんぱいになりました。

た。わたしのともだちは、かかった人はいけません。でも気をつけないと、いつ、どこで、だれがかかってしまうかわからないとおもいます。

だからこれからも、マスクをはめたり、しょうどくしたりしていかないといけないとおもいます。

学校にいけるのは、うれしいし、たのしいです。よぼうをしつかりがんばって、これからもみんなでのしくすごしていきたいです。コロナがおさまったら、もつといろいろなべんきようをしたり、みんなであそんだりしたいです。お出かけもできるといいとおもいます。

学校にいきたい

姫戸小 一年 山口 はずま

ぼくは、四月に一ねんせいになりました。学校に行くのがたのしみで、どきどきしていました。でも、学校にいけませんでした。日本にコロナがひろがったからです。

四月から学校でみんなとべんきようをするはずだったけど、できませんでした。

いえでひらがなとすうじをかいてべんきようしました。バッテリーやブレイブボードをしてからだをうごかしました。

くるしいけど、マスクをまいにちしました。手あらいうがい、かおあらいうがい、しょうどくをしました。

六月に学校へいけるようになりました。みんなでべんきようが

できるようになりまして。こくごとさんすうをしました。たいいくでからだをうごかしました。

学校がたのしいです。学校にいたらすぐにしようどくをします。そこからかえってきたら、手あらい、うがいをいつもしています。

マスクはくるしいし、手あらい、うがいはたいへんだけど、コロナにならないようがんばります。学校にいけないからがんばります。

なくなれコロナ

龍ヶ岳小 一年 すぎた れのん

しんがたコロナウイルスがはやってきてから、わたしがせいかつの中で気をつけていることがいくつもあります。

- ・かならず手あらい、うがいをすること。
- ・いつもマスクをつけておくこと。
- ・あまりお出かけをしないことです。

まいにち、がんばっています。

このまえ、しんがたコロナウイルスになった人にわる口をいったり、うわさばなしをしたりしている人がいると、せんせいからおしえてもらいました。わたしは、それをきいて、ぜったいにしてはいけないことだとおもいました。そうしないと、人の心がきずついたり、なきたくなったりして、いやな思いをかかえてしまうからです。ぜったいにやめてほしいです。

わたしは、しんがたコロナウイルスがなくなったときに、やってみたいことがあります。それは、かぞくみんなでどうぶつえんに行くことです。これまでがまんしていたので、かぞくみんなでおもいきりお出かけをしたのしみたいです。わたしは、とくにうさぎにあいたいです。

早くしんがたコロナウイルスがなくなって、まえみたいな、たのしいまいにちにもどってほしいです。

【二年生】

「コロナ」について思うこと

登立小 二年 松山 みちる

今、せかい一はやっている「コロナウイルス」というきけんなびょうきでたくさんの方がなくなっています。だから、「コロナウイルス」にかからないようにすることが四つあります。

一つ目は、手あらい・うがいをすることです。

二つ目は、しょうどくをします。

三つ目は、はやね・はやおきをすることです。

さいごは、「マスク」をすることです。

今、わたしが書いた中で一ばん大切なことがあります。それは、さいごの「マスク」です。ほかのも大切だけど「マスク」がなかったらもつとたいへんです。なぜかという、ほかの人のだえきが自分にかかるからです。だえきが人にかかると、体の中でたいへんなことがおこるかもしれないからです。だから、ちゃんと「マスク」をしなきゃいけないんです。

もし、わたしが「コロナウイルス」にかかったら、まわりの人に、めいわくをかけてしまうから、きちんと「マスク」をしてすごしたいです。

コロナについて

登立小 二年 森本 なこ

わたしは、コロナがはやってなかったとき、二〇二〇年は楽しいとおもいました。だけどコロナは、つぎつぎに人をおそいました。だからかいものに行くときは、マスクをしていかないといけませんでした。

中には、マスクを二じゅうにしている人もいました。

それは学校もでした。でもそれは、あたりまえのことでした。学校の中にもマスクを二じゅうにしている子がいました。それは、ぜったいにコロナにまけたくないからだとおもいます。

わたしは、スポーツをならっています。わたしは、コロナのせいでスポーツをするときマスクをしなければならなくなりました。それはくるしいです。だけど、みんなのためにがんばらないといけないんだとこらえながらやっています。

わたしは、てんまんぐうに行きました。てんまんぐうでこうねがいました。

「どうか、コロナがおさまりますように。」

コロナがおさまってほしいです。

かわったこと

維和小 二年 藤本 こうき

新がたコロナウイルスがはやるようになって、一番かわったことは、毎日マスクをはめないといけなくなったことです。マスクをつけないとお店に入れないし、友だちともしゃべったりできない

くなりました。体をうごかすことが大すきだけど、体いくのときもマスクをしないといけないので、いきがきれたり、くるしくなったりしてしまいます。今、なわとび大会にむけてれんしゅうをしています。一分間で何回とべるかを数えるときは、すぐにいきがくるしくなるので、「きついな。」と何ども思います。

マスクはさいしょ、あまりつけたくなかったけど、だんだん慣れてきました。くるしいし、かおも見えないからすきじゃなかったけど、マスクをしていても、声や目で友だちがどんなかおをしているかがわかるようになった気がします。それに今年は、インフルエンザにかからなかったし、かぜにもかかりませんでした。それは、マスクのおかげかなとおもいます。

休みの日のあそびもかわりました。一年生のときは、ちかくの広ばで、お兄ちゃんやお姉ちゃん、ちかくの友だちと七人くらいあつまって、かんけりなどをしてあそんでいました。でも、今はあつまってあそべないので、家の中でゲームをしてあそんでいきます。外であそぶのも家の中であそぶのもどっちもすきだけど、やっぱりみんなとあそべるようにりたいです。

新がたコロナウイルスで、かわったことも多いし、できなくなったりすることも多いです。早く友だちとマスクなしであそべるようになりたいけれど、それまでは手あらい、マスク、アルコールをしてよぼうしていききたいです。

コロナたいさく

上小 二年 尾石 わたる

ぼくの学校では、コロナたいさくのため、いろいろなことがありました。

一つめは、コロナにならないようにながいお休みがあったことです。いつもはお休みがうれいけれど、このお休みは、みんなにも会えなくて、いやな気持ちになったお休みでした。

二つめは、シールドをつかっていることです。シールドは黒ばんの字が見えにくくて、とてもつかいにくいんです。だけど、友だちにつばがとばないように、がまんしてつかっています。

三つめは、かく学年でわかれてベンきょうしていることです。2年生は、2年教室と5年教室をつかってベンきょうしています。タブレットで5年教室を見ながらベンきょうしました。

次は、どんなコロナたいさくがあるかふあんです。そして、学校でコロナがでないかが一番のふあんです。早くコロナをやっつけるくすりを作ってほしいです。それまで、手あらい、うがいなどをがんばります。

コロナがなくなったら、みんなといっしょにたくさんベンきょうしたいです。休み時間には、かくれんぼやおにごっこなどをして、走り回ったり大きな声を出してわらったりしたいです。そして、家ぞくみんなで、おんせんに行ききたいと思います。

コロナでかわったこと

上小 二年 川端 もも

わたしは、休校中に思ったことがあります。それは、コロナがひろがっていくと、休校が長びいて、学校に行けなくなってしまふのではないかということです。

三学きになって、学校での過ごし方がかわりました。教室が二つにわかれてしまったので、友だちに会えなくなってしまいました。会えるのは、昼休みだけです。きゅうしよくの後にしか会えません。とてもさびしいです。

べんきようのし方もかわりました。べんきようするときは、みんなでべんきようするときでも、タブレットをつかってべんきようすることが多くなりました。前を見ることが少なくなったので、友だちや先生の顔があまり見えなくなりました。

休みの日は、家にいることが多くなりました。家ぞくみんなでお出かけすることも、ほとんどなくなりました。

コロナがなくなったら、みんなであつまって、話し合いなどをしながらのしくべんきようしたいです。休み時間には、クラスのみんなど、こおりおにやかくれんぼをして、思い切りあそびたいです。

そして、お出かけができるようになったら、えいがかんに行つて、いろいろなえいがをみてみたいです。また、おばあちゃんに会いに、家ぞくみんなであまみにりよこうに行きたいです。

コロナか、はやくおわつてください。

コロナに気をつけよう

中北小 二年 宮本 京磨

ぼくは、コロナやかぜにかからないように、外から帰ったときに、いつも手あらい、うがいをしています。どうしてかというとおやつを食べるときに手をあらわなかったら、ばいきんが手から口の中に入ってきて、朝おきたらコロナやかぜになるかもしれないからです。ばいきんが口の中に入る前に、手あらいとうがいをしっかりとすれば、コロナやかぜにかかりにくくなります。

ぼくは、自分で「手あらいの歌」をつくれれば、もつと手あらいが大すきになると思います。自分でつくるのがたいへんな人は、学校に手あらいの歌があるから、それをまねして歌いながら手あらいをすればいいと思います。

たくさんの方が手あらいとうがいがじょうずになって、コロナにかからないように気をつければ、いつかコロナがなくなると思えます。早くその日がきてほしいです。その日まで、ぼくは毎日手あらいとうがいをがんばります。

コロナで思うこと

中南小 二年 吉本 結香

コロナであそべないし、人はなくなるし、コロナウィルスは見えないし、今、だれかがかかるかもわからないし、いやなことが多い。くま本の友だちん家に行けないからさびしいし。ほかにも、くつついてあそんで、みつ（密）になると、先生から、

「そこ、みつ。気をつけて。」

つてちゅういされて、
「あつ、そうだった。」

とみんなで言つてはなれます。つばがマスクのあいだからとぶか
もしれないから大へんです。

ママがコスモスでしようどく(薬)を買いに行ったら、しよ
どく(薬)がなかったそうです。

コロナにかからないように、手あらい、うがい、しよどく、
体おんをはかる、マスクをつける、三みつをさけるを学校でして
います。家では、マスクと三みつをさけるはしていないから、こ
れからはしたいと思います。

コロナがおさまったら、友だちん家であそびたい。クレアに行
きたい。公園に行きたい。先生にだきつきたい。えい画かんに行
きたい。三みつになりたい。

さいごにコロナに言いたいこと。コロナはなくなってほしい。
みんながコロナで大へんだよ。コロナのせいで人がなくなつたよ。
しむらけんさんやゆう名な人もなくなつたよ。コロナのせいで何
もできない。

「コロナ早くいなくなつてよー。」
がまんすることもないっばいあつて、いやだけど、コロナにはま
けない！

コロナで思うこと

中南小 二年 山下 大和

いやなことは、ちよつとねつを出しただけで、コロナとうたが

われる。せきをしただけでコロナとうたがわれること。マスクを
はめないと店にいけないこと。いろんなところに行けないこと。
くつつけないこと。でかい声を出したらだめなこと。

コロナにかからないように、マスクをする。手あらい、うがい
をする。しよどくをする。体おんをはかる。三みつにならない。
かん気をする。はなまでマスクをする。いろんなところに行かな
い。

コロナがおさまったら、クレアに行きたい。えい画を見に行き
たい。ゲームセンターに行きたい。グリーンランドに行きたい。
ガチャガチャの森に行きたい。ポケットモンスターココを見に行
きたい。

さいごにコロナに言いたいこと。
「コロナ早くおさまれー。」
「コロナ、パワーアップするなー。」
「コロナのせいでたくさん人がなくなつたんだぞ。」
がまんすることばかりで、いやだけど
「コロナにはまけないよ！」

コロナウイルスかんせんしようで思つたこと

阿村小 二年 永野 和奏

わたしがかよっている阿村小学校は、コロナウイルスかんせ
んしようのかんけいで、四月から五月まで長い間休校になりま
した。休校中は、学校のじゅぎよう時間にあわせてしゅくだい
をしました。わたしは、時計を見ながら一時間目、二時間目と

いうふうにやっていきました。みんななかなかできなかったと言う人がいましたが、わたしは、がんばって計画どおりやっていけました。

休校の間は、どこにも行けず、友だちにも会えずいやでした。学校に早く行きたいと思っていました。

コロナウイルスのことをくわしく知ったときは、こわいなと思いました。出かける時は、マスクをして、帰ってからはい、手あらい、手のしよどくをちゃんとして気をつけています。

時がたつにつれて、日本のコロナウイルスかんせんしやがふえてきています。上天草市でも、少しづつかんせんしやが出ています。前よりもっとコロナかんせんしやがみ近になり、こわいと思います。

わたしは、ほかの人からかんせんしたくないし、ほかの人にかんせんさせたくありません。だから、今までよりもっと気をつけていきたいと思います。

まわりの人もお出かけをへらして、早くコロナウイルスかんせんしやがおさまってほしいです。そして、家ぞくみんな、何も気にしないでお出かけする日が来てほしいと思います。

わたしのいけんや思い

今津小 二年 植盛 和奏

わたしは、新がたコロナウイルスがなくなることをねがいます。

本当は、マスクをつけることは、わたしはいやです。体育をしたあとにマスクがあると、いきをするのがきつくなります。でも、自分や家ぞくがウイルスにかからないためにも、マスクはぜったいにしなないといいません。

ほかにも、こまったことがいろいろあります。手あらいがいは、休み時間に、外に行っても行ってもいなくてもしなないといいません。毎回するのはたいへんだけど、手あらいもうがいもぜったいにしなません。

コロナウイルスは、いつかぜったいなおるとねがいます。前みたいに楽しいこととかをしたというゆめは、かなわないから、今はかんせんよぼうをまもります。それが自分や家ぞくをまもるほうほうだと思います。

コロナウイルスにかからないためには、このほうほうしかないので、さいぜんせんでとりくんできこうと思います。

ぜったいにかからないように、ぜったいマスクをはずしたり、手あらいがいをしなかったりなんてしません。

新しい当たり前

教良木小 二年 大西 姫加

新がたコロナが始まってから、今まで当たり前のことが、当たり前ではなくなっただけだと思います。たとえば、マスクをつける、手のしよどくをするなど、今では当たり前になって、マスクなしではお店に入れなくなりました。お店の人がマスクをしていない人にちゅういをしているのを見たこともあります。

お母さんが買い物に行く時、前はいつしよに行っていたのに、今は家に帰ってくるのを待っていて、なんだかさびしく思います。

それから、前は外に食事に行くこともあったけど、今はなるべく行かないこととなり、少しぎんねんな気持ちになります。新しい当たり前は、あまり好きになれません。

わたしのおばちゃん、赤ちゃんをうみました。赤ちゃんは、おばあちゃんの家にはいます。おじいちゃん、おばあちゃん、おばちゃん、赤ちゃんが新がたコロナウイルスにかからないように、わたしたちは見に行くことができません。赤ちゃんをだつてできないことが新しい当たり前にならないように、新がたコロナウイルスがいなくなるように、だれかやつつけてください。正月のじんじやでおみくじをひきました。わたしは、大吉だったので、新がたコロナウイルスを大吉パンチでやつつけてやろうと思います。

新がたコロナウイルスが広がってちよつぱりよかつたことは、お父さんの仕事が休みになって、いつしよに家で遊んだことです。

今年のお正月は、ほとんどどこにも行けなくて本当にぎんねんでした。何もなくてつまらないと思つたけど、兄ちゃんたちとパウンドケーキ作りをしたことが、冬休みの一ばんの思い出です。

わたしもみんなと同じで新がたコロナウイルスがいるからこまっています。でも自分ができることはしっかりやろうと思えます。

手あらいとマスクとコロナウイルス

教良木小 二年 持田 美蘭

新しい年になつても、まだまだつづく新がたコロナウイルス。テレビのニュースで、新がたコロナウイルスのことが毎日ほうそうされています。

学校では、マスクをつけて、休み時間にはせっけんで手をあらいまふ。教室に入るときは、かならずしよどくをします。給食の時は、マスクをはずして食べます。食べ終わつたら、またマスクをつけます。じゆぎょう中もかならずマスクをつけています。マスクをはめると、あつくていきぐるしいときもあります。音楽のじゆぎょうのときに、マスクをつけて歌を歌うのでマスクがしめつてしまひます。

お店の入り口にも、かならずしよどくえきがおいてあります。おきやくさんも手をしよどくして、マスクをつけています。いろんなぎょうじが中止になつたり、楽しみにしてたことがたくさん中止になつたりして、家ですごすことが多くなりました。

新がたコロナウイルスがおさまつたら、友だちとたくさんあそびたいです。

早くコロナがおさまつてほしい

姫戸小 二年 白はま らいと

ぼくが一年生のおわりぐらいから、コロナが大りゆうこうしたので、学校が休校になりました。

学校でべんきょうしたり、ともだちとあそんだりできなくなりました。

そして、手あらいやマスク、しょうどく、うがいをたくさんするようになりました。

はじめは、なんでこんなことするのかとか、ちよつとめんどうさいなとかおもっていました。だけど、二年生の二学きから、あたりまえにできるようになりました。

ニュースを見て、コロナで人がなくなっていたり、天草でもかかった人がでたりしていたから、手あらい、うがい、マスク、しょうどくは、だいじだなと思いました。ぼくは、人がいっぱいいるところにはあまりいかないようにきをつけています。

まだまだコロナがおさまりません。これからも、手あらい、うがいなどをつづけたいです。そして、早くコロナがおさまってほしいです。

新がたコロナウイルスについて思うこと

龍ヶ岳小 二年 ひらもと きい

新がたコロナウイルスが広がってきからわたしたちの生活はかわってきました。

- ・ 友だちとあまりあそべなくなったこと
 - ・ 人ときよりをとらなければいけないこと
 - ・ 一日中、学校でもマスクをつけてすごさなければいけないこと
 - ・ 学校が休みになったこと
- さいしよは、マスクをつけて生活したり、友だちともきよりを

あけてべんきょうしたりすることになれなくてこまった時もありました。けれど、新がたコロナウイルスから家ぞくや友だちをまもりたいと思ったのでマスクをつけることもがまんしました。

新がたコロナウイルスになった人へのわる口やうわさ話をする人がいて、いやな気もちになっている人がいることを先生から教えてもらいました。私はそれを聞いて、わる口を言っている人たちが、もし新がたコロナウイルスになった時にわる口を言われてもいいのかなと思いました。

また、ニュースなどでは、びょういんやおとしよりがいるしせつではたらいっている人がおせわをするのにとてみたいへんになったと言っていました。

さいしよは、びょう気もすぐにおさまるだろうなと思っています。でも一年ちかくもはやっています。小さい妹にうつつたらどうしよう。家ぞくにうつつたら、どうなるんだらうと、私はふあんになりました。新がたコロナウイルスは、もう広がってほしくありません。

新がたコロナウイルスがなくなった時にやりたいことが三つあります。

- 一つ目は、遠いところの家にあそびに行くことです。
 - 二つ目は、家ぞくみんなでいろいろなところへ行き、お買い物をする事です。
 - 三つ目は、休み時間や昼休みもマスクをせずにみんなとおしゃべりをしたり、たくさんあそんだりすることです。
- 早く新がたコロナウイルスがなくなってほしいです。

【三年生】

こわい新型コロナウイルス

登立小 三年 小川 将吾

ぼくの学校は、三月、四月、五月はコロナでりん時休校でした。そして、べん強はおくれました。そのため、夏休みは短くなって、いつもはない秋休みも今年はあり、いつもとはちがった生活でした。

一年生は、入学式はいつも二年生から六年生がいるけれど、今年是一年生とそのほご者の人だけで入学式をしました。一年生は、二年生から六年生がいなくてかわいそうでした。

きんきゅうじたいせん言を国が発動して、いったんはあまり感せん者がいなかったけれど、きんきゅうじたいせん言がかいじよされたら、また感せん者がいっぱいふえてきました。さらに、外出自しゆくも発動されました。でも、ぼくは感せん者がすでにいっぱい出ている中で、コロナウイルスはもうおさまらないと思っていました。いつか自分も感せんするかもと不安でした。でも、手洗い・うがい・アルコールをしっかりと、マスクもしていたらいいとわかって、少し安心しました。

また、早ね早起きをして、ご飯をいっぱい食べれば、体も強くなっているといいと知りました。

今、日本全国や全世界でも、まだまだ感せん者はふえています。コロナウイルスは、一人が感せんしたら何人も感せんする病気です。クラスターもたくさん発生しています。だからこ

そ、めんえき力をしっかりとつけて、感せんしないようにがんばりたいです。

来年は、今年みたいに、いろいろ不安な気持ちやかなしい気持ちにならないように、今よりもっと気をつけていき、ワクワクができるまでみんなががんばっていきたいです。

どうなるの新型コロナウイルス

登立小 三年 杉田 ひな

わたしたちの学校は、きよ年の三月から五月くらいまでお休みになりました。学校のべん強はおくれ、夏休みは短くなり、どこにも行けなくなりました。みんな同じじょうきょうで、同じ気持ちとわかっていても、がまんでできなかったです。

けれど、りん時休校も終わり、ふたたび学校生活が始まりました。一番心配だったのは、わたしの弟のことです。弟は、今年から一年生で、四月から学校に入ってきました。一年生で、まだまともにべん強ができない上に、だれもいない入学式がすぐくつらいのが分かりました。

お父さんやお母さんの仕事もつらくなるばかりで大へんだったと思うけど、わたしたちのために一生けんめい働いてくれています。お父さんやお母さんのおかげで、少しずつ楽しくすごすことができますようになりました。次、いっどんなじょうきょうになってもおかしくないので、少しでもお父さんやお母さんを助けたいと思いました。

そして、一番大へんな思いをしているのはお医者さんだと思

ます。コロナにかかった人をみたり、なおしたりしているお医者さんが一番かんせんしやすいと思います。つらい中、いつもがんばってくれてありがとうございます。

わたしたちが、いつかんせんするかもわかりません。どんなに気をつけていても、かんせんする時にはかんせんすると思います。だから、家にいやがらせのはり紙をはったりすることや、「コロナだろ。」と言って、相手をきずつけることは、ぜったいにやるべきではないと思います。

今は、おじいちゃんやおばあちゃんにまともに会うことはできないけれど、これからも気をつけて生活をして、早く会えるようになりたいです。

そしてさい後に、学校をさい開してくれた方々には、本当に感しゃの気持ちでいっぱいです。毎日、学校で友達と会うことや、べん強をすることができて、本当にうれいしいです。

いつマスクが外れるかわからないし、ふつうの楽しい生活がくるのかもわからないけれど、これからもコロナの生活の中で楽しく生活が送れるように、毎日をすごしていきたいと思ひます。

コロナウイルスについて思ったこと

維和小 三年 岩本 煌生

ぼくは、学校でいろんな行事がなくなったり、えんきになったことがいやです。わけは、楽しみにしている行事がなくなったり、えんきになったりするの、うれしくないからです。うれしくないことは他にもあります。それは、友だちと近づいて遊べないこ

とです。コロナウイルスがなかったときは、近くで遊べたけど、コロナウイルスが出てからは、いっぱいふれあったり、近くで話したりできなくなりました。また、じゅぎょうのときは、2メートル間をあけて座らないといけなくなりました。分らないことがあつたとき、前は友だちにすぐに聞けていたけど、今はできなくなりました。遊びもべんきようも、ともだちといっしょがいいなあと思ひます。そつちの方が楽しいです。だから、一秒でも早くコロナウイルスがなくなつてほしいです。

また、病院やかいごしせつで、コロナウイルスをなおすためにがんばつている人たちがいるということを知りました。でも、その人たちに差別をしている人もいるということを知つて、やめた方がいいと思ひました。病氣の人を一生けんめいなおそうとしてるからです。

ぼくは、これから大きい病氣のない世界にしていきたいです。わけは、コロナウイルスだけじゃなくて、他のこわい病氣もあるし、新しい病氣がでてきたら、世界がもっと大変になるからです。でも、今はやつぱり、コロナウイルスが一番なくなつてほしいです。そして、コロナウイルスがなくなつたら、友だちと近づいて遊びたいです。

コロナウイルスで変わったこと

上小 三年 坂井 美帆

コロナウイルスが出てから、いつもの生活、いつもの学校の勉強などたくさんのが変わつてしまいました。これまでの生活

で、マスクをこんなに長くつけたこともありません。

学校も長い間、休みになりました。学校が始まったときは、とてもうれしかったです。でも今まで通りではありません。音楽の授業では歌も歌えなくなりました。休み時間も今までのように遊べません。さんねんです。学級のつくえにはシールドがつけられて、何もかもが変わってしまったのだと思いました。マスクをつけているので、みんなの笑顔も見えづらくなりました。本当に悲しいし、こんなことになるとは思っていませんでした。

コロナウイルスというものが出てきて、世界中のみんなが悲しそうな顔をしています。毎日ニュースで、コロナに感せんした人の人数を聞くのが、とてもつらいです。そして、かかった人にさべつをしている人がいるというのも聞いて、心がいたいです。病院の先生やかんごしさんたちが、一生けんめい手当てをしているというニュースも見ました。

今、学校の間みんなも、友だちも、家族も、世界中の間みんなも、つらい気もちだと思えます。だから今、私はみんなの笑顔が見たいと思っています。

コロナが終わって、マスクをはずしたとき、たくさん笑って、みんなで歌いたいです。そのためにも、あと少し、コロナが終わるようにがんばります。がまんでできるところはがんばります。コロナが終わるのをねがって、がんばっていききたいと思えます。

ふつうになったコロナ

中北小 三年 濱崎 彩芭

わたしが外で遊んでいると、お母さんがわたしをよんだ。「なに。」

と言いながらお母さんのところへ行ってみると、お母さんはテレビを見ていた。わたしもテレビを見ると、志村けんさんがなくなっていた。それがわたしにとって心にささった出来事だった。志村けんさんがなくなると何ヶ月かたって、また、コロナのニュースが出ていた。それを見ると、一人ではなく、何百人の人が一日になくなられていた。

「どうしてこんなに死者が出るのか。」

と思い、考えてみた。すると、理由が分かった。それは、健康だった人が、あまり何も考えずにスーパーや外に出ていたからだ。久しぶりに学校へ行くと、ルールがかわっていた。友だちとくつついてはいけな、給食時間にしゃべってはいけな。いろいろとルールが追加されていた。二週間ぐらい学校が休みになった。宿題も早くおわって、何をしようか考えた。できることは全部したし、もうすることがなくなつた。みんなと遊べなくなつてかなし、さびしい。

そして、ようやく学校がはじまった。また何ヶ月かたち、今になってみると、コロナがふつうになった。それがいやでいやでしようがなかった。コロナがふつうになった今、わたしは、いろいろとがんばっていることがある。それは、手洗い、うがいを毎日すること、バランスのいい食事をする、体を動かすこと。これでわたしは、コロナに負けないような体をつくっている。

新型コロナウイルスがなくなってほしい

中南小 三年 野口 あゆ

新型コロナウイルスが広がって、りん時休業になりました。その間、外にも出れず、学校から出されたしゅく題や家の手伝いなど、家の中でできることしかできませんでした。でも、家の中にずっといると体力がなくなるので、家の前でなわとびをしたりして、運動もしました。なわとびをしている時はとても楽しかったです。でも、一人でなわとびをしながら、わたしはこんなことを思いました。

「学校に行つて、三年生や学校のみんなと遊びたい。」
ふつうに学校があつている時は、たまに休みたいなと思つたこともありました。でも、ずっと休みが続いている時には、早く学校に行きたいなと思うようになりました。みんなと早く会つて話したり遊んだりしたいという思いが強くなって、学校つていいなと思いました。

新型コロナウイルスが広がってからは、いつもとちがう生活をするようになりました。例えば、外に出るときにはかならずマスクをしたり、外から帰ってきたら、手洗いうがいやしょうどくをするようになりました。ですが、マスクをするのはとても苦しいです。だけど、コロナウイルスをさけるためにもマスクを外すことはできません。学校でも、朝から帰る時まで、マスクを忘れずにつけています。外したいと思うこともあるけれど、自分が感ぜんしないように、みんなにうつさないようにと思つて、ずっとマスクをつけています。手洗いうがい、しょうどくも忘れずに行います。これからも続けて、ぜつたい新型コロナウイルスに感ぜ

んしないようにしたいと思います。

今も、新型コロナウイルスが広がっています。これから、感ぜんよぼうをしつかりとして、元気で明るい生活をしていきたいと思ひます。早く新型コロナウイルスがなくなってほしいです。元の生活ができるようになって、みんなが明るい生活を送つてほしいです。

わたしのいとこが、オーストラリアにいるので、またひこうきで日本に来て、いつしよに遊んだり、おばあちゃんの家にとまつたりして、楽しくすごしたいです。

新型コロナウイルスが早くなくなって、世界中のみんながえ顔で、明るい生活ができることをねがっています。

コロナがかえたこと

阿村小 三年 永木 蘭

コロナがはじまる前のときには、みんなが話しながら、きゅう食を食べたり、旅行をしたりして、とても楽しい毎日でした。学校でも、みんながバイキングをしたり、家族で外食がたくさんできたので、とても楽しかったです。

マスクもつけなくてよかつたので、苦しくなかつたです。
しんがたコロナウイルス感せんしよが大流行してからは、マスクの着用・手あらひ・うがい・アルコールしよどく・三みつをさける・ソーシャルディスタンスなど、色んなことを気をつけないといけなくなりました。きゅう食のときも、すぐ近くにいるのに、話せないから、悲しいし、さびしいです。

他にも悲しいことがあります。前までは、たくさん家族と旅行に行けていたのに、しんがたコロナウイルス感せんしようがはやってからは行けないし、マスクを毎日つけないといけなくて、いきがなんだか苦しいし、友だちの顔もよく見れないので、悲しいです。

まだ、コロナがはやっているので、かからないために、手あらいうがい・アルコールしようどく・三みつをさける・ソーシャルディスタンスに気をつけて毎日すごしたいです。

とくに、学校では手あらいうがいとアルコールしようどくを気をつけて、元気にすごしたいです。

かわってしまった生活

阿村小 三年 四丸 華帆

はじめて日本で、新型コロナウイルスがかくにんされてから一年がたちますが今も毎日ニュースや新聞でしんきかんせん者や重しよう者や亡くなる方がふえてとてもこわい毎日がつづいています。りんじ休校期間は、最初のころは、学校がお休みになつてうれしい気持ちもありました。でも休校期間がのびて、なかなか学校に行けない不安があったり、友達に会えなくてさびしくなりました。

学校がさい開して、学校での生活もかわりました。学校生活でかわったことは、いつでもマスクを着用することや、外や体育館から帰ってきた後、こまめに手あらいをすることです。

全学年での集まりも少なくなり、音楽室で歌う時もマスクをつ

けています。前までは、たのしくおしゃべりをしていたきゆう食も、今はしずかに食べています。

家族でかわったことは、家ですごすことが多くなり、旅行に行けなくなったことです。

私は、目に見えないコロナウイルスのきようふが毎日とてもあります。

私のしよう来のゆめは、キャビンアテンダントになることです。今は海外に行ったり、旅行に行ったりする人もほとんどいません。だから今はたらいっているキャビンアテンダントの人たちは、仕事へって、とてもしんばいです。

コロナウイルス感せんしようが早くしゅうそくして、前のような生活がしたいです。

三みつをさける。手あらいうがいをする、マスクを着用する、私にできることを心がけていきたいです。

学校、やっぱり楽しいな

今津小 三年 兵藤 圭一朗

「早く学校行きたいなあ。」

新型コロナウイルス感染症予防のための長い休校期間中、ぼくは毎日そう言っていました。

学校に行けば友達といっしょに勉強したり、いっぱい遊んだりすることが出来ます。大好きな給食も食べられます。それが、全く出来なくなりました。

学校でもらったプリントを家でがんばっていたけど、一人で勉

強しても、あまり楽しくありません。学校の授業で友だちの考えを聞いたり、自分の考えを発表したりする方が、百倍楽しいです。一人でゲームをして遊んでいたけど、学校で友だちと遊ぶ方が千倍楽しいです。

そんなことを考えながらすごしていました。何日か登校日があったけど、六月一日、待ちに待ったふつうの学校生活が始まりました。

でも、思っていた学校とはだいぶちがいました。いつもマスクをつける、友だちときよりを空ける、休み時間は毎回手洗い・うがい・消毒をする、給食は前を向いてだまって食べるなど、色々な決まりがふえていました。

でも、やっぱり学校は楽しいです。

それからは、運動会の種目が少なくなったり、お弁当がなくなったり、見学旅行がなくなったりして楽しいことがどんどん減っていきました。

でも、みんなといっしょにすることはやっぱり楽しいです。

今も色々な決まりがあるけど、きちんと守って、もう休校にならないようにしたいです。

ぼくのお母さんは、保けん所ではたらいしています。夜おそく帰ってきたり、お休みの日にお仕事に行ったりして、コロナ予防のお仕事をがんばっています。その分ぼくも、予防をがんばって、毎日元気にすごしたいです。

早く新がたコロナウイルスがおさまって、マスクなしで友だちと勉強したり遊んだり、たくさんの行事にさんかしたりしたいです。早くそんな風になるといいなと思っています。

不安だった休校中

教良木小 三年 上村 愛

きよ年の三月に、とつぜん学校が休校になりました。理由は、新がたコロナウイルスでした。

さいしよのうちは、新がたコロナウイルスの事をよく知らないし、しばらく休んだらすぐに学校が始まると思っていて、少しわくわくする気持ちもありました。でも、休校は少しずつ長引きました。

新がたコロナウイルスの事をこわいなと思った出来事は、わたしの大好きな「ばかとの」をしていた志村けんさんがなくなったことでした。ニュースを聞いてから、こんなにすぐになくなるものなんだと、新がたコロナウイルスのことをこわく思いました。

そのころから、なるべく買い物に行かなくていいように、お母さんが食べ物を買いました。また、友だちとも遊べないし、どこに行くにもマスクをつけないといけないようになったけど、マスクがお店に売ってなくて、とてもこまったことを覚えています。そんな時に、お母さんの仕事場の人が、手作りのマスクをたくさんくださり、とてもうれしかったです。

全国に感せんが広がって、わたしたちがすむくま本にも感せんした人が出て、だんだん新がたコロナウイルスが近づいてくる気がしました。薬を作ることは、むずかしいことであるとは知っているけど、早く薬ができないかなと思えました。また、薬ができるまでの間にできることもあると思いました。それは、自分でどうしても外に行かないといけなときは、こまめに消

どくをして、帰ったらわずれずに手洗い・うがいをして、新がたコロナウイルスにかからないようにしたいと思いました。

新がたコロナウイルスは、自分のことだけでなく、他の人のことを考えて行動しないと、どんどん感せんが広がっていくことが分かりました。それに、たくさんの方が新がたコロナウイルスのことをよく知ることでも、もっと感せんする人が少なくなると思いました。多くの人が新がたコロナウイルスのあぶなさを知ることでも、自分のいのちを守り、他の人のいのちを守る行動をすると思います。わたしも、ニュースなどを聞いて、あらためて新がたコロナウイルス感せんしようは、とつてもきけんなウイルスだと思うので、感せんしないようによぼうをしています。こうと思います。

新がたコロナウイルスに負けない

教良木小 三年 柿原 美優花

わたしは、新がたコロナウイルスがきらいです。理由は、くま本市内に住んでいるいとこに会えないからです。くま本市内の新がたコロナウイルス感せん者が多くなっているの、ほとんど会えなくなりました。

わたしのお母さんは、ろう人福祉しせつで働いているので、もしお母さんが新がたコロナウイルスに感せんして会えなくなると思うと、とても不安です。それに、お母さんは、感せんしないようにしせつで手洗い・うがいとアルコール消どく、フェイスシールドまでしないといけないので大へんだと思いま

す。でも、感せんよぼうのためなので、わたしも、マスクや手洗い・うがい、みつをさけながら行動して気をつけています。

学校がりん時休業になったときは、友だちに会えないし、学校に行けないことがショックでした。でも、りん時休業期間中になんげがよかったことがあります。それは、なわとびです。それまで、前とびがうまうまかかったけど、りん時休業期間中にスムーズにとべるようになりました。また、できなかつたあやとびができるようになりました。

ニュースとかを見て、東京は人が多くて新がたコロナウイルスの感せん者が多いことが分かりました。くま本県でも、日に感せん者がふえていて、もし自分や家族がかかってしまうとこわいです。感せんした人などが差別されているので、学校で差別しないことを習いました。だから、差別はしないように気をつけようと思いました。差別をしようとする、言われた人はきずつくし、なりたくてなった病気じゃないのかわいそうだと思います。なおるまで病いんに入いんしなければいけないし、家族にも会えないので、わたしだったらさびしくてしかたありません。さい近は、小学生や保育園児もかかるリスクが高くなっているようでこわいです。

もうすぐ、ワクチンがせつしゅでできるようになるとお母さんから聞きました。そのワクチンがきいてくると、感せんがおさまるので、前と同じ生活ができたらいいなと思います。

でも、これからの生活は、まだマスクをはめて、手洗い・うがいをしっかりします。なぜなら、一人でもマスクをはめていないとすぐに他の人にうつしてしまうし、手や口にきんがたく

さんいるからです。それから、人にふれず、なるべく家から出ずにすごそうと思います。たくさんの方がいるところは、くつついてしまつて感せんするリスクが高くなるからです。予ぼうをして新がたコロナウイルスにぜつたいに負けないようにしようと思います。

新型コロナウイルスがはじまつてから

姫戸小 三年 久保 一心

ぼくが新型コロナウイルスの中でいやだったことは、三つあります。

一つ目は、外遊びです。外出禁止になったので、外であまり遊ばなくなりました。だから、コロナがおさまったら外でいっぱい遊びたいです。

二つ目は、マスクです。コロナのせいで、学校でもマスクをつけないといけなくなりました。マスクをずっとつけていると、息苦しくなります。人が近くにいないときや外でははずしてもいいと言われますが、今は体育の時もつけられないといけません。だから、早くコロナがおさまつてマスクがいららない生活になるとうれいんです。

三つ目は、友だちの家に大人数でいけなくなったことです。ぼくは、友だちの家に大人数で集まつて遊ぶことができました。でも、今はかんせんよぼうのため、大人数で集まることができません。

新型コロナウイルス感染症のかくだけで、今までと生活も変わ

りました。

よぼうのため、学校の教室や体育館、お店の出入り口などでよく消どくするようになりました。

病院にも行きにくくなりました。どうしてかというところ、ねつを出して病院に行ったら、コロナじゃないかと心配されるからです。そして毎日、コロナ関連のニュースばかりが放送されます。ニュースを見ていると、こわくなります。早くちがうニュースも見たいです。

でも、悪いことばかりでもありません。

学校でタブレットが使えるようになりました。一人一台のタブレットがあるので、総合的な学習の時間に姫戸町のいいところをさがしたり、算数や国語のドリル学習で使ったりしています。

また、人がたくさんいるところに行ったり、遠くに出かけたりすることができなくなったので、家族とすごす時間がふえました。一月一日には、お母さんといっしょに次郎丸だけに登りました。山ちようで、お母さんからクリスマスプレゼントでもらったコンロでスープやラーメンを作つて食べました。とてもおいしかったです。

コロナでできないことがたくさんあります。いやなことたくさんあるけれど、今できることを楽しみたいと思います。

そして、早くコロナがおさまつて、みんなとたくさん遊びたいと思います。

早くその日が来るように、「新しい生活様式」を守つて、かんせんよぼうをがんばります。

新型コロナウイルス感染症について考えたこと

龍ヶ岳小 三年 浦中 ひさき

私たちは、昨年の三月からりん時休校になり、家での学習になりました。勉強について先生に聞くこともできず、友だちとも会えず、外で遊ぶこともできず、とても悲しい日々をすごしていました。

六月から学校が始まりましたが、い前とは全ぜんちがうものでした。

まずは、マスクの着用です。どこにいる時もかならずマスクをつけなければいけませんでした。

次に、消どくのでつていです。手あらい・うがいにくわえ、ウイルスをころすために給食時間い外でも、消どくをするようになりました。

さらに、友だちとのソーシャルディスタンスで、きよりをとらなければいけなくなりました。つくえをはなし、友だちと近づきすぎないように注意しました。

そして、かん気です。これまでもかん気は休み時間ごとにしていました。しかし、教室やろう下、階段、ホールや体育館など、いろいろな場所のまどを開けてすごさなくてはいけなくなりました。

新型コロナウイルス感染症がはやりだし、やく一年がたちます。うつらないように注意することも、コロナウイルスをもっている人が、他の人にうつさないことも大切です。だからこそ、みんながマスクをして、消どくをし、人とのきよりをとり、あまり外出をしないことを意識しきして生活していくことが、とても大切だと

思います。

だけど、本当は、たくさん外出したいです。買い物もしたいし、おいしいものも食べに行きたいです。友だちと何も気にせず遊びたいです。

しかし、今はがまんをして、一日でも早く、い前のような生活ができる日がくることをねがっています。

そのためには、自分ができるところを考えて続けていきたいと思っています。コロナに負けないようにがんばりたいです。

【四年生】

みんなで助け合おう

登立小 四年 山崎 心優

「え、何これ。新型コロナウイルス？」

全国でコロナが広まって学校が休校になった。お出かけやお買い物もあまりできなくなって大変だった。みんながマスクをつけて、マスクが売り切れた。学校も休校になった。わたしは、外にも出られず、友達とも遊べず、家でねこと遊んだりソファでゴロゴロしたりしていた。早く学校が始まらないかと思っていた。

学校が始まって「やったあ。やっとみんなに会える。」と思った。放課後のバスケットも休校中はできなかったから、バスケットもできないようになってうれしかった。わたしは、「コロナにかからないかな。二〇二二年はみんなコロナにかかっているんじゃないかな。」と不安だった。

世の中がどんどん変わっていった。去年はあったお祭りやハロウィンパーティーがなくなった。リモートもふえた。学校でも集会がリモートになった。のびっこ祭りもなくなった。去年は一カ月以上あった夏休みも短くなって、悲しかった。

学校ではマスクをつけてつくえにひまつ防止ガードもつけた。暑いし、黒板や友達の顔が見えにくくてとてもいやだった。でも、コロナにかからないために毎日した。

お買い物に行くときには、お母さんから「アルコール、手あらい、うがいした。」

「なんで、お買い物に行くのにマスク持ってきてないの。」と、言われた。

みんなコロナになるのはいやだった。コロナになった人やその家族を差別したり悪口を言ったりする人が出てきた。わたしは、だめなことだと思った。コロナにかかったからといって、その人は変わらない。かかりたくてかかったわけでもないし、だれがかかるかなんて分からない。コロナできつい思いをしているのに、心まできずつけてはだめだと思った。だから、コロナにかかった人やその家族にはやさしくしたい。

コロナウイルスが広がって、わたしは、人が多いところには行かない、マスクを付ける、手あらい・うがいをすることが大切だと思った。そして、コロナにかかった人にも、かかっていない人にもやさしくして、みんなで助け合ってコロナと戦っていききたい。

たくさんの方々に感謝

登立小 四年 山川 更紗

「クラスの友達がコロナにかかっていないかな。」

私は、りん時休校中、会えない友達のことが心配でたまりませんでした。たまにある登校日に友達と会えるのが楽しみでした。

コロナにかからないようにするため、あまり外にも出なくなり、買い物は一週間分の食料を一回でまとめて買いに行くようにしました。

私は、コロナになった方を支えるお医者様やスタッフの方々はすごいと思いました。たくさんの方がコロナで亡くなっているの

に、今もコロナと戦っている人を支えられて、とてもがんばっていらっしやるなと思うからです。

コロナかん者の病とうに入るときには、マスクととう明のビニールの洋服を着て、フェイスシールドを付けているところをテレビで何度も見ました。何度もテレビで見るといふ事は、毎日コロナの方が出ているということだと思います。私は、暑そうな服を着て、丁寧にかん者さんのお世話をしている本当にすごいと思いました。

私のお父さんは、市役所ではたらいっています。七月に熊本ごう雨が発生して、ひなん所が開設されました。お父さんはひなん所のスタッフとして、ひなん所で生活をしました。

「いろいろなところからひなんされていた。」

とお父さんが言っていました。ほかにも、「一家族につき一部屋で、そこではしきりが段ボールでしてあった。」

と、言っていました。私はびっくりしました。ひなん所でコロナにかからないようにこんな工夫がしてあったんだと思います。ひなん所の方たちは、住む家も雨でなくなつて、ひなんしてきているのに、コロナもあるから、心配なことや不安なことがたくさんあったと思います。

コロナが広まって、一日に何百人もの人がようせいになつてびっくりしました。熊本でもけいかいレベルが5になりました。先生がマスクや手あらい、うがいをしつかりするように話をしました。

私は、コロナにかかってしまった方や亡くなつてしまった方の

分も日々を大切にしたいです。早くなおつてほしいと思います。そして、コロナウイルスと戦うために、多くの人が支えているんだと気づきました。病院のお医者様やスタッフ、市役所の方などです。たくさんの方の支えてくれる方々に感じたいです。

私は、コロナがおさまつたらやりたいことがあります。それは、友達とパーティーをすることです。今までは、三密をさけるために、密集できず、パーティーができませんでした。だから、コロナがおさまつたら、みんなと楽しくパーティーをしたいです。

友だちと思いつき遊びたい

維和小 四年 田中 蓮音

ぼくは、「コロナウイルスが早くなくなればいいのに。」と思っています。なぜなら、コロナウイルス感せん予防のために、学校での過ごし方や、友だちとのふれあい方が変わつて「いやだなあ。」と感じたからです。学校では、コロナウイルス感せん予防のために、マスクをずっとはめていたり、距離を離したりしないといけません。登校中は距離を一メートル空けて登校しないといけません。また、友だちとも近づきすぎないようにしないといけません。体育のときや昼休みもマスクをしているので、ときどきはずしなくなりそうです。

学校が長い休みになった時もありました。ぼくは、毎日手洗いうがいをしてコロナたいさくをしていました。コロナウイルスにはかからなかったけど、友だちと会えず、とてもさみしかったです。だから、学校が始まつたとき、友だちと会えて本当に良かった。

たと思いました。ぼくは、四年生になって、「お笑いクイズ会社」に入りました。帰りの会やたんじょうび会のとくに、お笑いのげきやクイズを出したりして、みんなを笑わせる会社です。みんなが笑ってくれるとうれしいし、とても楽しいです。だから今は、学校が始まって、友だちと会社活動をする事ができています。ふくしき学級なので、三年生の友だちも一緒に活動しています。友だちと一緒に、お笑いを考えたり、練習をしたりしているときも楽しいです。学校が休みにならないで、もつともつと友だちとおもしろいことや楽しいことをしたいなあと思っています。

世の中には病院やかいごしせつでがんばって働いている人がいらっしやいます。病院に行きたいけど、いっぱい病院に行けなくなつた人もいます。また、コロナウィルスの差別もあつて、分かつてもないのに、勝手に「あの人コロナじゃね？」という人もいました。おかしいなと思います。コロナがなくなれば、病院ではたらいっている人は苦勞しなくてすむし、差別もなくなるから、早くなくなつてほしいです。

コロナウィルスは、まだおさまらないと思うから、手洗いうがいやマスクの着用、人との距離をはなすことなどを、これからも続けていきたいです。そして、コロナウィルスが落ちついたら、家族と買い物に行きたいです。また、友だちと近づいて話したり、外でおもいっきり遊んだりしたいです。

コロナでかわる世界

上小 四年 小野 海璃

私は、コロナがいやです。なぜなら、どこにも行けず、学校ではシールドを机につけ、ソーシャルディスタンスのうえに消毒をちよくちよくして、友達もみんなマスク、クラスも分けられ：なんだか、おりの中にいるようです。

マスクは外せず、毎日ニュースで言っている「コロナかんせん〇〇人」は、もう聞きあきました。なんだかこわくもありません。世の中にはマスクをしない人もいるし、「なぜ店を開けているんだ。」と言う人もいるし、コロナ、コロナ、コロナ：もう、うんざりです。

でも今は、がまんするしかないと思います。なぜなら、みんなが手洗い・うがい・かん気をして、マスクをつけ、ソーシャルディスタンスに気をつけて、不要不急の外出をさけるなどの感せん予防をしたらきっと、コロナがおさまり、どこに行こうがべつに気にせずがいい世界になると思うからです。

私は、マスクはもちろん、ソーシャルディスタンスだつて気にしなくていい、そんな世界になつてほしいと思います。今は、友達と話したり、少し遊んだりするときは、まるで天国にいるように楽しいです。そんな当たり前の毎日が早くもどつてきてほしいです。でもまだまだなので、もうちょっとがんばります。

そして、これから、しんぼうしながらも、みんなでこの危機を乗り越えていきたいです。コロナの心配をしなくてもいい理想の未来を目ざしていきたいです。

コロナで変わった生活

上小 四年 和田 凜由生

コロナのせいで変わってしまったことがあります。それは、学校が昨年、りん時休校になり、それが、四月十五日から五月三十一日まで続きました。そして、家でも変わったことがあります。ゴールデンウィークなどの祝日に、旅行や遠出ができませんでした。その頃は、きん急事たいせん言や外出しゆくなどが出たからです。

また、夏休みは、りん時休校のえいきょうで、二週間しかありませんでした。

そして、二学期になると、今度は、自分のつくえにシールドをつけないといけないことになりました。みんながシールドをつけると、黒板の字が見えにくくなり、教室がとてもせまくなりました。

今、思っていることがあります。前よりも感せん者が多くなり、ふたたびきん急事たいせん言が、今のところ、十三都道府県に出されています。ですが、外出する人が多く、コロナの感せん者は、へっていません。ニュースを見るたびに、全国の重しよう者が、か去最多というのが続いています。このままだと、とてもきけんです。

そこで、ぼくは、前みたいに外出しゆくようせい、時差出きん、ステイホームなどを出せばいいのではないかと思いました。上天草市でも、感せん者がふえ続けているので心配ですが、りん時休校などがなかったので、よかったですと思いました。

今、ニュースでは、五月にはワクチン接種ができるとも言われ

ているので、予定どおりにいけばいいなと思います。ワクチン接種が始まったら、コロナがしゆうそくしほしいです。そして、また元の日常生活にもどりたいたいです。

新型コロナウイルスとぼくの生活

中北小 四年 関戸 晴登

昨年の二月、新型コロナウイルスがはやりはじめてから一年、ぼくにはいやだったことや少しうれしかったことなど、いろいろなことがありました。

まずは、りん時休校です。最初は、休みが続いたのでうれしかったです。休みの時は、家でゲームをしたり、ユーチューブを見たり、兄弟で遊んだりしていました。楽しかったけど、だんだんすることがなくなってきました。やっぱり、学校で友だちとサッカーをしたりして遊びたいなと思いました。そして、休みがだんだんいやになってきました。でも、一週間に一回くらい、学校に行ける日が始まりました。ぼくは、とてもうれしかったです。友だちと話せて、楽しかったです。

次に、日本の国からもらったものが心に残りました。それは、十萬円の給付金とマスクです。給付金で、ぼくの家は、二段ベッドを買いました。兄といっしょに使っています。とてもうれしかったです。マスクは、なかなか手に入らずにみんなが困っていたころ、くださったのでうれしかったです。マスクは、大きさがちょうどよくて、やわらかかったので気に入りました。

ただ、新型コロナウイルスが流行ってから、いやだったことがあります。

それは、毎日マスクをつけることです。前は、インフルエンザや咳のときしかつけていませんでした。つけてみると、授業中は、友だちの声が聞き取りづらいと思います。それに、友だちの顔が上の方しか見えないので、気持ちがよく分からないなあと思いました。休み時間も同じで、マスクをつけていると、友だちが元気がどうか分かりにくいし、遊びにくいと思いました。今では、毎日つけているから慣れてきました。でも、早く外せる日がくるといいなと思います。

新型コロナが収まったら、ぼくにはしたいことがあります。それは、おじいちゃん、おばあちゃんといとこと行く予定だった旅行です。みんなで行くと、おじいちゃん、おばあちゃんが喜ぶと思います。それに、家族とお出かけもしたいです。イオンに行つて遊んだり、買い物をしたりして、楽しみたいです。そして、友だちとマスクを外して、たくさんしゃべったり、遊んだりしたいです。すっきりして気持ちがいいだろうと思います。早く新型コロナが収まって、そんな日が来るといいなと思っています。

コロナウイルスとの生活で感じたこと

中南小 四年 原田 愛心

「パチ。」

いつものように、朝からテレビをつけてニュースを見ていると、「新型コロナウイルスが発見されました。」

と言いました。その時、私は、

「すぐ薬ができるだろう。」

そう思いました。

何日かたって、学校は、りんじ休業になりました。テレビをつけると、ぐうぜんにも志村けんさんがなくなったことを伝えていました。その時私は、新型コロナウイルスのおそろしさを知りました。

日がたつていくうちにかんせん者は増え、外国では、差別する人たちがいました。

「こんなこわい人たちがいるんだ。」
そう思いました。

学校が始まって、やっと友達にも会えることができたものの、今までの生活とはちがって、なれない生活が始まりました。みんなとは、あまり近づいてはならない。つねにマスクを着用していなければならぬ。でも、久しぶりに学校生活を送ることが出来て、あらためて学校で友達と会えることや勉強が出来ることのがたさを感じました。

今でもかんせん者は増え続けています。その人たちをなおすために、お医者さんたちがいっしょうけんめいがんばっています。だから、自分たちもがんばって、この危機を乗りこえていきたいと思いました。

コロナウイルスがはやっていいる今、まだ子どもの自分たちには、かんせん予防と応えんすることしかできません。だからこそ、あきらめずに自分にできることにしっかりと取り組んでいきたいと思えます。この先、コロナウイルスがおさまるかもしれないし、もつとひどくなるかもしれません。自分にできることの最善をつくして、学校の先生たちや友だち、家族と生活をおくっていき

いです。

コロナウイルスには負けないぞ

中南小 四年 佐藤 陽向

今、とてもこわいことがあります。コロナという名前のこわい病気です。

今年は、一年生の入学式に出られませんでした。

そのあと休みがたくさん続きました。休みが続いたので先生や一年生とも勉強ができなくてさみしかったです。家においてもあまり勉強ができませんでした。

時々、学校だったので、先生からプリントやドリルなどで勉強するものももらってしまいました。

心の中で、学校にはいつから行けるのかなと思いました。家にいるのは、うれしいときもあつたけど心配もたくさんありました。おかあさんも、あまり外に出られなかったので、食べ物は一度にたくさん買ってきました。

店に行っても買えなかったのが、マスクです。

「マスクは、売り切れてなかった。」

とお母さんは困っていました。ぼくは、とても心配しました。あちこちの店をまわったけど、買えなかったのでもとても大変でした。手作りマスクをもらいました。

長い休みが終わり、学校に行けるようになった時は、うれしかったです。

でも、心配でした。

学校では、毎日、熱を測りました。家でも熱を測りました。熱が高いなら学校を休まなければならなくなりました。

学校では、登校するとき、帰るときにもマスクをする。外から教室に帰ったら、手洗い、うがいをきちんとする。給食を食べるときは、話さない。食べ終わったらマスクをする。給食前や外から教室に入るときは、アルコールで消毒する。など、みんなが病気になるないように学校で決まったと先生が話してくれました。

また、先生達が、窓を開けてかんきをしたり、ぼくたちが帰った後に、机や使う物をアルコールで消毒したりしてくれています。だから、ぼくたちは、安心して、学校に行っています。

最近、病気になる人が多くなったので、ぼくのじいちゃんが、「いつかかるか、わからんもん。」と、話しています。

ぼくは、マスクを忘れないこと。うがいや手洗いをきちんとするなど、しっかり守っていきたいと思います。

今、学校では、モリンガ茶でうがいをしています。にがいお茶でもぼくを病気から守ってくれているので毎日したいと思います。

学校のみんなで、モリンガ茶でしっかりうがいをし、こわい病気が来ないようにしたいです。

コロナウイルスには、負けないぞ。ぜったい負けないぞ。

地球への挑戦状を受けて 私が考えたこと

阿村小 四年 太田 月

私は、冬休みの初めに温かい家庭で「新がたコロナ」について考えてみました。

私の冬休みは、「新がたコロナ」で色々な行事や予定がなくなりました。楽しみにしていたことや、当たり前だった日常が全てなくなり悲しい気持ちになりました。

私は特に、冬休みに楽しみにしていることがありました。それは、阿村の地域でずっと続いている「どんどや大会」です。毎年のどんどやは、地域の人たちとやぐらを立て、一緒に準備をがんばります。火を付けると、いきおいよく火が高く上がります。地域の人たちが作ってくれるぜんざいを食べると、「今年一年もがんばるぞ!」という気持ちになります。でも、今年は「新がたコロナ」でどんどやが中止になりました。それだけではありません。毎年、長い休みの時は、家族でカラオケや映画に行っていました。けれど、今年は何度も、

「カラオケに行きたい。」

「映画に行きたい」

と言っても、

「行きたい気持ちは分かるよ。お母さんもお父さんも行きたいけれど、もしコロナにかかってしまったら心配だし、こわいよ。」と、お母さんに言われ、私は何もお母さんに言うことができませんでした。コロナのせいで、冬休みは、全て宿題の毎日でした。

「遊びにも行けないし、行事もない冬休みなんて。」と私は、深いため息をつきながらこんなことを考えて、天井を見つめました。

「コロナのせいで」と思いながらも、「コロナは悪いことばかり起こしているとは限らないのではないかな。」と。もしかしたら、地球への挑戦状が送られてきたのではないのかなと思います。「新がたコロナ」がはじまってから、車で地球を汚したり、差別がひどくなったりしているのは確かです。でも、その反対に医りよう従事者の人たちは毎日遅くまで、私たちを助けてくれて、エールを送ったり、歌を届けてくれたりする人たちもいます。たしかに、「新がたコロナ」は、私たちの生活を崩しています。しかしその反面、地球の人たちにもっと周りを思いやつて欲しいというメッセージであり、成長させてくれる病気でもあると考えました。

私はこんなことを考えながら、私もこれからの生活で、みんなを私も守っていききたいと思いました。ソーシャルダンスを守るのも自分のためでもあるし、相手のことを思って行動している一つだと思えます。今、日本や世界の人々が「相手もがんばっているぞ!」と思いつながらみんなもがんばって生活をしてくれるととても嬉しいです。一人一人が気をつけると一人、また一人と「相手のことを思って行動できる人が増え、思いやりの輪」が広がると思えます。そんな輪が広がったときに「新がたコロナ」は地球からってつたいすると思えます。

私の頑張りたい気持ち

阿村小 四年 福山 華里奈

私は、新型コロナウイルスが流行って、とつても不安に思っ

います。毎日ニュースで、「コロナウイルスでたくさんの方がなりました。」や、「クラスターが出ました。」と聞くと、怖くなるし、お母さんや、お姉ちゃんたちも、いつもコロナの話をするようになってからです。

コロナが流行りだしてから、私はなんだか「いやだな。」と思う日が増えました。学校が長く休みになったり、歌が好きなのに、音楽の授業で歌えなくなったり、心が暗くなるのがいっぱいありました。友達と前みたいに遊べなかったり、家族で、お出かけもできなくなったり、熊本市の高校に通っているお姉ちゃん達が、家に帰ってこられなくて、会えない日があったりもしました。バレーのクラブも、コロナで2月まで休みです。すごく残念です。友達とコロナの話をしました。友達も「私もコロナ怖いよ。給食で前向いて、だまって食べないといけないから、なんか楽しくないよね。」と言っていました。友達も、私と同じような気持ちだったから、すごく気持ちが分かったし、少し似ていて安心もしました。

コロナが流行りだしてから、お母さんが、マスクを手作りしてくれました。夏は、水にぬらして冷たくして使えるマスクを作ってくれました。うれしかったです。お姉ちゃん達とも久しぶりに会えたら、なんだか、いつもよりも、帰ってきてくれた日が嬉しかったです。お母さんが手作りしてくれたこととか、家族と一緒に過ごせることが、いつもよりうれしい感じがしたことに気付きました。

私は、大人になったら、ケーキ屋さんでパティシエの仕事がしたいです。もし、このままコロナが流行ったままだと、お客さん

がこないのではないかと心配になりました。美味しいケーキを作りたいです。たくさんさんの人に食べて欲しいので、買いに来てほしいです。

7月、七夕の短冊にお願いごとを書きました。みんな「コロナになりませんように。」や、「みんなが元気にすごせますように。」と書いていました。私もコロナのお願いごとを書きました。それともう一つ、「パティシエになって美味しいケーキが作れますように。」と書きました。短冊にお願いごとがたくさん結んであります。「みんなの願いが絶対叶いますように。」とお願いをしました。

コロナは本当に怖いけれど、今の方が、健康にも気をつけているから、クラスの友達も休まないし、私も元気に過ごしています。「みんなで頑張ろう！」って気持ちも湧きます。「学校に行ける日は、いっぱい勉強しよう。」と思います。自分にできることを考えて、強い気持ちで頑張って、楽しくみんなと過ごしていきたいです。そしてコロナに負けないで、大人になったら夢を叶えたいです。

今までとちがう一年

今津小 四年 泉田 莉汐

四年生の一年は、今までとちがう一年間でした。四年生になって、生活は急げきに变化しました。新型コロナウイルスのえいきょうで、いろいろなことをあきらめたり、感染予防をしたりすることが多くありました。楽しい思い出を作ろうと、必死で学校生

活を送りました。みんなで協力して、乗り越えるためにいろいろなことをためしました。マスク着用、手のアルコール消毒などウイルスに感染しないように努力しました。学校生活は急変し、人としやべることが少なくなりました。机にはシールドがつかまりました。

世の中では、多くの感染者や死者が出ました。いつ感染するかわかりません。だんだんと増える感染者。いろいろなことが混乱する中、マスクをしない人も多くいました。ニュースは、ほぼ新型コロナウイルスのことばかりでした。遠足や見学も中止になり、思い出がなくなっていくばかりでした。休業する店が多く、外食もひかえました。

だけど、四年生はあきらめず、係活動で全員遊び係を作り、みんなで遊ぶ日を決め、みんなで遊ぶようにしました。少しでも思い出を増やしました。今までと少しちがう一年間だけど、ウイルスを乗りこえようとがんばりました。フェイスシールドをつけたら、三密を防いだりすることは多かったです。私たちは四年生になったので二分の一成人式です。十才のときには、こんなことがあったなあと、大人になって振り返って思えるようにしたいです。学校や家での生活は変わったけど、少し前の楽しい生活をとりもどすために、感染予防をしました。むだだと思ってもいつか分かるか分からないので、ずっとがまんしました。友達に「放課後遊ぼう。」と言われても、行きたい思いをおさえて何度もおさそいすることになりました。

今までの一年間とちがったけれど、楽しいこともあった一年になりました。これから、コロナウイルスがおさまって、楽しみが

ふえて、思い出がたくさん作れることを待ち遠しくしています。六年生になったら、修学旅行があります。それまでに命を落としたり楽しみがなくなるので、今は気をつけておこうと思います。コロナウイルスがおさまったら、みんなで旅行に行きたいです。いろいろしたいことがたくさんあります。できるようになるまで、楽しみに待つことしかできないので、それまでがまんして日常生活を送りたいです。今は、家族との楽しい生活を送りたいです。

新型コロナウイルスの生活

今津小 四年 岡村 直

新型コロナウイルス感染症が広がって、緊急事態宣言が出て学校が休みになった。最初は、嬉しくて、家でいっぱい好きなことをした。でも、ずっと休みになって、外で遊びたくなつたし、友だちとも会って学校に行きたいという思いが強くなった。

緊急事態宣言が解除された時は、嬉しくて走り回った。学校に久しぶりに行ったときは楽しくて家に帰っても、学校のことをいっぱい家族に話をしたし、いっぱい学校の事を考えた。そして、一日の新型コロナウイルス新規感染者数がかなり減ったときは、早く収束して、学校に毎日行ける生活に戻ってほしいなと思った。新型コロナウイルスが原因で、大好きなバスケットが出来なかったり、家族で遠くにでかけたりすることもなくなった。大晦日の毎年の家族でいく初詣も行けなかった。学校行事の運動会は、お昼のお弁当を家族と食べるのが楽しみだったのに、午前中だけで、全然満足できなかった。学習発表会は、他学年の発表を体育

館で観るのが楽しみなのに、それもなくなってしまった。昼休みでも、サッカーや鬼ごっこをしていても、マスクをつけているので、いつも以上に、きつくて苦しかった。

僕は、新型コロナウイルス感染症で学校の楽しさがよく分かってきた。今までは、学校はめんどうくさくて、毎日学校に行きたくないと思っていた。けれど、当たり前だったことや学校生活がなくなつて、その大切さにも気づかされた。

夏休みは、例年より短い休みだった。学校の大切さや楽しさがわかつた僕だったが、休みがあると結構喜んでいる自分がいた。夏休みも夏休みで自粛する生活だったけどそれなりに楽しかった。でもやっぱり、学校に行くと、学校で過ごす時間が楽しかったし、授業でもワクワクした。授業をより集中して受けるようになったので、宿題も時間がかからずできるようになった。冬休みの宿題のドリルも、「毎日五ページする」と決めて、いつもより早く終わることができたので嬉しかった。

新型コロナウイルスは僕たちのこの一年間の生活を大きく変えてしまう恐ろしいものだ。しかし、当たり前前の何気ない毎日や学校を大切だと教えてくれたのも新型コロナウイルスだった。僕は、新型コロナウイルスが一日も早く世界からなくなってほしいと願っている。自粛する生活はきついけれど、みんなが我慢しない毎日を送れるように、一人一人が頑張ることが必要である。僕は、新型コロナウイルスが世界からなくなったら、マスクを外して、大好きなバスケットを、思いっきりしたい。友だちとたくさん話したり、肩を組んだりしたい。

コロナのかんせんが広がって私が思うこと

姫戸小 四年 池田 明日香

わたしは、コロナかんせんが広がった臨時休業中に、いとことおばあちゃんの家に行きました。まどの外には人がほとんどいませんでした。

買い物に行くときもマスクやしょうどく、手あらいなど、コロナたいさくをいつもしていました。

学校が始まって、友達ともそんなに近くにいられなくなりました。前みたいに、家でいっしょに遊べないし、みんなとつくえをつけて楽しくしゃべりながら給食を食べられなくなりました。テレビをみると、東京は何人もコロナにかんせんしていたり、死者もたくさんいたりして、みんながとてつらそうで、悲しくなりました。

三月の卒業式や四月の入学式もたいへんで、とてもかわいそうでした。

少しずつ落ちてきてきたと思いましたが、その後にはたくさんの方がありました。きんきゅうじたいせんげんが出され、お店の営業時間が短くなるなど、少しずつ生活が変化してきました。

ふだんの生活では、ソーシャルディスタンスを考えたり、こまめにしょうどくをしたりと、前よりもいそがしくなりました。

ねるときに、たまにコロナのことを考えるようになりました。いろんな人が新がたコロナウイルスにかんせんし、死んだ人もいるということも考えることができました。熊本県にもかんせんした人がいて、この町にもいつか来るのかなと思ったこともありました。

ニュースでは、新がたコロナウイルスは、中国から始まったと言われています。そのことを理由に中国をせめる人もいます。しかし、わざとしたわけでもないし、しかたありません。つづいていく病気だと思いと、少し不安です。世の中がたいへんになっていくし、みんなもつらいのでそのことが不安になります。

これからの生活はともきびしくなりそうです。しばらくは、今までと同じように遊びに外に行ったり、人が集まるところに行ったりできないと思います。友達やはなれた親せきにもなかなか会えないと思います。とても悲しいです。しかし、こんなことを言っていたらコロナはおさまりません。手あらいやうがい、マスクとしようどくを心がけて、コロナが早くおさまってほしいです。今までのようにすごせない日々がまだまだ続くと思いますが、その中で楽しいことを見つけて、笑顔で乗りこえていきたいと思えます。コロナという病気がなくなつて、一日でも早く元通りの生活が来るといいなと思います。

すっかり変わった日本

龍ヶ岳小 四年 梅田 優保

毎日通う学校。そこに行けば親友や友達、先生に会える。休み時間に友達と話したり、昼休みになったら外でたくさん遊んだり、いっしょに勉強したりする。それがあたり前の学校生活だった。

しかし、日本にも新型コロナウイルス感染症という恐怖が訪れた。まだそのとき自分では、何も分からずあまり恐れていなかった。二月二十一日になると、熊本県で初の感染者が出た。その時

ぼくは、

「すぐおさまるだろう。」

と軽い気持ちでいた。だが、それからあつという間に広がっていった。毎日、毎日感染者が増える。そんな時、三月に学校が休校となった。休校は、長く続いた。いつもとちがって一人で勉強を進めなければならぬ。学校に通うのと一人は、大ちがいだ。

三ヶ月の休校が終わって、熊本県の感染者もずいぶん落ち着いていた。県外でも感染者はおさまっていた。だが、おさまっていたのは、少しの間で、日がたつていくにつれてまた感染者が増えていった。そして、コロナ感染者への差別が発生した。人は、見えないものには、おびえて、見えるものには、おびえない。だから、見えるコロナ感染者に差別が起きる。自分もコロナにかかるかもしれないのに、どうして差別が起きるのだろうか。人の事を考えず人がいやがる言葉を言うのは、いじめと同じ。だから差別は、絶対にはいけない。

六月の終わりが、学校の机にデスクシールドをはるようになった。そのころは、初夏で気温も上がってきたから、マスクもマウスシールドになった。こうした変化が次々に出てくるようになった。短時間での小まめな換気、三密を防ぐ対策などが出てきて、これらを徹底すればいいとテレビでも伝え始めた。学校や飲食店などが三密にならないように対策をしている。でも、感染者は、止まらない。一人一人が自分のため、人のためを思っている動すればリスクもおさまるのに、全員で取り組まないと対策をしている意味がなくなる。

感染した人たちを支えているのは、医療従事者の人たちだ。こ

の人たちは、今、必死にがんばっている。だから、ぼくたちが感染拡大をおさえて少しでも楽にしてあげなければならない。それは、自分のためにもなるし、友達や親友、大切な人を守ることにもつながる。ぼくたちには、コロナをのりこえる力がある。そして、いつかマスクなしで話すことのできる生活を取りもどしたい。

コロナと闘う人々

龍ヶ岳小 四年 濱崎 冨

去年の3月。当たり前のことが、当たり前じゃなくなった。学校が休校になり、友達に会えなくなった。当たり前のようにしてきたハイタッチや会話ができなくなった。

家族で、出かけることができなくなり、家にいることが多くなった。

しかし、家族といることが多くなり、家族との時間が増えて、家族といることの大切さを知った。

新型コロナウイルスは、世界に広まって、自分の身の回りでも、だれかがコロナにならないか心配で、もしも家族がなくなってしまったら、また、自分になってしまったらと何度も、何度も考えてしまい、コロナがもっと怖くなってしまった。今までは、友達としゃべったり、ハイタッチをしたり、クラスのみんなど楽しくしていたのに、今では、家で一人で勉強で、あまり楽しくなかった。一人でさみしかった。

また、新型コロナウイルスが広がったことで、コロナ差別が起こった。コロナ差別をなくすためには、一人一人が正しい知識を

もつことだと思う。悪いのは、人ではない。だから、偏見などで差別してはいけない。差別は、絶対にゆるされない。

私が、今一番感謝したい人は、医療従事者の人たち、看護職などの人たちだ。自身が感染する、感染の媒介者になるかも知れない不安や恐怖の中、患者の治療に従事しておられる。感染や命の危険を覚悟して、治療や国民の健康を守るため、懸命に努力して新型コロナウイルスと闘っていらっしゃるから。感謝や応援をしたいと思った。

また、新型コロナウイルスと闘うのは、医療従事者の人たちだけではない。私たちも、新型コロナウイルスと闘わなければいけない。コロナに勝つためには、手あらい、うがい、消毒をきちんとしないといけない。コロナの感染が広がる今こそ、大切な習慣だと思う。正しい手あらいでウイルスから自分自身を守らないといけない。

私は、新型コロナウイルスが終息するまで、感染予防を続けていきたい。また、一人だけではなく、一人一人がコロナを減らすために、感染予防をして、一人でも減らせるようにしたい。

また、今、私たちが、学校に行ったり、友達と遊べたりするのは、私たちの知らないところでいろんな人ががんばりがあるからだ。友達に会えたり、クラスのみんなど授業ができたことは、幸せなことだ。そして、これからも、正しい手あらいなどの感染予防をしていきたい。

【五年生】

新型コロナウイルスへの正しい知識をもつ

登立小 五年 丸山 莉菜

コロナウイルスにかかった人に対して、「お前、コロナにかかったんだろ。うつるからこっちに近づくな。」と、いやがることを言う様子を動画で見ました。また、ふつうのかぜでも、「コロナにかかっていたらどうしよう。」と不安になっている人の様子を動画で見ました。

私たちは、先日、授業で新型コロナウイルスについて学習しました。先生の話によると、コロナウイルスは、インフルエンザとほとんど同じだそうです。インフルエンザはワクチンも治療薬もあるからすぐ治って、コロナウイルスは、ワクチンや治療薬がまだ開発中だから、治るのに時間がかかっているし、まだまだ広がっているそうです。私は先生の話聞いて、インフルエンザのように、ワクチンや治療薬ができてくるとコロナもおさまってくるから、「差別はぜつたいにしないぞ。」と思いました。

もし、コロナウイルスがインフルエンザと同じかぜの仲間だと気づいていなかったら、わたしも人がいやがるような言葉を言って、差別していたかもしれません。学校で、正しい知識を教えるもらってよかったなと思いました。

だから、これからわたしが心がけたいことは、もしコロナにかかった人に差別をしている人がいたら、ちゃんと教えてあげたいです。その人の家族や親せきの人、近所の人にも教えてあげたい

です。みんなが「そうだったんだ。かぜやインフルと同じで、だれでもかかる。」「かかった人が悪いんじゃないんだ。」と思ってほしいからです。

そして、もし知っている人がコロナにかかって回復して、復帰したら、わたしはその人を笑顔にしたいです。いやがることを言ったりして、ぜつたい、差別をしません。

このように、コロナのことを通して、わたしは、差別をなくすには、正しい知識をもつことが大切だと思います。

コロナに負けない私たち

登立小 五年 木下 心絆

今、どんどんコロナ感せん者がふえてきています。そして、小さい子からお年寄りまでたくさんの人が苦しんでいます。

先日、学校で一つの動画を見ました。コロナになって治って学校に行ったら差別を受けている動画でした。

「近寄らないで!!!」など言われていました。もし、私とその立場だったら、腹が立つし、学校に行くのがきらいになります。その人だってコロナになりたくてなったわけじゃないし、治って学校に来たわけだからうつらないのに、かわいそうだなと思いました。せつかくなら、「だいたいようぶだった？」や「治ってよかったですね。」「学校くるの待ってたよ。」と言ってほしいと思います。

毎年、冬になったらはやるインフルエンザと一緒に思います。ただワクチンがまだただだけで、しょう状は変わりありません。差別やいじめがなくなるためには、一人一人が優しい心を持ち、人

が傷つかない言葉なのかをしっかりと考え発言することが大切だ
と思います。

もし、そういう人が近くにいたら、悪い方に流されず、
「そんなこと言ったらだめだよ。」

と教えてあげればいいと思います。コロナが治って学校へ来た人
に優しくしてあげると、優しくした人も、治って学校に来た人も
うれしくなると思います。

最後に、私がこれから心がけたいこと。コロナにかからないた
めにも、手洗い、うがい、マスクをしっかりとって、食事と十分な
すい眠をとって、自分の体にふたんがかからないよう、規則正し
い生活をしていきたいです。

新型コロナウイルスから学んだこと

維和小 五年 永松 璃杏

私が新型コロナウイルスから学んだことが三つあります。

一つ目は、差別や偏見は、どこにでもあるということです。総
合の学習で水俣病について勉強しました。水俣病の学習で、患者
さんたちが差別や偏見で苦しんだことを学びました。買い物に出
かけた時に、そばを通っただけでこそ話をされたことがある
という話を聞きました。そして、新型コロナウイルスでも、水俣
病と同じように差別や偏見がありました。家の近くに新型コロナ
ウイルスの感染者がでたことがわかると、玄関に「この町から出
て行け」「家から出るな」と書いた紙が貼られていたことをニュ
ースで知りました。自分がかかりたくないという気持ちから、感

染者とその家族まで差別したり、偏見を持つたりするということ
が、水俣病の時と同じでした。もし、維和島で新型コロナウイルス
の感染者が出たとしても、差別したり偏見をもったりするので
はなく、優しい言葉をかけてあげたいです。

二つ目は、マスク、手洗い、うがいの大切さです。新型コロナ
ウイルスがはやってきて、マスクは必需品になりました。そして、
手洗い、うがいは毎日何回もしました。外から帰ってきた後、ご
飯を食べる前は必ずしました。手洗いをした後は、消毒をするよ
うに心がけています。それは、手を洗った後に消毒をすると、新
型コロナウイルスの感染を防ぐのに、より効果があるためです。
たくさんの人がさわる物にさわった後も、必ず手を洗います。も
し、前にさわった人が新型コロナウイルスの菌を知らないうちに
持っていたら、もしかしたら自分がかかるかもしれません。だか
ら、これからもマスクをしっかりとつけ、手洗い、うがいをこまめ
にやっしていきたいです。

三つ目は、命の大切さです。毎日新型コロナウイルスに関する
ニュースを見ます。ニュースの中で、重症の人や年配の人は亡く
なることもあることを知りました。これからは、命を大切にして
いきたいです。

熊本でも、病院で働く人たちはとても大変そうです。毎日千人
をこえる感染者がでている東京の病院は、どうなっているのか気
になります。東京の面積はせまいのに、どうしてそんなにたくさ
んの感染者がいるのか不思議です。きっとせまい東京にたくさん
の人が集まってしまうからだと考えています。

私たちは去年の二月からずっとマスクをつけて生活していま

す。新型コロナウイルスが完全になくなるか、インフルエンザのように一時的にはやる病気であってほしいです。マスクをつけなくていい世界になってほしいと願っています。

あらためて気づいた家族の大切さ

上小 五年 迫田 飛雅

今、全世界で新型コロナウイルスという病気が流行しています。コロナウイルスにかかる、無症状から、せき、味覚障害、嗅覚障害など、人によつて異なる症状が出るそうです。コロナウイルスが流行していることで、僕の学校では今、体育館で学習しています。なぜならば、三密をさけるためです。コロナウイルスには、三密をさけることが効果的だからです。

去年は、二か月もの間学校が休みになりました。ぼくは、友達と会えなくて、いつも通り登校できなかつたので、とてもいやでした。今は、手洗い、うがいをしたり、マスクを着用したり、換気をよくしたりすることによって、学校に行くことはできていますが、以前の学校生活とは変わってしまいました。家族で出かけたり、ごはんをみんなで食べたり、友達と遊んだりすることもできなくなっていました。

去年の9月、ぼくのお父さんが、病気で大きな病院に入院しました。ぼくたち家族は、お父さんが心配で、会いに行ったり声を聞いたりしたかったけれど、病院に出入りできず、二か月間一度も会うことができませんでした。ぼくには、小さい弟や妹がいます。弟は、

「何で、パパに会えないの。」

と、毎日のようにたずねてきました。

ぼくのお父さんは、2か月で退院できたので、すぐに会うことができました。ぼくの近くにはコロナウイルスがいなかったけれど、ぼくたち家族は、コロナウイルスがこわいなと思いました。

お父さんが退院してからは、家族みんなで暮らせています。でも、世界中には、今でもコロナウイルスのせいで会いたい人に会えない人がたくさんいるんだなと思いました。ぼくは、そういう人を少しでも減らせたらいと思います。そのためには、まず、手洗い、うがいをし、よく食べ、よく運動し、よく寝て、健康な体をつくるのが大事だと思います。そして、マスクをしたり三密をさけたり、専門家の人たちが言ったことを守ることが大切だと思います。

でも、ぼくは、このコロナウイルスのおかげで、家族の大切さを学ぶことができました。これから、コロナウイルスに感ぜんしないように気をつけて生活していきたいです。

コロナウイルスと私達

上小 五年 藤嶋 花

私達は、「コロナウイルス」という強い敵のせいで、生活や心などいろいろ変化しました。

はじめの段階では、マスクと消毒液でした。これ以上コロナウイルスの感染者が出ないように、緊急事態宣言が出されましたが、感染者は増えるばかりでした。そこで、私の学校も休校になりました。

した。私は、最初喜んでいましたが、長い間休みが続くと喜びは消えていきました。みんなと会えない生活がとてつらかったです。

私には、この時悔いが残っていることがありました。それは、卒業式です。お世話になった六年生を見送れなかったことが、今でも心の中に残っています。次の卒業式では、六年生をしっかりと見送りたいです。

いったんコロナウイルスが落ち着いた時期がありました。ですが、そこでみんなが油断してしまい、また増えてしまいました。それとあわせて季節は冬になり、感せん者が増える一方の今です。

このままじゃいけないので、学校での対さくが増えました。一つ目はシールドです。二つ目はこまめに手洗い、うがい、消毒などをすること、マスクを必ずすることです。三つ目は人数を減らしての授業や体育館での授業です。このように、学校ではたくさんの方の対さくをしています。

もちろん、休みの日や家でも、しっかりと対さくをしています。一つ目は手洗い、うがいです。二つ目は、あまり出かけないことです。しっかりと対さくをとり、感せんしないようにしたいです。

そんな中、ニュースを見ていると、なんでみんな出かけるのだろうと、いつもぎ問に思います。コロナウイルスは、目に見えるものなので、いつ感せんするか分かりません。もし、一人が感せんしてしまったら、家族や大切な人を感せんさせてしまいます。そこから、どんどん広まり、たくさんの方の感せん者が出ます。家族や大切な人に感染させて、命の危険もあるのに、いろんなところに出かけるのはよくないと思います。だから、外出をひかえてほ

しいです。

私は、おじいちゃんとおばあちゃんとくらししているのも、もし、自分が感せんしたらどうしようと思います。私の大切な家族や友達に感せんさせないように、まずは自分ができることから身の回りのことをしていきたいです。

そして、感せんした人を治す治りよう薬ができることを心から願っています。治りよう薬をつくっている人も、がんばっていると思うので、もう少しのしんぼうです。

またいつか、マスクを外し、みんなといろんなところに行ったり、平和でふつうのくらしにもどりたいたいです。

コロナウイルスと私たちの生活

上小 五年 尾石 愛呼

新型コロナウイルスがはやってから、私の学校での生活は一変しました。シールドの装着では、黒板が見えにくくなったり、つくえのはんいが狭くなったりして、ノートが書きづらくなりました。

また、体育のじゅぎょうや昼休みに外に遊びに行くときも、マスクを着用しなければならぬので、少し息苦しいと感じることもあり、マスクを外してしまいたくなるのですが、みんなががんばっているの、私もがんばりたいと思っています。

アルコール消毒や手洗いというがいで冬は寒くて気が引けるのですが、がまんしてしっかりとやりたいと思います。

そして、コロナで学校が休校になったときは、友達と会えない

日がつづいていてさびしかったです。どこにも行くことができずに、家で宿題や読書をする日々でした。

それから、私の学校は、校舎を新しく建て直していると中だったので、一つ一つの教室がせまくて、五年生と六年生は、体育館に移動することになりました。体育館では、つくえとつくえの間が、これまで以上に広くなっていて、じゅぎょうの時も、となりの人と話すことができなくなって、とても静かになっていました。広すぎて、黒板の文字が見えにくくなったり、先生の声が聞こえにくくなったりして、集中していないと、分からなくなっています。

また、習っている陸上では、大会や練習が少なくなっていて、家で練習することが増えていて、陸上の友達ともあまり会えていません。

天草でも、最近陽性の方が何人か出ているので、新型コロナウイルスを身近に感じて、少しこわいのですが、感せん対さくをしつかりとして、感せんしないようにしたいです。

他にも、かぜをひいても病院に行きづらいなので、ふだんから健康に気を付けて生活したいと思います。

私は、新型コロナウイルスがはやってから、気軽に友達と遊んだり、お店に行くことができなくなったりしているので、早く新型コロナウイルスが終息して、シールドや教室が元にもどるといいなと思います。

また、医りよう関係者の人は、コロナでお仕事が大変になっていると思うので、お体に気を付けてがんばってほしいです。

今の生活

中北小 五年 益田 紗英

コロナ禍になり一年。いろいろなところが変わっていききました。まずは、学校。朝、児童げんかんで消毒をします。冬は、とても冷たいです。教室のつくえは、一つ一つはなれています。斑をつくって勉強することも最近は少しずつ減ってきています。給食も、つくえをくつつけてはいけなし、しゃべってもいけません。音楽や体育の授業も、できる限りマスクをつけてやっています。学校行事も今年度はとても少なかったです。

この学校生活の中でも私が特に変わったと思うのが、委員会活動です。私が入っている委員会は、健康委員会です。今年の活動は放送が多くなりました。内容は、マスクの着用と手洗い、うがい、換気の徹底についてです。この放送が、中北小の感染を防いだらとてもうれしいです。

他の委員会の活動も変わりました。体育委員会では、朝のランニングの曲を流したり、ランニング後の整理運動の声出しをししたりしていました。でも、コロナ禍となり、今は各自で朝のランニングをやっています。先日、全員遊びで「逃走中」をする予定だったので、コロナの影響で延期になりました。企画委員会では、児童集会の司会をやっていました。でも、緊急事態宣言が出されてから初めての児童集会では、チームスを使つてのリモート集会を行いました。私達の合唱と合奏の発表でした。教頭先生が、「生で見られなくて残念だったけど、とてもよい発表だった。」と言われていたそうです。また、前のようにマスクをつけずに勉強したり、楽しくみんなでお給食を食べたりできる日が、早く来て

ほしいです。

次に、家。コロナ禍になる前から、「外から帰ってきたら手洗い・うがいをしなさい。」と言われてきました。でも、コロナ禍になってからは、ちよつとした外出でも「手洗い・うがいをしなさい。」と言われます。それに、学校に行く前の持ち物のチェックも、コロナ禍になってからは、ハンカチ、ちり紙、名札＋マスクのチェックもしています。ちよつとした外出のときにもマスクを持っていくかを確認しています。お出かけをして、店内に入る前には、必ず消毒をしています。やっぱり、外出やお出かけをするときにも、マスクなしでのおもいっきり楽しめるような生活をしたいです。

最後に、習い事。私は、ピアノと英語とバレエボールをやっています。ピアノでは、前は手を洗ってピアノを弾いていましたが、今は、手を洗って消毒してからピアノを弾いています。英語でも、必ず消毒をします。前は、イースターパーティーやハロウィンパーティーがありました。今年は中止になりました。クリスマスパーティーはありましたが、やったのは暗唱発表とプレゼント交かんだけで、クリスマスケーキとごちそうはありませんでした。バレエボールでは、始める前と終わった後に手とボールの消毒をしています。

今年度は試合は三回しかなく、新人戦もなくなりました。試合の時にはマスクと消毒液を持って行き、ベンチに座っているときはずっとマスクをつけていなければなりません。前みたいに、イベントや試合など楽しくできる日が来てほしいです。

今は、世の中のみんがやりたいことが思うようにできなくな

っています。だからこそ、今はコロナ対策をしつかりして、一日も早く元通りの生活にもどってほしいです。そのために、自分ができることに一生懸命に取り組みたいと思います。

変わってしまった生活

中北小 五年 濱崎 珊汰

日本で初めて、新型コロナウイルスの感染者が出て三ヶ月、緊急事態宣言が出された。次々に他の県の小学校が休校になっていく中で、「中北小だけは、休校になってほしくないなあ。」と思いつながら、テレビを見ていた。どうして休校になってほしくないかという、小学校の友だちに会えなくなってしまふからだ。ぼくは、友だちと会えなくなるのがいやだった。

「休校になるな。」
と、つぶやいてしまうほど、心の底から願っていた。

昨年一月、日本で一人目の新型コロナウイルスの感染者が出たとき、ぼくは半信半疑でいた。日本に新型コロナウイルスが来ると思っていなかったからだ。

三月、ついに中北小学校が休校になってしまった。もう、みんなに会えないのかなあと、とても不安になっていった。休校になり、ぼくの不安は増していった。しばらく外に出ていなかったから、運動不足になった。会えていない友だちと、また仲良くしていかんかなどの不安もあった。今まではマスクをせずつけたけど、新型コロナの影響でマスクをしていないといけなくなってしまう。友だちとの距離を取って、話さないといけなくなってしまう

た。ぼくは、とても悲しかった。

長い休校が終わり、学校が始まった。みんなは、とても暗い雰
囲気をしていた。だけど、一日一日過ぎるうちに、だんだん明る
くなり、いつも通りになっていった。ぼくは、とてもうれし
かつた。だって、みんなに会えて、みんながいつも通りになっ
たから。

今も、新型コロナウイルスは流行っている。その新型コロナに
かかってしまった患者さんに対して、差別が起きている。ぼくは、
新型コロナにかかっていない人が、患者さんに差別をするのをで
きただけなくしていきたいと思う。それは、いつ、誰でも新冠
コロナにかかると可能性があるからだ。もし、自分が新冠コロ
ナにかかるとする。そして、新冠コロナにかかっていない友だ
ちに差別をされたら。もし、あなたが差別を受けたら、あなた
はどう思うだろうか。とても、とても悲しいだろう。やはり、
相手の気持ちを自分のこととして考えてみるのが大切なのであ
る。

今も、新型コロナウイルスの最前線で戦っている人がいる。そ
れは、医者や看護師の方など医療従事者の方々だ。ぼくは、
その新冠コロナウイルスと戦っている方々の姿がとてもかっ
こいいと思っっている。その方々に感謝をしながら、一日一日
を大切に過ごしていきたいと思う。

新型コロナウイルス感染症に関する私の思い

中南小 五年 大山 由莉

私は、一年ほど前まではあまり、新型コロナウイルス感染症に

関して「新しい病気」という程度でしか知りませんでした。しか
し、今は新型コロナウイルス感染症を身近に感じる事が増えてき
ました。

まず、私が最近よく考えるようになったのは、コロナに感染し
た患者の増加についてです。日に日に増えていくコロナ感染者の
数を知り、「今日もまた、増えたのか。」と残念に思うようになり
ました。だんだん私たちの住む熊本県や天草でもコロナ感染者の
人数が増えてきています。日本全体、世界全体のコロナ感染者の
数の増加を見ると、コロナの終息はまだまだ先だな、と私は
悲しい気持ちになります。けれど、今、世界の色々なところでコ
ロナの終息に向けて頑張ってくれている人たちがいます。私は、
そんな人たちの事を「すごいなあ。」と思います。その一方で、大
変な思いをしている人たちもいます。看護師や医師、コロナ感染
者の家族です。そんな頑張っている人たちやつらい思いをしてい
る人たちに対して、色々な心無い言葉を言う人たちが許せない
という気持ちも湧き上がってきます。今だからこそ、大変な思いを
している人たちの力になることができるし、力にならなければな
らないのではないのでしょうか。

今、世の中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、変化して
きています。不便なことが多いけど、その中でも良くなったこと
もあると思います。例えば、コロナの感染予防で手洗い・うがい
をする人が多くなったことで、インフルエンザにかかる人が少な
くなったと言われています。だから、マイナス思考ではなく、プ
ラス思考で考える事が必要になってくるのかもしれない。

今年度学校では、入学式や遠足など、たくさん学校行事が中

止になったり、短縮したりすることになりました。社会全体を見ても、多くのイベントが同様の状態です。コロナの終息を願う人たちがたくさんいるかもしれないけど、そのためには、努力していかなくてはなりません。コロナ終息のためには、たくさんの方の努力と他人を思いやる気持ちが大切だと思います。私は、そんな人になりたいと思っています。そのために、現状をしっかりとらえ、自分にできる事を考えていきたいと思っています。

これから先私が大人数になった時、またコロナのような新しい病気が流行することも考えられます。私は、その時、コロナの事で学んだことや経験を生かせるかもしれないと思うから、自分で考えられる予防と対策をしっかりと実践していこうと思いました。しかし、コロナは、長い間ずっと終息しないかもしれません。過去に「天然痘」という病気が流行し、長い間ずっと終息しなかったそうです。今、しっかりと感染予防や対策をしていると天然痘よりも早く終息するかもしれないから、しっかりと感染予防をする方がいいと思います。

今、世の中は変わってしまいました。感染予防のためにマスクをずっとつけて、手洗い・うがいをこまめに行い、ずっと換気をするなど、みんなが協力して感染予防をしています。これまで行っていた教室での授業がオンライン授業になったところもあつたそうです。外出自粛期間は友達と遊べなかった人もいるけど、いろいろな工夫をして遊んだり、新しい遊びを生み出したりもしていたそうです。コロナで大変な思いはしているけど、私は、これも大事な経験と思い、みんなが協力して乗り越えていけると思っています。

コロナウイルスに負けない

中南小 五年 北岡 大知

昨年二月に新型コロナウイルスが発生し、日本でも感染症として、次々と感染者が増えていきました。新型コロナウイルスに感染すると、咳や発熱、おう吐や肺炎などの症状が引き起こされます。すでに何らかの病気を持っている人は、感染した時のリスクが高くなり、最悪の場合、死にいたることもあります。感染力が強く、これまで世界中で百万人以上の人が亡くなりました。日本でも二月から四月まで感染者が増え続け、四月にはとうとう緊急事態宣言が発令され、仕事や学校に大きな影響を及ぼしました。学校は臨時休校になり、六月までほとんど授業ができませんでした。そのため、友だちとも会う機会がほとんどなくなり、外出することもできなくなりました。六月に学校が再開されてからも、毎日マスクをつけるようになり、机の間隔も大きくあけ、勉強の時も給食の時も友達と机を並べることができなくなりました。これまでと違った学校生活に慣れるまでは、たくさん戸惑いがありました。

普段の生活だけでなく、学校行事にも影響が出ました。例年五月に開催される運動会が、今年十月に開催され、密にならないようテントの数を少なくしたり、競技の種類が減ったり、徒競走や組体操ではソーシャルディスタンスがとられていたりして、感染しないように工夫されていました。運動会が開催されたのはうれしかったけれど、短い時間で終わったのは、寂しい気持ちでした。

他の場面では、国外に行けなくなったり、オンラインで授業

を行ったり、お店などの営業時間が短くなったりしました。ぼくも家族や親せきなどで旅行に行く計画を何度も立てましたが、今でもまだ行けない状況で、これから先もいつ行けるのか分かりません。楽しいことが、どんどん減って、本当に悔しいです。

二学期になり、新しい生活様式に少しずつ慣れてきました。しかし、以前は大きな声で発表していたけど、今は大きな声で発表できないし、常にマスクをはめているから、話しにくかったり聞き取りにくかったりします。授業では、次に休校になった時のことを考えて、タブレットを使った学習なども行うようになりました。新しい生活様式に慣れても、次から次へと新しいことが入ってきて大変です。それでも、今また、感染者が増え続け、一部の地域で緊急事態宣言が発令されることになりました。ぼくの県でもいつまた緊急事態宣言が発令されるか分かりません。

このように今でも油断できない現状ですが、新型コロナウイルス感染症にかからないように、毎日の手洗い・うがいをこまめに、換気を十分おきにしたり、マスクをちゃんとつけたたり、大人数で集まらず、人と人の間隔をあけるようにしたりすることが大切だと思います。実践しています。世界中の人がこのようなことを守っていけば、新型コロナウイルスに感染する人は減っていくのだろうと思います。すぐく簡単なことなのに、感染者がどんどん増えている理由は、子どもにとっては簡単なものかもしれませんが、大人にとっては、すごく難しいことだからかもしれません。でも、難しくても、ちよつとずつ実行できるように頑張れば、新型コロナウイルスの感染をおさえることができるかもしれない。一人一人が、みんなのことを考えて行動することが大事だと

思います。

新型コロナウイルス感染症という病気は、ぼくたちの生活環境を大きく変えてしまいました。学校も友達も、毎日観ているテレビも。当たり前過ぎていた毎日が、当たり前でなくなっていました。これまで、新型コロナウイルス感染症が起ることなんて、思いつきもしませんでした。そう思うと、来年も何が起るか分かりません。だから、何があっても後悔しないように、毎日いっしょけんめい頑張ろうと思います。

家族と会えて、学んだこと

阿村小 五年 林 更紗

新型コロナウイルスのえいきょうで、町の様子や働いている人たちの様子が変わっていった。

ニュースを見て、しよげきを受けた。

「一番大変な方たちは、お店の方たちです。」
テレビから聞こえてきたコメンテーターの声だ。これは営業時間が短くなったり、休業したりしている人のことを思った声だ。

私は、営業時間を短くしたり、休業したりしている人たちも、少しずつ営業時間を長くしたり、休業をへらしたりした方がいいと思う。

それに、私たちの通う学校についても、休業はなくすべきだと思う。その理由は、わたしたちは、ふだん、学校で学習をしているけど、新型コロナウイルスのえいきょうで、りん時休校にな

り、学習できない時があったからだ。りん時休校の四、五月、わたしはずっと、自分で勉強するとき、本当に分かっているのか、不安になり、先生やみんなと学習する大切さを強く感じた。

外出もできず、家にいないといけなくて、毎日たいくつだった。お店に行っても、マスクをしたり、きよりをとってならんだりしないといけなくて、大変な思いをしていた。

何よりも、辛かったのは、家族と会えないことだった。わたしの姉は、高校二年生。今は、熊本市内の高校に通っている。もちろん、家から通うことはできない。だから、高校の近くの下宿に住んで、毎日、学校へ通っている。同じように、兄もこうし市というところにある高校に通っているが、りよう生活をしている。

ある時、お母さんがけわしい表情で電話をしていた。その声は、不安そうで、

「帰ってこない方がいいし、もしかしたら、かかっているか分からないよ。」

と、言っているのが聞こえた。

また、父は今、船乗りをしている。仕事場が鹿児島にあり、いつもはなれて生活している。父もまた、コロナウイルスのえいきようで仕事場から阿村に帰れないことになった。

わたしの家族は、はなれた所で生活をしている。これは、いつものことだ。でも、コロナウイルスで、家族に何かあっても、わたしや母には、何もできない。大切な家族なのに、何もできないことは、本当に辛い。

四月から休校になったことで、姉と兄には、すぐに会うことができた。でも、父とはずっと会うことができなかった。会えたのは、五月になってからだ。

わたしや家族の顔を見たしゅん間、父は、笑顔になって、「ただいま」

と、元氣よく言った。わたしも、笑顔になり、

「おかえり」

と、元氣よく言った。

帰ってきて、しばらくして、わたしが部屋にいるとき、お父さんが部屋に入ってきて来て、

「元氣だった？」

と、聞いてきた。わたしは、

「元氣だったよ。」

と答えた。短いやりとりだったけど、父と話していて、とてもうれしくなった。父の顔も、いつもよりもこにこ笑顔で、うれしかったにちがいない。

コロナウイルスでたくさんの方が大切な人と会えなくなってきている。会えないだけでなく、心配しても、思っているだけで、行動できないことは、とてもつらいことだ。早く、大切な人と会える生活にもどりたい。

コロナウイルスという壁

今津小 五年 藤本 菜々

今から約一年前、中国の武漢という都市で、コロナウイルス感

染が確認されました。最初のころは、私たちには関係が無いと思っ
ていました。しかしそのえいきょうは、私たちのところにすぐ
にやってきました。

その一つ目は、マスクです。コンビニやスーパーにたくさんあ
ったマスクが一つも無くなってしまいました。そして、あつたと
しても一箱三百円だったものが五千円以上の値段になりました。
それだけでなく、トイレレットペーパーやティッシュまでもお店か
ら無くなりました。

二つ目は、学校のりんじ休校です。りんじ休校中、私は宿題を
してテレビを見て好きなことをしてという日々をくり返してい
ました。

その時、困ったことがありました。それは、友達や家族と外へ
出かけたりに遊びに行ったりできないということでした。とてもさ
みしい気持ちになりました。だけど、相手も自分も感染してはいけ
ないので、がまんしないといけないと思いました。それから、お
母さんの仕事についても心配しました。学校がりんじ休校中、お
母さんの仕事も休みになりました。私は、仕事が休みになること
で給料がもらえず、毎日ご飯を食べられるか不安になりました。
だから私は、毎日安心してご飯を食べられることはありがたいと
いうことが分かりました。

そんな不安な世の中になった上に、さらに悲しい出来事があり
ました。それは差別です。以前、ニュースで「病気になるのが怖
いから、人を差別してしまう。」という言葉を見て頭からはな
れませんでした。病気になることはみんな怖いんです。でもだから
といって差別をしていいというわけではありません。差別をされ

た人は、悲しい気持ちになるだけでなく辛い気持ちにもなります。
だから、差別は絶対にしてはいけないと思います。

そしてそんな中、医師や看護師などのいりようじゅうじ者の人
たちはすごいと思います。自分もコロナウイルスにかかるかもし
れないのに、コロナウイルスに感染したかん者さんを救おうと一
生懸命だからです。だから私は、一人一人がコロナウイルスにか
からないように意識して感染者を減らすことで、次は私たちが医
師やかんご師などのいりようじゅうじ者の方々を救わなければ
いけないと思いました。

私はこれからの生活で、毎日手洗いと消毒をして外出をひかえ
ることを続けます。そしてこれまで以上に、人ときよりをとるこ
とやマスクをはめることを意識したいと思います。それは、関係
無い人をまきこみたくないし、一人一人がやらないといけないこ
とだと思わからです。一人がぐずれると全体もぐずれます。だか
ら、これからもがまんすることが続くと思うけど、みんなで協力
してコロナウイルスという壁を乗り越えたいです。

忘れてはいけないこと

今津小 五年 吉永 麻幸

去年ぐらいから、新型コロナウイルスという伝染する病気が流
行したことを覚えていきますか。この新型コロナウイルスは、世界
中の人々の心を苦しませたり傷つけたりしました。そして、この
新型コロナウイルスのせいで世界中の人達の生活が非日常の生
活に変わっていきました。

外出時はマスク着用が絶対。緊急事態宣言が出ることもありました。その中でも、私がつまっている学校生活へのえいきょうが大きかったです。机の上にはシールド。いろいろな行事がいつもと違うかたちになり、集会などは放送やリモート。私の大好きな音楽の授業では、歌を歌うことができなくなったり合奏ができなくなったりしました。それでも先生方は、どうにかして行事などができるようにとものすごく考えてくださいました。このように、新型コロナウイルスに立ち向かって、私たちのために深く考えてくださった方への感謝の気持ちを忘れてはいけないと思いました。

そして、何より新型コロナウイルスに関して悲しかったことがあります。それは差別です。新型コロナウイルスに感染された方の名前をネット上に書きこんだり、「あの人、コロナになったんだって。家族にも近づかないこと。」とうわさを言ったりさまざまな差別がおこりました。コロナハラスメントという言葉もあるそうです。その中でも、私はいりようじゅうじ者の方への差別にはとても胸が痛みました。いりようじゅうじ者の方々は、新型コロナウイルスにかかった方々を治すために最善をつくしてがんばっていらっしやるのに、患者さんと関わっているからと差別するのはおかしいと思います。差別をしている人の気持ちを考えると、新型コロナウイルスというよく分からないウイルスが出てきて不安な気持ちでいっぱいなんだと思います。このようなことは水俣病と似ています。水俣病は、初め何が原因でおこる病気か分かりませんでした。そして水俣病を治す薬はありませんでした。その不安から差別がおきました。近所の人であっても差別をし、

水俣市民というだけでも差別をし、人の気持ちを考えずに差別をしていました。差別は絶対にしてはいけません。私たちは正しいことは何かを知り、人のことを思いやった行動をしなければならぬと思います。

新型コロナウイルスのえいきょうで心が落ちこんだ人も多いと思います。しかし、私たちは負けません。新型コロナウイルスで亡くなった方の分まで生きて、幸せにならないといけないと思います。これまでの日常を取り戻せるように、今こそみんなで団結しなければいけないと思います。

臨時休業期間中にやったこと

教良木小 五年 田中 大揮

四年生の三学期の終わりごろ、校長先生が放送で、「新型コロナウイルス感染予防のため、学校は、臨時休業します。」とおっしゃいました。ぼくは、そのとき心の中で「やったあ。たくさん休みができたぞ。」と喜びました。

臨時休業期間が始まって、ぼくは、今日から学校に行かなくていいというきうきしていました。ぼくの家はお寺なので、父から、「時間もできたし、これからは早く起きて、朝のおつとめをしようか。」

と言われました。おつとめとは、本堂でお経を唱えることです。ぼくはそれを聞いたとき、「めんどくさいな。」と思いました。けれども、父の言ったとおり、きちんと朝早く起きて、おつとめをすることができました。ずっとやっているうちに、仏様にあげる

お経を覚えることができたし、朝早く起きるといことが身に付きました。

臨時休業中は、家族であることに挑戦しました。それは、いす作りです。古くなつたいすのほね組だけを利用しました。最初、そのいすには、木のかわをまいて作つてあつたので、それを取る作業をしました。はさみを使って切つていきました。切つた後、ほね組に水色のペンキをふきかけ、山からとつてきた竹をすわる所に使いました。完成したいすは、ペランダにおいて使つています。

また、勉強もがんばりました。最初の方は勉強をあまりせず、登校日の前にたくさんやつて、あせていたことがありました。でも、それからは、決められた時間に決められた量をやることができました。また、分からないことがあつたら調べたり、先生に聞いたり、友達に聞いたりして分からないところをなくしていきました。

臨時休業中は、妹も兄も家にいたので、三人で仲良く遊びました。特に、兄は遠い学校に行つていて、遊べるときに、週に一、二回ほどしかないのです、とても楽しかったです。それに、家族で夜にバーベキューをすることもありました。お好み焼きを作ることも多かったです。ふぐの天ぷらも焼いて食べました。とてもおいしかったです。

臨時休業中は、楽しいことがいっぱいあつたけど、ずっとすごしていくうちに、さみしい気持ちになつていきました。休業期間が始まつてから、習い事も休みになつてしまつたし、友達にも会えなくなつてしまつたからです。また勉強面でも、「おくれな

いかな。」と思つてしまうことがあつたり、「大丈夫かな。」と心配になつたりするときもありました。

そのような時、ぼくは、今まで当たり前だと思つていたことがとつぜん当たり前ではなくなつたことに気がつきました。ぼくは初めて自分がやつていふことや友達、学習の大切さなどを知りました。

これから、いつ臨時休業になつてもおかしくない状況だけど、もしそうなつたとしても、様々な発見をして成長していきたいと思ひました。

新型コロナウイルスでの変化

姫戸小 五年 楠本 夏希

令和二年、一月に日本で初めての新型コロナウイルス感染者が確認されました。その日から、新型コロナウイルスの感染症対策が始まり、私の生活は変化しました。たくさん変化がありました、主に三つあります。

一つ目は、コロナ対策です。ソーシャルディスタンス、手指消毒や体温測定などがあります。しかし、一番変化したのは、マスク着用です。そのときは、まだ給食準備のときしかマスクを着けていませんでした。新型コロナウイルスが流行りだしてからは、一日中マスクを着用しないといけないなつたので、マスクの中がむれたり、紙マスクの中が水滴でいっぱいになつたりしました。店にマスクを買いに行こうとしても、品切れになつていました。それがまず、私の生活が変わつた一つ目のことです。

二つ目は、熊本市に住んでいる祖父母に会えないことです。緊急事態宣言が発表され、飲食店の時短営業や不要不急の外出をしないよう求められました。人とのせつしよくを減らすことも求められたので、感染予防のために祖父母の家には行けなくなりました。祖父母に会ったら、学校のことを話したり、一緒に買い物に行ったりしたかったです。それが、私の生活が変わった二つ目のことです。

最後の三つ目は、水俣に行つての「水俣に学ぶ肥後っ子教室」ができなかったことです。五年生といたら、集団宿泊教室と「水俣に学ぶ肥後っ子教室」です。その「水俣に学ぶ肥後っ子教室」が新型コロナウイルス感染症のえいきょうで中止になりました。四年生の二学期には、「水俣に行つて語り部さんの話を聞いたり、水俣病資料館に行つたりするのかな」と、水俣病や環境について学習する気持ちが高まっていました。しかし、五年生になり、新型コロナウイルス感染症が流行り始めたときに、担任の先生から「水俣には、新型コロナウイルスの感染予防のため、行けなくなりました。」

と言われました。そのことを聞いたときは、とてもショックでした。当たり前にあると思つていた「水俣に学ぶ肥後っ子教室」がなくなり、とても悲しくなりました。それが、私の生活が変わつた三つ目のことです。

しかし、うれしかったこともありました。それは、集団宿泊教室があったことです。「水俣に学ぶ肥後っ子教室」がなくなつたので、「集団宿泊教室はないだろう」と思つていました。みんなが青年の家に行き、感染症対策を徹底しながら、楽しい時間を過ご

すことができて、とてもうれしかったです。しっかりと学ぶこともできました。それが一番うれしかったです。

最後に、これからの生活に生かすことが二つあります。

一つ目は、まだ新型コロナウイルス感染症が流行つているので、感染対策を徹底することです。新型コロナウイルスは誰にでも感染するので、自分が感染して他の人にうつさないようにしたいです。

二つ目は、差別・偏見をしないことです。誰でも感染する可能性があります。だから、近所の人が感染したり、自分の身の周りの人が感染したりするかもしれません。近所の人が感染しても、「あそこの人、コロナに感染したんだって。」

「近よらんどこ。」
などと言つてはいけません。その言葉は、感染した人やその家族を傷つけます。だから、絶対に差別・偏見はせず、正しい態度で接していこうと思います。

新型コロナウイルスが流行してから

龍ヶ岳小 五年 林 伊織

去年の三月から全部の学校が休校になって、みんながパニックになりました。姉とぼくは、最初はうれしかったけど、だんだん学校に行きたいと思つていました。外にも行けなかったので、毎日たいくつしていました。学校に行けたときは、うれしかったけど何もかも中止になつたし、運動会も午前中だけになりました。テレビでは、どのニュースも新型コロナウイルスが出てきたり、バラ

エティーは前、放送したのを放送していたので新しいのが見たいなど思ったりしました。どのお店でもトレットペーパーやティッシュ、紙マスクが品薄になっていました。ぼくが、一度かぜをひいたとき、いつもなら何とも思わないけど、コロナかもしれないと思っていたのでいつもより怖かったです。新型コロナウイルスでいとこや親せき、熊本市のおばあちゃんの家にも行けないので、夏休みや冬休みがさみしかったです。

東京は、コロナ感染者が七万人以上いるので東京で一人暮らししている高齢者は、大丈夫かなと思います。特にぼくの住んでいる町、龍ヶ岳町は高齢者が多いのでより心配になります。心配なのは、新型コロナウイルスだけではありません。集まることのできないため老人会などが中止になっていそうです。高齢者は、外出して人と会う機会がなくなり運動不足による筋力低下や認知症になるおそれがあります。

飲食店も同様です。次々とつぶれていって失業者も増え続ける一方です。コロナが収束したころには、今までの生活ができるのか心配です。

新型コロナウイルスがもたらした影響は、はかりしれません。コロナが初めてニュースになったときは、すぐにおさまるだろうと思ひ、こんな大事になるとは思いませんでした。

もし、新型コロナウイルスが流行り続けたら、どうなるか未来が心配になります。

今年の二月からワクチン接種が医療従事者から始まるそうです。このワクチンがもしコロナに効いて終息しても、まだまだ課題はあります。また未知なるウイルスが出てくるかもしれませぬ。

ぼく達は、何ができるのか、何をすればいいのかを考えて行動しなければいけないと思います。

最後に、新型コロナウイルスで志村けんさんが亡くなったと聞いて、とても悲しかったです。もうぼくが知っている人が、このような形で亡くなるのはいやです。早くふつうの生活にもどれるように、新型コロナウイルスは終息してほしいです。

コロナに負けない

龍ヶ岳小 五年 浦下 治也

四年生の三月から、新型コロナウイルスがはやり始め、よくわからないまま臨時休校になりました。

父も母も仕事のため、じいちゃんとはあちゃんの家で遊んだり、宿題をしたりしました。じいちゃんの家で見るテレビは、新型コロナウイルスのニュースでした。中国ではやり、日本でも多くの人々が感染しはじめました。最初は、風邪みたいなものかなと思いましたが、亡くなった人も多くてとてもこわいウイルスだとわかってきました。友達と遊ぶこともできず家にいるときには、家の前でバスケットボールやなわとびをしていました。ゲームをすることも多くなり、お父さんに注意されました。

そして、ぼくが大好きなバスケの練習も休みになり、あたりまえの生活がコロナで変わって楽しみが減りました。もつと外で遊びたい。もつとバスケがしたい。家族と出かけたつりをしたり、そんな生活が急に変わった気がしました。コロナでニュースを見ている中で、コロナ差別のニュースを見ました。みんな、なりた

くてなった病気ではなく、どこかで感染して苦しんでいるのにと、とても心がいたかったです。早くコロナなんてなくなればいいのにと思いました。しかし、感染した人は増えていくばかりです。病院で働いている看護師さんは、コロナの中で一生懸命働いてくれているのに、差別にあつたりひどいことを言う人がいて、とても悲しいです。もし、自分の家族がコロナになったらどうするのだろう。差別されたときに、うれしい気持ちにはならないはずです。確かに、コロナはこわいし、自分もなりたくないです。だからこそ、みんなのできるかぎりの注意をしなくてははいけません。今も、学校で手洗い・うがい・マスクなどあたりまえのことですが、みんなで協力しています。

ぼくのおじさんは、愛知県にいます。コロナが出てからは、熊本へ帰ってきていません。会いたいけど、会うことができません。お正月も電話をしました。仕方がないことですが、とてもさびしいです。きつとおじさんは、帰ってきたいのにがまんしているんだなと思いました。

新型コロナウイルスで飲食店などの営業時間の見直しのニュースをよく見ますが、生活がきびしくなると聞いて、変わりゆく環境を感じました。

なるべくなら、外に出ないようにしよう、三密を心がけようと思いますが、完璧にできているかといえば、なかなかできていないことも多いです。バスケも、今はまだできていますので、練習をたくさんしていますが、天草でもコロナが多くなりつつあります。また、練習がなくならないかとても心配です。でも、コロナで苦しんでいる人を考えると、自しゆくも仕方ありません。

今では、ウイズコロナやアフターコロナなどとよく耳にしますが、一日でも早くワクチンができるといいなと思います。ワクチンができたなら、少しでも多くの人が助かり、コロナがなくなるといいなと思っています。自分が知っていることは、ほんの少しですが、コロナで苦しみ、悲しんでいる人はとても多くいます。周りのことを考えて行動し、外に行くときは、マスクをして消毒も気をつけていきたいです。コロナに負けず、明るい世の中になつてほしいです。

【六年生】

コロナに教えられた大切なこと

登立小 六年 山下 泰輝

「やったー。」

という言葉や、

「えー。」

という言葉が教室の中に飛び交った。なぜなら、昨年度の二月の終わり、突然三月いっぱい臨時休校が決まったからだ。

初めは正直嬉しかった。家でゴロゴロできるし、好きなゲームがたたくさんできる。しかし、しばらくすると毎日家にいるのも飽きてきた。友達とも話せないし、遊べないからだ。

「ひまだなー。」

と言う日が増えてきた。運動もなかなか満足のいくようにはできなかった。学校の運動場にも行けなかったからだ。ぼくは、友達と一緒にいられることが喜びだと気づいた。

そして、ぼくは六年生になった。令和二年四月、いよいよ学校が始まった。ぼくは、「やっと友達に会える」と思った。しかし、その思いもむなしく、何日かしてすぐにまた休校になってしまった。ぼくは、「また一人で遊んだり、運動したりするのは嫌だな。」と思った。唯一、友達と話せるのはゲームだった。自分の一番好きなゲームをしながら、ゲーム上で友達と話せるというのが、何だか楽しかった。

五月になると、学校からのメールで、「学校で遊んでいい」とい

う連絡がきた。友達に連絡して、待ち合わせをした。久しぶりに友達とするサッカードも楽しかった。友達と話したり遊んだりできるのが、こんなに楽しいものだったのだと改めて感じた。学校のこと以外にも、問題が起きた。トイレットペーパーやティッシュ、マスク、消毒が品うすになってしまったことだ。初めは、お母さんから聞いた。

「たいき、もうトイレットペーパーやティッシュ、マスク、消毒がないから大切に使つてね。」

と言われた。ぼくは、「えー。嫌だなー。」と思った。特にマスクは、長い間どのお店にも売ってなかった。五月から週に一回あった登校日では、紙マスクを無駄にしないように大切に使った。布マスクを使うようにもなった。ティッシュも、あまり考えずにどんどん使っていたが、一枚一枚必要な分だけ使うようにした。以前より物の大切さを感じるようになった。

このように、友達と会える喜びや、普段使っている物のありがたみなど、コロナの感染拡大によって、今まで気付かなかった大切なことを教えられた気がした。これからは、友達の大切さや物の大事さをずっと忘れないように生活していきたい。

みんなが暮らしやすい社会をつくるために

登立小 六年 澤田 みなみ

「新型コロナウイルスの感染者が急増しています。感染対策を徹底しましょう。」

ニュースでは、いつもこの言葉を耳にします。たった一種類のウ

イルスによって、日本だけでなく、世界中が混乱していることが分かります。私たちの暮らしも大きく変化しました。

今までは、友達とたくさん話ができていました。肩を組んだり、ハイタッチもしたりしていました。運動会では、大きな声で応援していました。しかし今は、その「当たり前」ができません。その反対に、マスクの着用や消毒はもちろん、友達とあまり会えないなど、様々な新しいことが日常になりました。これが私たちの新しい「当たり前」なのです。息苦しく感じることもたくさんあるけれど、この大変な状況をたえなければ、以前の日常はもどつてきません。今は、日本中が協力しなければならぬと思います。

しかし、息苦しく感じているのは、私たちだけででしょうか。それは違います。私たちのような、感染防止に取り組もうとしている人たちだけでなく、感染者や医療従事者の方々もこの息苦しさを感じているのです。

感染者は、早く治そうと努力しています。重症者も人工呼吸器をつけて一生懸命生きようとしています。医療従事者の方々も、感染者を早く治してあげようと夜中も働いています。このようなことに対しても、感染者や医療従事者の方々も、辛く感じていると思います。

そして、さらに苦しさを辛さを感じているのは差別です。感染した人は、なぜ会社を辞めなければならないのでしょうか。感染した人は、なぜ悪口や陰口を言われなければならないのでしょうか。医療従事者の方に、冷たい言葉を言う人がいるのはなぜでしょうか。その家族や友達にまで、冷たい視線を向ける人がいるのはなぜでしょうか。これらの差別が起きている今、日本中で協力

できているといえるのでしょうか。感染者や医療従事者の方々は、目の前の壁を一生懸命乗り越えようと努力しています。感染した人は、療養中で遅れた分の仕事や勉強を必死に行っています。医療従事者の方々は、どうすれば感染が広がらないのか必死に対策しています。

そのような一生懸命努力している人を傷付けることは、絶対にしてはいけません。許してもいけません。感染者や医療従事者の方々の努力を私たちは見習わなければならないと思います。私たち自身も、感染者をこれ以上出さないために努力しなければいけません。それと同時に、人を傷付ける差別を生み出してはいけません。

そのためにも、人を思いやり、みんなが安心して暮らせる社会をつくっていくことが大切です。今こそ、日本中の協力が必要なのです。

コロナウイルスの心配

登立小 六年 平山 優斗

コロナウイルスが流行してから、この一年間は、様々なことが変化しました。そして、以前までは当たり前だったことが、当たり前ではなくなりました。

ぼくは、心配事が増えました。自分が感染してしまうのではないかと、家族が感染してしまうのではないかと考えるとても不安です。その心配があるからこそ、ゲームセンターに行けなかったり、友達と休日に遊べなかったりします。上天草市でも、感染者が数

人出ているので、どこに行くのにも慎重になります。

学校では、毎日登校してからと給食の前にもアルコール消毒をし、給食の時間以外ずっとマスクをして感染予防対策をしています。友達とのスキンシップも気軽にできないことや、授業中に飛沫防止ガードで周りが見えづらいことなど大変なことが多いです。

近所でも、コロナウイルス感染が心配だという声を聞きます。近所のお店で感染者が出てしまったら、お店が臨時休業になります。そしたら、近くの空いているお店がなくなってしまい不便になってしまうそうです。お店がわもそうです。臨時休業になってしまったら、働いている人たちにお金が入って来ません。コロナウイルス感染が広がってしまうと、ぼくたちだけでなく、多くの人々が困ってしまうと感じました。

一刻も早く、コロナウイルスが収束し、以前の生活に戻ることができるとを願っています。

みんなと元気いっぱい遊びたい

登立小 六年 杉本 憲二良

コロナウイルスが流行してから、この一年間は、自分たちの生活がとて変わりました。

まず、ぼくは、心配事が増えました。理由は、たくさん感染する人が増えてきたからです。どんどん広がって、自分や家族がかかってしまったらと思うととても不安です。

そして、イライラする日も続いています。休校によって家での

生活が二カ月続きました。その間は、友だちと会えないことや、家での勉強時間ばかりでとてもストレスを感じていました。家での勉強は、何をすればよいのかも分からない、国語や算数の問題で先生に質問したいときに行うことができないといった困ったこともありました。学校が始まってからも、毎日マスクを着用し、消毒をこまめにして、体温を測り、と新しい生活様式に慣れるまで時間がかかりました。また、交流クラスでは、十分な距離感を保つのも大変ですし、飛沫防止ガードも周りが見えづらく大変です。

たくさん、我慢することも増えましたが、よかったこともありえます。それはウイルス感染を防ぐために、手洗いがいい、消毒や換気をこまめに行っているおかげで、体調を崩すことや他の感染症にかかる人が減ったことです。これは、コロナウイルスが収束しても続けるべきだと思います。それだけでなく、タブレットを使う授業も増え、少しずつ使いこなせるようになってきました。ぼくは、早くコロナが収束して、みんなと元気いっぱい遊びたいです。

自分にできることを

維和小 六年 山崎つくし

二〇二〇年は、コロナウイルスで休校になったり、行事がなくなったり、いつもと違うクリスマスや、お正月を迎えたりと変わったことがたくさんありました。いつも何人もの人が感染し、亡くなり、その数は一日たっても、二日たっても、何か月たっても

増えていって、私の不安も増え続けました。

学校が始まり、先生たちや、友達と久しぶりに会い、私の不安は少し減りました。そして、感染した人が、何百人、何十人に減ってきて、「もうすぐで、感染する人も、亡くなる人もいなくなつて、またいつもどおりの学校や、いつもどおりのニュース、いつもどおりの世界になる。」と、私はとても安心しました。みんなと話しながら給食が食べられるし、みんなとマスクがなくても、近づいて会話ができることを、とても楽しみにしていました。東京にいるお姉ちゃんとも、鹿児島に出張に行っているお父さんとも、普通に会うことができると思つて、とても嬉しかったです。

夏になると感染する人も少なくなりました。でも、ニュースで「第二波が来るかもしれない」といふ言葉が聞かれました。

冬が近づくと、だんだん感染者や、亡くなる人が増えてきました。私は、また休校になったり、何万何千人の人が感染したり、亡くなっていくのかと思いました。

ニュースでは、コロナウイルスのことばかりあつて、毎日不安が増えてきました。コロナウイルスに感染した人を差別したり、コロナウイルスに感染していなくても、何々県の人が出たからと言つて、その県の人たちを傷つけたり、助け合えないといけないのに、ツイッターややはり紙などで相手を傷つける、ということも増えてきました。私は、コロナウイルスに感染してしまつても、周りの人や家族に迷惑をかけてしまう、自分がコロナウイルスにかかったと多くの人を知ったら、何か言われてしまうかもしれないという不安が大きくなって、言い出すことができなくなつてし

まうのではないかなと思います。私だけではなく、ほかのたくさんの人もそう思っている人がいるのかもしれないので、少しでも正直に言い出すことができるような世界になってほしいな、と思っていました。

私は、今年で中学生になるので、卒業式や入学式が行われるかなど心配なことはたくさんあります。ただ心配するだけではなく、今自分にできる「手洗い、うがい、消毒、マスク」などの小さなことでも続けたり、他の人に呼びかけなどをしたりして、コロナウイルスが拡がらないようにしたいです。

コロナウイルスの感染者や亡くなる人が減つてきても気を抜かず、「また、増えてしまうかもしれない」という思いを持って、自分にできることを精一杯していきたいと思っています。

そして、コロナウイルスがない世界にもどつてくれることを願っています。

うばわれたあたり前で幸せな生活

上小 六年 西口 幸花

私が、6年生になる前に世の中が急変した。その理由は、「新型コロナウイルス」だ。小学校生活をまんきつしたいと思つていたのに。そして、すぐに学校は休校となった。また、バレーボールクラブの練習もなくなった。そして、練習したことを試すためのバレーボールの大会もほとんどが中止になった。

休校になったときは、正直、「やったあ。」と思つていた。学校に行かなくてもいいし、朝も少しゆっくり起きてもいいからだ。

でも、その気持ちは、一しゅんだった。少し経ったら、「学校に行きたい。」「友達に会いたい。」という思いが強くなった。家で一人で勉強しているだけだと、全然楽しくないし、やる気も出ない。しかも、今年最後だったバレーボールクラブもなくなり、大事な公式戦もどんどん中止になっていった。これからもつとうまくやりたい、強くなりたいと思っていたのに。コロナは、私たちの「小学校教育最後の年」を台なしにした。私は、学校が再開したときに、きちんと学習を終えられるか不安にもなった。また、家族で早くお出かけができるようになりたいとも思った。だから、自分ができることをやろうと決心した。

学校が始まった。友達やみんなに会えてうれしかった。でも、消毒やマスク、距離をとらないといけないという苦痛の日々が始まった。私は乾そう肌であるため、消毒をすると手が荒れて痛かった。また、マスクをして肌荒れるということもあった。こんな日々が続くと思うと、本当にいやな気持ちになった。でも、学校が休校にならないために、がんばった。早く元の生活にもどってほしいと思った。マスクも、運動をするときでもつけておかないといけないから、とつてもきつい。本当にいやだと思った。また、今では体育館での授業。寒くて、足先なんか感覚がなくなるくらい冷たくなる。手なんて字を書くときにふるえるし、おかしくなるくらい冷たい中での授業。ストーブに休み時間あたると、すっごく暖かい。

コロナのせいでそうなったから、早く終息してほしいと思う。新しい生活様式になって、大変になったことはたくさんある。私たちも大変だけど、医療関係者の方は、もっと大変だと思う。私

も気を抜かずに、マスク着用や消毒を心がけようと思う。みんなきついし、大変だから、この大変なことを乗り越えて、これ以上、大変なことにならないようにしたい。

これから、卒業まで気合いを入れて、みんなが笑顔で、思い出に残る卒業式にしたい。そして、この大変な時期だからこそクラスのみんで団結して乗り越えたい。

あと少しの小学校生活だけど、最後まで心残りがないように過ごそうと思う。私もコロナウイルスに感染しないように、手洗い、うがい、マスク着用、消毒を、これまで以上にがんばろうと思う。

コロナウイルスで変わった生活

上小 六年 川端 竜平

昨年のはじめに中国の武漢でコロナウイルスが発生し、日本をふくむ世界各国に大きな影響をもたらしています。現在、日本では、一日に五千人もの人々に感染が広がって、人々は未知のウイルスの恐怖にさらされています。

実際にぼくの周りの生活も大きく変化しました。学校では、三月から約三か月間の休校があり、学校の友達と会わず、自宅で生活しました。学校の先生は、たくさん宿題を出してくれましたが、学校での授業よりも勉強に集中できず、学校で実際に授業を受けるようにはうまく学習できませんでした。六月になり、やっと学校が再開しましたが、今までのような楽しい学校生活は送れませんでした。

学校では、きつくても常にマスクをつけていなければいけません

ん。友達に近づいて楽しく遊ぶこともできません。給食を食べる時も、いつものようにみんなで席をくっつけ合い、おしゃべりしながら食べることもできません。音楽の授業でみんなで合唱することもできません。コロナウイルスによって、学校生活はきゅうくつなものとなりました。

また、最近では、熊本県独自の緊急事態宣言が発令され、席と席の間かくを最低一メートル以上空けなくてはいけないことになり、クラスは二クラスに分けられ、五・六年生は、寒い体育館で授業を受けなくてはならなくなりました。家族の間では、週に一回遊びに来てくれていたおじいちゃんもあまり来ないようになり、正月は、みんなが集まることもなくなりました。

何か月前に、コロナウイルスに感染した人の家族に生卵を投げつけるということがありました。ぼくは、この話を聞き、人は本当は助け合わなければいけないのに、コロナにより人と人が争うようになったのではないかと心配しています。

今、まさに、コロナ禍の中にいますが、今こそ人々が思いやり、助け合いの精神をもって、これからの未来を生きて行かねばならないと思います。

コロナ禍を乗り越えた後のアフターコロナは、より人々が助け合って生きていく世の中になればいいなと願っています。

新型コロナウイルスでの生活の変化

上小 六年 森 勇人

新型コロナウイルスが日本で新発見されてから、約一年が経つ

た。その一年間で、自分達にもすごく変化があった。学校が休校になり、行事が延期・中止にもなった。今でも、クラスを半分にしたリ、学習の場所を教室から体育館に変更したりして、感染対策をしている。中でも大変なのは、マスクをずっとつけなければならぬことだ。しゃべる時や遊ぶ時にもしなければならぬ。そんな対策をしても、現在、日本では感染が急拡大している。それはなぜだろう。世の中では、学校や会社などで十分な予防をしているはずだ。医療関係の方も感染拡大を防ぐために一生懸命がんばっている。

ではなぜか。それは、ごく一部の人がマスクをつけていないからだと思う。しっかり対策をしていたのなら仕方ないと思う。しかし、マスクをつけていなくて感染するというのなら、とても腹が立つ。小さな子どもでもするというのに。みんな一人一人が意識をしていけば、少しは変わるんじゃないかと思う。

他にも、生活の中で様々な変化が起きた。外出ができなくなつた。今までのように、いつでもどこへでも行くというのは難しくなった。今までしていた「当たり前」のことができない今、自分達にできることは何なのだろうか。そして、この生活はいつまで続けられようのだろうか。そんなことを考えている。ぼくだけではなく、みんながそう思うのではないだろうか。しかし、そんなことは考えずに、今できる、今しかできない楽しいことをしたらどうだろう。近くの公園を歩いたり、誰かと遊んだり、大変なことがあっても楽しいことはいくらでもある。

ぼくは、これからコロナ禍の大変な時期でも、楽しいことを一つでも多く見つけることができたらと思う。楽しいことを考え、

たくさんやっていけば、免疫力が上がると思うし、大変なことがふき飛ぶと思う。その中でも、しっかり感染予防はしたいと思う。予防は、もちろん自分のためにも周りの人のためにもなる。

自分や相手の人も守るために、必ずマスクをしたり、アルコールで消毒したりすることを、これからの「当たり前」にしたいと思う。その「当たり前」を全ての人ができるようになれば、自分達のこれからも「大変」から「楽しい」に変われると思う。だから、ぼくは、感染予防をしながら楽しいことを一つでも多く見つけて、過ごしていきたい。

世界を変えたコロナウイルス

中北小 六年 長瀬 空

新型コロナウイルスの感染者が、日本で初めて確認されてから一年が経ちました。この一年をふり返ってみると、私達の生活は大きく変化しました。

私がそれを最初に実感したのは、突然の臨時休校でした。金曜日の帰りの会で先生が、

「来週から、休校になります。」

と言われたので、驚いたのと同時に、勉強はどうなるのか、行事や部活動はどうなるのか、友だちにも会えないのでは、と不安な気持ちでいっぱいになったことを覚えています。

その後、テレビをつけると、新型コロナウイルスのことばかりで、徐々に感染は広がっていき、世界中で感染爆発を起こしてきました。私達は、正体不明のウイルスに立ち向かうための予防

対策として、手洗い・うがい、アルコール消毒、マスクの着用、「密集・密閉・密接」の三密をさけるなどをしっかり行うようにしました。

少しずつ感染者が減ってきて、学校も再開しました。久しぶりの登校で、先生や友だちと会えて、とてもうれしかったです。当たり前と思っていた学校での勉強や友だちと遊ぶこと、給食や部活動もそうではなかったことに気づきました。でも、学校でも対策は続きました。教室では、席の間かくを開けることや透明マスクの着用、換気、友だちと密にならないように遊ぶこと、無言給食、部活動での体温測定とボールの消毒などの工夫した感染対策を行いました。

いまだに収束しないまま、第三波が来て、現在二回目の緊急事態宣言が出されています。私が住んでいる上天草市でも感染者が確認されていて、熊本でも、そして日本でも毎日たくさん感染者が確認されています。亡くなる方も増えています。その中で、感染者の方やお医者さん、看護師さん、そしてその家族に対する差別が生まれています。誰もが感染するかもしれないのに、その感染者を治療してくださいっているのに、本当は感謝しなければいけないのに、とても残念で、悲しくなります。私は、差別するのではなく、みんなが気持ちを一つにして、思いやりや温かい気持ちをもちますが、新型コロナウイルスの収束にもつながると思います。

新型コロナウイルスの収束には、まだまだ時間がかかると思います。しかし、来月から日本でもワクチン接種が始められます。副反応が心配されていますが、効果はあると思います。一人でも

多くの命が救われるといいなと思います。一人一人が新しい生活様式を意識して過ごすことも大切だと思います。今行っていることは、新型コロナウイルス感染症だけでなく、他の病気の予防にもなると思います。一日も早く収束して、元の生活を取り戻したいです。新型コロナウイルス感染症が怖い病気ではなくなる日が、早く来てほしいです。

収束する頃には、私は中学生になっています。その頃に、コロナ禍で中止になった行事や思い切りできなかった部活動に全力で取り組みたいです。また、私達の生活を支えてくださっている方々に感謝の気持ちを持ち、そのことを忘れずに過ごしていきたいです。みんなが笑顔で、安心した暮らしができるように、今できることをやっていきたいと思っています。

コロナへの思い

中南小 六年 丸山 倫嬉

新型コロナウイルスは、突然やってきました。最初は、どんなウイルスかも分からなかったのですが、ぼくはあまり怖くありませんでした。しかし、テレビのニュースで、感染者がどんどん増えていることを知り、怖いと思うようになりました。

初めは、都会で広がっていたのに、それがどんどん熊本に近づいているのを知ったとき、ぼくは、おばあちゃんとおじいちゃんが心配になりました。高齢者の方がひどい症状になることが分かったからです。

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは心臓が悪いです。近くに

住んでいます。もしかかってしまったら、と思うと怖いので、あまり遊びに行かなくなりました。さみしいですが、コロナがなくなったらたくさん遊びたいです。

もう一人のおじいちゃんとおばあちゃんは、たまに二人でお出かけするのを楽しみにしています。でも、コロナのせいでできなくなりました。家にいても、楽しめることを見つけて、楽しんでいたいなと思っています。

コロナウイルスは、普通の生活をうばってしまいました。休校になったとき、「早く収まってほしいから仕方ない」という気持ちと、「小学校に行けるのもあと一年しかないのにくやしい」という気持ちがありました。卒業式や入学式ができなくなった学校もあり、とても悲しい気持ちになりました。今、また感染者が増えています。ぼくたちの卒業式と中学校の入学式がなくなるのはいやなので、早く収まってほしいと思います。

コロナウイルスは早くなくなってほしいと思いますが、コロナウイルスが出てきたのは、誰のせいでもありません。コロナウイルスのせいで普通の生活ができなくなりましたが、それは誰のせいでもありません。

しかし、ぼくはニュースを見ると悲しくなります。感染した人でも、すっかり気をつけていたのにかかってしまった人もいます。けれど何も知らない人がその人を町から追い出したり、悪口を書いて送ったりしていることがあります。また、SNSにうそを書いて、みんなを混乱させたり、不安にさせたりする人もいました。うそをついてはいけない、悪口を言っはいけないのは、小学校で習うことです。ぼくは、この当たり前のことを絶対に忘れ

ない大人になりたいと思いました。

一方で、大人たちはすごいと思いました。飲食店では、お客さんが来られないから、デリバリーや持ち帰りをすぐに取り入れました。何か罰があるわけではないのに、「マスクをしなさい」と言われたら、ほとんどの人がマスクをつけ始めました。学校が休みになると、勉強が遅れないようにプリントを家まで届けてくれたり、テレビの番組で授業をしてくれたりしました。

これまで通りできなくて、くやしい、悲しいと思っているばかりではなく、「じゃあどうしよう」と考えて動ける大人は、すごいと思いました。ぼくも大人になったら、新しい事を考えて動ける人になりたいです。

ぼくは、ニュースを見ていて「もつと早く緊急事態宣言を出したらいいのに」などと思うこともあります。しかし、ぼくは政治のことはよく分かりません。きつと、早く出せない理由があるのだと思います。ある人の願いを叶えたら、ある人が損をするようなことは、政治の人たちはできないからです。だからぼくは、不便な生活の中に楽しみとやるべきことを見つけたいです。

自分がかからないように手洗いはきちんとして、相手にうつさないようにマスクをします。そして、自分のことだけでなく、みんなが幸せになれるように、色々な方向から物事を考えられるように、勉強していききたいです。

コロナ禍の中で考えたこと

湯島小 六年 姫野 日恋

令和二年の二月に学校が新型コロナウイルス感染症拡大防止により、休校になりました。私は、この時五年生で、六年生と同じ教室で勉強していました。だから、臨時休校になったとき、「もうすぐ卒業する六年生と過ごす時間が短くなるな。」と、思っていました。また、

「早く、友だちに会いたいな。」

と思っていました。私は、休校中家にいる時、とても寂しかったです。でも、みんなで卒業式を迎えることができ、良かったです。そして私が六年生になった時、初めは、四日間だけしか学校がありませんでした。それから六月になって、

「やつと、学校にこれた！やった！」
と、思いました。

そして、七月になった時、テレビのニュースを見ると人吉の方では、大雨による災害が起きていました。家の中には、どろが入り、雨がやんだ後、どろをかき出したりしていました。私は、これを見て、コロナウイルスでも大変なのに、災害まで起きて、とてもきつそうだなと思いました。今こそ、みんなで力を合わせる時だと思いました。

さらに、コロナウイルスは学校の行事や私たちの生活に影響を与えました。湯島小学校には、他の学校ではできない行事がたくさんあります。その中でも体育大会やもちつき、秋祭りなどの行事が縮小されたり、なくなったりしました。私たちにあって、体育大会やもちつき、秋祭りなどの行事は小学生最後の行事でした。

体育大会やもちつきは縮小して実施し、秋祭りは中止になりました。この時、私は五年生の秋祭りが小学校最後の行事になるとは思いませんでした。だから、中学校になってからの秋祭りの太鼓の発表では、自分の力を発揮し、今年の分までがんばります。

そして、学校では、人権について学習しました。私はコロナウイルスの関係で、たくさんの方がいじめや差別を受けていることを知りました。このことを知って、いじめや差別をしている人は、自分がいじめられる側、差別を受ける側だったらどんな気持ちになるのかを考えたことがあるのかなと思いました。私は、人にいじめや差別をしない人は、いじめや差別の苦しみ、悲しみを知っている人、人の気持ちを想像できる人なのかなと思いました。コロナウイルスは、五年生の時に学習した水俣病と似ていて、人を不安にさせ、正しいことを知らずに周りの情報に流されて、差別やいじめを生むことが分かりました。私はこの学習を通して、まわりのうわさに流されず、正しい情報を知ることが大切だということ強く感じました。

私はこれから、みんなが楽しく暮らせるような国になってほしいです。また、差別やいじめがなくなるように、きちんと感染対策をし、正しい情報を知りたいと思います。家族で外食したり、親せきに会ってお話ししたり、前の楽しかった生活に戻ってほしいです。そのために、まずは感染対策を徹底していきたいです。

新型コロナウイルスについて感じたこと

湯島小 六年 古賀 楓

令和二年二月、私たちの小学校や中学校は、一斉に臨時休校になりました。私は、臨時休校になると知ったときは、正直うれしかったです。しかし、実際臨時休校になると、どこにも行けないし、なによりもお友だちと会えなくて、とてもさみしかったです。だから、学校が始まると知った時は、とてもうれしかったです。しかし、学校が始まってみんなと会えても、学校の行事が縮小されたり、なくなったりして、いつも通りの学校では、なくなってしまうしました。小学校の行事がなくなり、残念な気持ちでいっぱいです。

世の中では新型コロナウイルスの影響で大変な思いをされている方がたくさんいます。私が、このようなことを思うのには、理由があります。少し前のテレビで、看護師の方の子どもが、親が看護師だからという理由で、保育園で誰も遊んでくれず、一人ぼっちになっていた、というニュースを見ました。私は、このニュースを見ておかしいと思いました。私たちは、いつコロナウイルスに感染するか分かりません。その不安から、差別が生まれてしまうと思います。しかし、もし、新型コロナウイルスに感染してしまった時、医療従事者の方々がいないと、私たちはそのまま亡くなってしまいかもしれません。だから、私たちのために仕事をしてくださっているお医者さんや看護師さん、医療従事者の子どもを仲間外れにしたり、遠ざけたりするのは、おかしいと思うし、絶対にあつてはならないことだと思います。

また、新型コロナウイルスには三つの顔があるということ、

学校で習いました。

一つ目の顔は、病気そのものです。

二つ目の顔は、不安です。これは私たちはいつも感じていると思います。例えば、「大丈夫かな・・・」。「〇〇さんが感染したんだって。」「次は、私かも・・・。」と思うことが、新型コロナウイルスの二つ目の不安です。

三つ目の顔は、差別です。これは二つめの顔の不安から生まれるものです。例えば、「〇〇さん、コロナウイルスに感染したんだって。」といううわさを聞いて、「そうなんだ・・・。じゃあ、〇〇さんのご家族には近づくかないでおこう。」などと思うことが差別です。新型コロナウイルスについては、あまり研究がされていないので、新型コロナウイルスのことを不安に思うのは、仕方のないことだと思います。しかし、新型コロナウイルスと戦っている人や、新型コロナウイルスの患者さん、ご家族を遠ざけたり、差別をしたりしてはいけないと思いました。だから、私は本当かうそか分からないうわさ話に流されない強い意志を持ちたいです。

これからは、新型コロナウイルスに心も体も負けないために、感染予防をしっかりするとともに、強い心を持ちたいと思います。そして、医療従事者の方々に感謝の気持ちを持ち、過ごしていきたいと思えます。

新型コロナウイルスで変わった生活

阿村小 六年 宮崎 未来

私の一日の生活は、この新型コロナウイルスですべて変わってしまいました。学校や習い事も休みになり、家での生活が多くなりました。学校は、四月十五日から臨時休校になり、春休みが明けて楽しい学校生活が始まると思っていたのに、それは突然やってきました。

二〇一九年から二〇二〇年に年が変わったとき、私はやる気に満ちあふれていました。

「今年から六年生だ!。」
と張り切っていたはずなのに、ニュースで聞いた「新型コロナウイルスの流行」という言葉。この時はまだ気にもしていませんでした。「どうせすぐに薬ができて流行も収まるのだろう」と思っていました。しかし、現実とは違いました。毎日感染者は増え続け、世界各国に広がっていき、ニュースでもコロナウイルスの情報ばかりになりました。マスクをつける生活、外出自しゆくは当たり前、密を避ける、この三つは私にとってすごくつらいです。外に出てお買い物をするのが好きなので、外に出られないのはとても苦しかったです。私は外で元気に遊びまわらない方で、走るのも得意ではありません。だから、学校が始まって持久走大会があった時には、前に比べてタイムが落ちていました。今までは、学校の朝ランなどで体力をつけていましたが、自しゆく中にずっと家の中にいて運動しなかったので、体力が低下してしまったのかなと思いました。コロナウイルスのことで政府も動いていて、それを見た時「コロナウイルスは今までにないぐらいすごいんだな」

と感じました。

三月から約三か月間の臨時休校。そのような中で私たちは学校のリーダーになり、学校を動かしていく存在になりました。コロナウイルスの影響でたくさんの行事がなくなってしまいました。放送委員長としての役割も減ってしまい、苦しい思いもたくさんしてきました。それでも自分にできることを考え、周りの人や学校みんなが笑顔になれるようにがんばってきました。放送委員会の中で、学校みんなを笑顔にするためのアイデアをたくさん出し合いました。そして話し合いで出た意見を試してみた結果、たくさんの人を喜ばせることができました。クイズのイベントは大成功でした。私は、たくさんの方の笑顔が見られたのでとてもうれしかったです。コロナウイルスであまり元気のなかった学校が笑顔であふれていたの、やってよかったなと思いました。

今は、学校や習い事に行けていますが、中には学校や習い事などに行けていない人もいます。これからは、自分のことだけでなく、他の人のことももっと考えていきたいです。そしてコロナウイルスに自分が感染して周りの人にはうつさないように、しっかりと手洗い・うがい・マスクの着用を心がけていきたいです。

世の中を変えた新型コロナウイルス

阿村小 六年 瀬崎 日南子

二〇一九年十一月、中国で新型コロナウイルスが発見され、一月から二月にかけて日本でも流行し始めました。緊急事態宣言が

四月に出され、学校が休校になり、「外出自粛」「仕事がリモート」

「マスクを着用」「アルコール消毒」「ソーシャルディスタンス」「三密」などの言葉をテレビで多く聞くようになりました。大人は会社に行くことが難しく、リモートの仕事が多くなったり旅行会社やスーツを売る店がつぶれたりして、とても大変な世の中になりました。大変なのは会社の経営だけではありません。中国から輸入していた紙製品がなくなるといってデマを信じる人がいて、たくさんの方が紙製品を買い占め、売り切れてしまいました。そういうデマでも信じる人が多くなった世の中になり、経済、生活は苦しくなる一方でした。

今まで当たり前のように暮らしていた生活が一変しました。私の親は、観光業を営んでいます。コロナウイルスが流行る前は、毎日たくさんのお客さんが来て、とても忙しい日々でした。けれど、コロナウイルスが流行り始めてからお客さんが減ってしまいました。そのような中でもお客さんに来てもらう対策を考え、これまで以上に仕事が増え、とても疲れているようでした。もう少ししたらおさまるだろうと思っていました。コロナウイルスの感染者は増えるばかりでちっともおさまりませんでした。

そんな時、七月からGOTOトラベルが始まりました。減っていたお客さんがどんどん増えていきました。また前のように、街に活気があふれました。GOTOトラベルのような活動はありがたいと思う一方、コロナウイルス感染者を増やすことにもつながります。感染者が増えるのは悲しいことですが、経済をまわすためには必要だと思えます。経済をまわすことと外出自粛を両立させるのは、とても難しいことがこの世の中で分かりました。

私は、コロナウイルスが流行った今だからこそ、改めて分かったことや気付かされたこともありました。私は、これ以上コロナウイルスが流行ってほしくないと思っています。病院で働いているみなさん、観光業を営んでいる人、一番は、コロナウイルスにかかった人たちが苦しいので、早く流行がおさまってほしいです。私たち一人一人がしっかりと、「手洗い」「うがい」「マスク」「アルコール消毒」「ソーシャルディスタンス」などの予防をすることでコロナウイルスに感染することを防げます。だから、みなさんにもしっかりと予防してほしいと思います。そして私も予防して、早くコロナウイルスを終わらせて、楽しい世の中になるようにがんばります。

新型コロナウイルスに思うこと

今津小 六年 深谷 灯子

私が初めて新型コロナウイルスを知ったのは、二〇二〇年一月のことでした。テレビでニュースを見ると、白くて大きな船が映っていて、何やら大変なことが起きたようだ、という印象を受けたことを昨日のことに思い出します。その時、初めて「新型コロナウイルス」という存在を知りました。はじめは、「何だか遠くで起こった出来事だし、きっとすぐ収まるだろうから、大事にしなくていいんじゃないか」そして、何より私にはそれほど関係ないこととして考えていました。

しかし、あれから一年。

私の生活は今までとは全く違うものになっていきました。

四月から五月は、休校で友達と勉強したり遊んだりできず、両親は仕事に行き、私は妹と二人きり。やることと言えば、宿題、ゲーム、テレビの繰り返し。とても退屈でした。毎日心の中では、「六年生になって小学校もあと一年しか行くことができないうに、何で今、こんな状態なんだろう。最悪だな。」という思いが繰り返されました。

五月後半から、少しずつ学校が再開され、とても嬉しかったことを覚えています。マスクは絶対につける、友達とのソーシャルディスタンスを保つなどの条件はあったけれど、友達とたくさんしゃべったり遊んだりできたことで、久しぶりに自分が自然と笑顔になれたと思います。

八月、小学校最後の夏休みは二週間というとても短い夏休みになってしまいました。もちろん、夏休み中も自宅にいて、遠出したり旅行に行ったりすることはできませんでした。今思い出しても、夏休みのことをはつきり思い出すことができません。

十月、待ちに待った運動会本番を迎えることができました。これも、先生方、保護者の方々、地域の方々、私たち六年生が全力で挑戦できるように対応してくださったおかげだと思います。心から感謝しています。

運動会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、時間短縮されましたが、その一つ一つの競技が今まで以上に濃く熱いものであったと思います。今年、初めて大きな行事を成功させた充実感に満たされました。

十二月、大晦日、従兄弟の家に除夜の鐘を鳴らしに行きました。とても楽しみにしていたのですが、密になってしまわないように

と鐘を鳴らすのは我慢することになりました。とても残念でした。お正月は、毎年、老人ホームに入っている祖父、祖母が家に帰ってくる日です。しかし、今年は帰ってくるできませんでした。私たちもちろん寂しかったのですが、それ以上に祖父達の方が寂しかったんじゃないかなと思います。

今年一年間、水泳記録会、陸上記録会など、貴重な機会を失いました。しかし、今年一年間を通して、できることには全力で挑戦してきました。だからこそ、気づいたことがあります。それは、世の中にはもっと厳しい現実の中で精一杯生きている人達がたくさんいらっしゃることで、そして、自分の大切なもの、大切な人を失った人もたくさんいらっしゃることで、私はコロナウイルスを許すことはできません。だからこそ、私たちは今ある当たり前に感謝し、多くの人の支えに気づかなければならないと思うのです。

私は今を全力で生きていきます。コロナには絶対負けません。

コロナで変わった生活や想い

今津小 六年 永野 杏奈

私は、新型コロナウイルスが世界中で流行して、私自身の生活が大きく変わりました。そして、気づいたことがたくさんありました。

その想いをまとめて書きます。

二〇二〇年三月、学校が臨時休校になりました。その時、私は「やった。ずっと休みだ。ゆっくりできるぞ。」と、とても喜びま

した。私はその頃、あまりニュースを見ていなかったのですが、新型コロナウイルスの本当の恐ろしさを分かっています。だから、臨時休校が始まって最初の頃は、家で自由に過ごし、臨時休校を満喫していました。私はその頃、臨時休校が何のためにとられたのか考えもしなかったのです。

しかし、時間が経つにつれて、「授業を受けないで大丈夫なのだろうか」や、「友達と会って遊んだりお話ししたり笑い合ったりしたいな」と思うようになりました。そして、家でたまたまつけたテレビから流れるニュースを見て、私は啞然としました。理由は私の想像していた状況と大きく違っていたからです。家にこれだけ居て、誰とも会っていないのだから、だんだん感染の範囲が縮小していると勝手に思っていました。ですが、現実とは違いました。たくさん感染者、そして、亡くなった方もいらっしゃいました。私はこれからどうなっていくのだろうと不安になったことを昨日のことに覚えていきます。

そして、四月、六年生に進級し、いよいよ新学期が始まりました。小学校最後の一年間、悔いの残らないように頑張ろうと思つた矢先、私を大きな苦痛が襲いました。学校が始まって二日目、担任の先生から、「明日から臨時休校となります。」と告げられました。私は頭の中が真っ白になりました。しかし、ここで嘆いていても仕方ありません。私は、その日から今までの学習内容を取り戻そうと、家庭学習を頑張りました。目標を持つことで、少し気持ちも紛れたと思います。そして、今まであまり見ていなかったニュースを毎日見て、世の中で出来事をしっかり理解しようと努めました。そこで初めて医療現場が大変なことになっているこ

とを知りました。ある日、私の好きな番組で医療従事者の方の話が流されました。感染者が増え続けているから、病床使用率が高くなることは当然なのですが、その医療従事者の方は、その事実は何度もくじけそうになりながらも、日々新型コロナウイルスに立ち向かい闘っていらっしやいました。私は今まで漠然と医療従事者になりたいという夢をもっていました。しかし、私の夢は必ず叶えるべきものになりました。私も医療に従事し、困っている人や助けが必要な人を一人でも多く救いたいです。

最後に、私がこの状況下で一番考えた事は、当たり前の日常が大切であること、そして、多くの事、多くの人に感謝して生きていくことです。私たちは、今、学校に毎日通うことができている。授業も受けることができている。友達と会うこともできています。新型コロナウイルスによって奪われた日常が少しずつですが戻ってきています。それが今何よりの幸せです。

そして、私は必ず夢を叶えます。そして、今医療の最前線でコロナウイルスと闘っておられる医療従事者の方に少しでも日々の日常に幸せを感じてほしいと思います。一日でも早く、世界中から新型コロナウイルスがなくなるよう、私にできることから始めます。

変化した生活

教良木小 六年 本瀬 寛朗

新型コロナウイルスのえいきょうで、生活が変化しました。まず、学校が臨時休業になりました。

臨時休業中の生活は、外で遊ぶことが少なく、室内でほぼ生活していました。外に出られなくなったことで、新型コロナウイルスは、とてもおそろしい病気だと感じました。また、緊急事態宣言が出されたり、警戒レベルがどんどん上がったたりすることにもおどろきました。

そんな中、よかつたと感じたこともありました。学校が臨時休業中に、ぼくは挑戦したことがあります。大人がいない中で、気をつけながら調理をしたことです。また、いつもより、家族と話すことが多くなって、仲を深められることができたと感じました。

新型コロナウイルス感染症が広まり、友達と会う回数が減り、遊び方や過ごし方が一気に変わったことが心に残りました。友達と登校日以外、会うことができず、遊ぶことができなくなりました。毎日、毎日、家で勉強したり、テレビを見たりして過ごしました。運動したくても思うようにできず、自分でも体力が落ちていると感じることがありました。それでも、みんながしっかり家で自しゆくをして、だんだん登校する回数が増えていったことが本当にうれしかったです。

新型コロナウイルスが広がる中で、感染した人など差別されたりいじめられたりすることを知り、とてもかわいそうだと思いました。飛び降りて自殺する人、不登校になってしまったり人があると考えると、助けてあげたい、自分たちに何ができて、今どうすればいいのかを考えることができました。

ぼくは、コロナ禍の今だからこそ経験できること、人権の大切さ、命の大切さについて考えることのできる期間だと思いま

した。世の中で起きていることを分かり合い、みんなが仲良くし、助け合うことが大事だということを知り、世の中の生活をよりよくしていくことが大事だと思います。

これからの生活でがんばっていききたいことは、新型コロナウイルス感染症を予防するために、手洗い・うがいをしっかりと、マスクをつけて外出することです。また、臨時休業中に分からなかったところの学習や分からない問題を、先生や友達に教えてもらい、分からないところをなくしていこうと思います。学校で勉強できることを大切にして、中学生に向けての学習やテストや学力アップテストに向けて、勉強をがんばっていこうと思います。

新型コロナウイルスで変わった生活

姫戸小 六年 坂田 香梨菜

新型コロナウイルスの感染が広がり、私の生活は大きく変わりました。変わったことは四つあります。

一つ目は、学校での生活です。感染が広がり始めて、学校生活ではずっとマスクを着けています。体育の授業や朝のパワーアップタイムなど、運動をするときも着けています。走るときは息苦しくなり、すぐにつかれます。しかし、感染しないためには必要なことなので、気をつけて生活しています。

二つ目は、友達に関係することです。四、五年生のときは、土・日・祝日などの休みの日に、毎日のように友達と遊んでいました。しかし、今は一か月に三、四回程度の回数に減りました。移動するときは遊ぶときは、ずっとマスクを着けています。息苦しいと

きもあります。感染拡大防止のためや自分が感染しないために、外さないようにしています。友達と会う日が減り、家で過ごすことが多いので、何もしない時間が増えてしまいました。

三つ目は、家族に関係することです。私が四、五年生の頃は、家族みんな仕事に行っていました。しかし、今は仕事がない日が続き、ずっと家にいると言っていました。おばあちゃんは、今年に入っても、仕事がないと言っていました。毎日退屈そうなおばあちゃんを見て、早く普段どおりに仕事が始められるといいなと思います。私は、新型コロナウイルス感染症が流行り出すと、仕事がなく、大変なことがよく分かりました。

四つ目は、毎日の過ごし方です。今までの生活と比べると、たくさん制限がかかりました。友達と近い距離で話したり、接したりできないのは、少し悲しいです。好きだった鬼ごっこも、思い切りできなくなりました。音楽の授業では、みんなで演奏することを楽しみにしていたのですが、リコーダーや鍵盤ハーモニカが使えなくなり、みんなでの演奏ができなくなりました。とても残念です。友達と楽しく話しながら食べていた給食も、会話をせずに食べることになりました。おいしい給食の感想を話し合ったり、楽しい話題について話したりできなくなり、楽しみが減ってしまいました。

基本的な感染予防を続けていかないと、新型コロナウイルスに感染し、まわりの人に迷惑をかけてしまいます。今後の生活でも、マスクの着用や手洗い、うがい、顔洗いを心がけて生活していこうと思います。

予防対策に対してきついと思うこともあります。しかし、どん

なにくつくても、感染予防に努めていきたいです。できていない人がいたら声をかけ、感染予防がみんなの習慣になるように行動したいです。

テレビでは、新型コロナウイルスに感染した人が、亡くなった後、後遺症が残ったりしているというニュースをよく見ます。私は、そのニュースを見て、新型コロナウイルスはとても恐ろしいと思いました。さらに、感染された方が差別されたり、悪口を言われたりしていることも知り、とても驚きました。困っている人に手を差し伸べ、世界中の人々が助け合いながら生活する世の中になってほしいです。そのためにも、身近な人と助け合い、生活していこうと思います。

新型コロナウイルス感染禍の生活について

姫戸小 六年 田中 絢菜

私が臨時休業期間中にやったことは、家庭学習や担任の先生から出された宿題です。社会の歴史を勉強したり、計算ドリルなどをしていました。

また、私の祖母が、かわいくて、かっこいい手作りマスクを作ってくれました。家族以外にも、学校の校長先生や担任の先生、フジコ先生方にプレゼントしました。みんなよろこんでくれて、とてもうれしかったです。私もミシンを使うことができるので、手作りマスクを作りたいと思います。

学校が再開してからは、新型コロナウイルスに感染しないように、まず、「手洗い、うがい、顔あらい、きれいなハンカチやタオルで

ふきとること」を心がけています。3密をさけるために、音楽や体育の授業では、2メートル以上きよりをとって活動しています。感染予防を心がけたことで、今年一年元気に過ごせました。これからも、家での約束やきまりごとを守って、毎日笑顔で過ごしたいと思いました。

他にも、必ずマスクをはめて、アルコール消毒をして、休み時間の換気を心がけていきたいと思いました。この二つのことをまもって、学校や家での生活を続けていきたいと思っています。最後に、「早く、新型コロナウイルス感染症がなくなればいいなあ。」と思います。

新型コロナウイルス感染症への思い

龍ヶ岳小 六年 野口 透也

僕は、新型コロナウイルス感染症について二つの思いがある。一つ目は、「嫌い」という思いだ。どうして、「嫌い」と思うようになったかという点、サッカーの全国大会につながる公式戦がなくなったからだ。僕には、県ベスト十六という目標があった。この大会は、その目標を達成するチャンスだった。僕は、クラブチームの練習だけでなく、自分に足りないところや、苦手なプレーなどの練習を続けていた。時には、プレーが上手いかず、監督や親から怒られることもあった。でも目標達成のために、悔しくても毎日毎日練習を続けていた。そんな中、新型コロナウイルスが日本に入ってきて、感染者が大幅に増えた。最初は、僕たちは大丈夫と軽い気持ちでいた。しかし、時間がたつにつれ、熊本

にまで広がり、気づくと僕たちが住む上天草市にも感染者がでるようになった。もう軽い気持ちにはなれなかった。「もしかしたら試合も」と考えるようになった。そして、大会の中止が伝えられた。目標や今までの努力は、新型コロナウイルス感染症によつてくずされた。だから僕は新型コロナウイルス感染症が「嫌いだ」。

二つ目は、新型コロナウイルス感染症とどのようにつき合っていくかということだ。新型コロナウイルス感染症は、今の医療では、治りにくく、誰もが感染してしまう可能性がある病気である。とても怖い病気だと思っている。自分にできることは何があるのか。どのように付き合っていけばいいのか考えた。まずは、うがい手洗い、そしてマスク着用だ。学校でも何回も言われている。でも、誰か感染者が出たら、学校が休みになるかもしれない。きついし、めんどうだと思ふ気持ちもあるが、六年生の最後の一年間を一日でも長く過ごせるように徹底していきたい。また、県外に出るなど、人が多い所には、あまり行かないということだ。休みの日もあまり外に出ないように、我慢している。きついけど、大切なことだと思う。

新型コロナウイルス感染症と付き合う中で、最近考えるようになったのは、「コロナ差別」についてである。新型コロナウイルス感染症は誰でも感染する可能性がある病気だ。しかし、感染した人をいじめたり、避けたりしている人がいるということを知り、とてもいけないことだと思つた。学校では、人権学習や水俣学習を行っている。同じように差別やいじめはいけないことと習うのに、どうしてこのようにいじめられたり差別されたりする人が

いるのか分からない。悪いのはその人ではなく、新型コロナウイルスだと思ふ。だから、新型コロナウイルス感染症でいじめをするのはいけないと思ふ。僕は、いじめを絶対しないし、いじめられる人がいたら、守つて助けたいと思つた。

新型コロナウイルス感染症のせいで、僕の目標も壊され、友だちと遊ぶ時間も少なくなった。また、マスク着用などきつい制限が続いている。また、新型コロナウイルス感染症で苦しんでいる人も多くいる。自分にできることは何かをしっかりと考え、これからは感染予防を行つていきたい。早く、新型コロナウイルス感染症が落ち着きますように。

新型コロナウイルス感染症で変わったネット差別

龍ヶ岳小 六年 平井 愛佑子

私たちが生きていく中で、インターネットというものは必要なものになってきている。私もYouTubeを見たり、音楽を聴いたりして楽しんでいる。

この便利なはずのインターネットで、今差別が起きていることを知っているだろうか。その原因は、日本でも大きな影響をあたえている新型コロナウイルス感染症が関わっている。新型コロナウイルス感染症が原因で、ネットの中で、差別的な書き込みをされたり、悪口を言われたりして、感染した多くの人々が傷ついている。

私は、自分に何ができるのか、何かできることはないのかと思ふ、タブレットを活用して、このような「コロナ差別」について

調べてみた。調べてみると、私が想像していた以上に、差別されている人がいることにおどろいた。差別をされている人がどんな気持ちなのか、差別をしている人がどんな気持ちで差別をしているのかなど、動画や書き込みを見て色々なことを知った。その中で、一番心に残ったのが、差別をしている人に対して、注意をしたり、差別された人に対して「大丈夫」など優しい言葉をかけた人、差別やいじめをされた時に助けていきたいと思った。

このような書きこみなどを見ていくうちに、どうして差別をするのか不思議に思い、もつと詳しく調べてみた。差別をしている人たちは、自分が感染したくない、自分が大切という思いから差別をしていると思った。このような思いが、感染した人いやなことをしたり、ネットを活用して、書きこみをしたりしているのだと知った。相手の気持ちを考えたり、自分だったらと考えるたりすると、このような差別はなくなると思う。私は、このような差別をする人にならないように、相手の気持ちを考えて、行動しようと思った。

しかし、今でも新型コロナウイルス感染症は、たくさんの人を苦しめている。感染者が多くなると、ネット差別も多くなる。（うっさいで）や（近づつてほしくない）など冷たい言葉が並んでいる。それもたくさん並んでいる。自分勝手な理由で、相手の気持ちを考えず、ひどい言葉や冷たい言葉を使う。

インターネットは、相手に直接言わないから、気楽に思ったことを書きこむことができる。この軽い気持ちで、軽い一言が誰かを傷つけることにつながっている。このことを私たちは常に考え

てインターネットを使わなければならない。これは、私だけではどうしようもないことだと思う。でもこのことを、熊本の人、全国の人、そして世界中の人に分かってもらいたい。この世界から「コロナ差別」やその他の差別がなくなりますように。

中学校の部



【一年生】

今是我慢のとき

大矢野中 一年 二宮 心音

新型コロナウイルスの影響で、三月から休校になった。長い休みで、友達とあまり話せなかったり、授業を受けられなかったり、いつまでこの状況が続くかという不安も当初はあった。しかし、私にとっては、家でできる遊びを考えることで、創作意欲が高まるという実感を味わったり、やったことのないことにも挑戦したりするという経験をすることができた。

まず、料理を一人で全部作ることだ。以前は火を使ってはいけないと家族に言われていた。だから今回が初めての経験だった。実際に自分でやってみて、献立を考えたり材料を混ぜたりするのは、思っていたよりも大変だった。でも、自分なりに工夫をしながらやってみると意外にできて嬉しかった。また、洗濯物を取りこんでたみ、ダンスの中に入れた。量が多い日は、重い上に一枚一枚をたむのにも大変で、これからはもっと手伝いをしなければと思った。また、ほかの家の手伝いもいつもより少し多くやってみた。思っていたよりも大変で疲れた。でも、普段はこれ以上のことを家族にやってもらっているのだなと気づいた。

次に、水彩画に挑戦した。私は美術部に入部していて、絵を描くことは好きだが、実際に描き始めてみると全然うまく描けなかった。しかし、何度かやってみるうちに、少しずつ慣れ、最終的には思い通りの絵に近づいてきた。

このように、いろいろなことに挑戦してみるうちに、時間が過ぎていったが、家族から、「コロナウイルスの影響で、たくさんの方が亡くなっている。」と聞いたときは、もし、私の身近な家族や友達を失ったらどうしようと、いろいろなことを考えた。とにかく怖いと思った。家からあまり出てはいけないということで、ストレスがたまったりもした。でも、みんなも我慢しているのだから、私も我慢しなければならぬと、気持ちを引き締めた。

ただ、テレビのニュースに目を向けてみると、中には、「自分たちは大丈夫」と高をくくった人のコメントが流れることもあった。自由に行動したい気持ちはわかるが、もし自分がかかってしまったら・・・ということも十分に考えて行動すべきではないか、いや、そうしてほしいと思った。確かに直接他の人に迷惑をかけているわけでもないだろうし、犯罪行為をしているわけではない。しかし、目に見えないからこそ、自分の正義で判断し、正しく行動しなければならぬと思う。今こそ、一人一人がみんなのことを考えて行動すべきだと思う。

今、ほとんどの人が自粛生活を送っている。家で料理を作ったり、体力作りをしたりと工夫している様子がテレビなどでも伝えられている。私も手伝いや自分の好きなことをやれるチャンスととらえ、生活していきたい。最近、さらに感染者数が増加しているため、不安で心細い思いをしていて、気持ちが押しつぶされそうになることもあるかもしれない。でもだからこそ、今できることを少しずつしっかりやっていこうと思う。これまでの平穏な生活に戻すためにも運動・勉強・家の手伝いなど、私はまだ子供だけけれど、自分にできることを少しずつでもいいから頑張ってやっていきたいと思う。私

たち一年生は、昨年度、きちんとした卒業式ができなかった。だからこそ、今年は、やっぱりお世話になった三年生に感謝の気持ちを伝える卒業式ができるよう、今は我慢をしようと思う。

新型コロナウイルスについて考える

大矢野中 一年 辻本 新奈

昨年度末から発症が確認された「新型コロナウイルス」。入学式はあったものの、その後、「新型コロナウイルス」の影響で再び学校は休校になった。私にとつてもみんなにとつても、初めての経験だった。本来なら入学式の次の日から、中学校生活が始まって、クラスの友達とも少しずつ慣れていこうと思っていたのだが、休みが続いた。週に一〜二回の登校日。マスクをしていて顔がはっきり見えない上に、触れ合う時間も短くて、新しい友達もなかなかできなかった。

でも、私はこの自粛中だからこそできることを考えた。勉強や家事など、これまであまりできなかったことに挑戦してみた。

まず、勉強だ。全然分からなかったことを、姉に教えてもらいながら夜遅くまで頑張った。

次に、家事にも取り組んでみた。味そ汁を作り、家族がおいしいと言ってくれて嬉しくなったのを覚えている。同時に料理は、おなかを満たすだけでなく、人の心まで満たすのだなと実感した。洗濯物の取り込みや玄関の掃除、食器並べなどもやってみた。洗濯物の片付けは、何が何枚くらいあるかすぐ分かるように、また見た目にもきれいに並べることを目指した。父の服は、ひと回り大きいので

たたむのに苦戦したが、やってみると、思っていたよりも楽しかった。また、日頃これだけのことを家族にしてもらっていることに気づかされた。

コロナウイルスのせいでできなくなったことも多かったけれど、逆に楽しさや日頃のありがたさを知ることができた。

学校生活では、初めは友達ができず、学校が全く楽しくなかったけれど、やっと学校が再開してからは、友達もたくさんでき、いつの間にか学校が楽しくなってきた。気がついた。クラスのみんななども少しずつ仲良くなり、しゃべる機会も多くなってきた。そのため、楽しい毎日を送れている。ただ、まだ、完全に普通に戻ったわけではない。先生方も感染予防のための呼びかけや朝からの健康カードのチェック、アルコール消毒、また校内の消毒などを継続して行ってくださっている。私たちも朝の検温、こまめな手洗い、休み時間の換気、キープディスプレイスなどをやっている。このように、学校全体での予防に取り組んでいるお陰で、これまでよりも安全な生活ができている気がする。

私は、この新型コロナウイルスが広まる前までは、今までの生活が「当たり前」だと思っていた。でも、流行が広がるにつれ、今までの生活を送ることができなくなり、友達と自由に遊んだりすることもできなくなると、今までの生活は当たり前ではなかったのだと感じた。

現状は、コロナウイルスで「どこへも行けない」「いろんなことができない」けれど、日々コロナウイルスを収束させようと努力してくださっている医療関係など、自らが「感染」というリスクを背負いながら仕事をしてくださっている方々も多い。そんな方々に私

は感謝したい。また、この期間は、ある意味で自分を高める期間でもあると思う。規則正しい生活や自分の回りの整理整頓など、改めてしっかり見直せると思う。コロナウィルスの収束がいつになるかは分からないけれど、以前の生活に戻ってくる日まで、感謝の気持ちを忘れず、今は自分にできることをやっていきたい。

休校中に頑張ったことを通して見えてきたもの

大矢野中 一年 吉田 奈々美

私は、新型コロナウイルスによる休校中に勉強を頑張った。

一番頑張った教科は数学だ。特に、「正の数と負の数の加法、減法」だ。小学校とは違って、マイナスの計算も当たり前のように出てくることを初めて知った。交換法則や結合法則、自然数など知らない言葉やその意味など、覚えることがたくさんあり計算の順序も複雑で難しかった。そのため塾での問題も間違えることがあった。でもたくさん問題を解いていくうちに、正の数、負の数の計算に慣れて満点を取ることが二・三回あった。やっているうちにマイナスという符号が一つ増えるだけで、計算の世界が全く別のものに見えてきた。これからもっとたくさんのお話を学んでいく。途中でできると分からないことも多くあると思うが、少しずつ理解して自分の数学の世界を広げたい。

次に頑張ったのは英語だ。英語では、英語のきまりを覚えたり、教科書に出てくる単語のつづりを練習したりした。文の書き方や文の構成など英語の勉強に必要な基本的なことを学んだ。単語は、AからZまでのアルファベットで始まる単語や、JanuaryやF

ebruaryなどの月の単語を練習した。特に月の単語のつづりを何回も書いて練習した。今では「月名」だけでなく、数学やスポーツ、教科の名前も書けるようになった。間違わずに書けるようになるまでもっと練習していきたい。書ける単語が増えると、読んだり会話をしたりするときに、使える単語が増えていく。使える単語が増えていくと、英語がもっと身近に感じられるようになるだろう。だからどんどん新しい単語に出会い、英語の知識を身に付けて、将来にも役立てたいと思う。

さらに社会では、日本地図を覚えたり、地球儀の仕組みを勉強したりした。日本地図は、今までのどの県がどこにあるか分からなかった。宿題のプリントや地図帳などを見て県の位置や所在地を覚えた。また、緯度や経度、本初子午線など、地球儀や地球のことを勉強した。授業を受けずに自主学習することはとても難しかった。日頃の授業では分からない部分を先生方に聞くと教えてくださるが、休校中はその機会がなく、全部自分で理解しなければならぬ。休校中の家庭学習をやってみて、先生方から勉強を教えてもらうことのありがたさを感じている。

新型コロナウイルスは、私たちの日常を奪った。学校に行くことや、友達と話すこと、休日に出かけることなど、今まで当たり前だと思っていたことができなくなった。家にこもっているとストレスもたまるので、友達と関わることも大切なことだと改めて気づいた。また、休校中は学習に力を入れてみたが、自分だけの力で勉強することが初めてだったため、自分がやっていることが正しいのかどうか不安もあった。また、私は長い時間集中することができないということもわかった。友達や先生方とコミュニケーションを取

ったり、勉強を教えてもらったりすることなどを考えても、学校の方が充実した生活を送れると実感している。

学校は再開したが、学習や行事、部活動など様々な制限がある。とにかく早く普段の生活に戻りたい。しかし今は、手洗い・うがい・換気・キープデイスタンスなど新しい生活様式に沿って、できることを実行しながら、再びコロナウイルスの感染が拡大して学校が休校になるようなことがないように感染予防に努めたい。

新型コロナウイルスを通して

維和中 一年 山崎 歩大

僕はこの一年、新型コロナウイルスの流行を経験して、いろいろな感情でいっぱいになりました。まず、初めに感じたことは、「何なんだこのウイルス、すぐに終息するだろう、大したことなさそうだな」と他人事のように思い、気にせず過ごしていました。でも、そんな自分たちには関係ないだろうと思っていた新型のウイルスが日本に上陸し、すぐさま広まってしまいました。その時から他人事ではないと感じました。そして新型コロナウイルスに目を向けるようになっていきました。その頃から毎日、毎日、テレビでは新型コロナウイルスについて報道されるようになり、恐いウイルスだと感じていました。その後、緊急事態宣言が発令され、いよいよ僕たちの学校生活や私生活にも影響を及ぼし始めました。学校生活では様々な行事が中止、もしくは規模縮小となり、例年とは違う形で行われるようになりました。

僕たちはその年の三月、卒業を控えており、小学校最後の行事が

できなくなるかもしれないと聞きました。その話を聞いた時、僕たちは悔しさのあまり、泣いてしまいました。別の中学校に行く同級生もいて、最後のお別れの行事だけはしっかりしたいというのが、六年生みんなの思いでした。そんな僕たちのために先生方が動いてくださいました。まだ先が分からない休校期間に入る前の2月末、廊下での卒業式を計画してくださいました。在校生と廊下で向き合い、言葉を掛け合い、思い出深い一日となりました。しかしその後、諦めかけていた卒業式が規模縮小の形でできることを知りました。

僕たちの願いが叶ったことがとても嬉しかったです。嬉しくて、悲しくて、様々な感情で涙がたくさんこぼれ落ちました。人生で一度きりの小学校の卒業式、このような形でしたが、先生方のおかげで一生涯忘れられない思い出となりました。

また、私生活では、県外への移動ができなかったり、出かけるときにはマスクを着用して感染対策をしなければいけなかったりと、この新型コロナウイルスは私達の自由をたくさん奪っていきました。毎日たくさんさんの感染者・死亡者のニュースを聞く中で、ある日、父からこんな話を聞きました。

「いつかお父さんが買い物に行った時、ある二人の男性がマスクをしないで買い物をしてたんだよ。そして一人が『俺らマスクしないで大丈夫やろか』と言ったら、もう一人が『大丈夫大丈夫、俺らがせんでも周りがしとるけん大丈夫やろ。』と言ってたよ。」

このような父の話を聞いて、僕は、こんな人たちがいるからこのコロナウイルスはいつまでも終息しないのだろうなと感じました。

さらに、僕たちは人権学習で、「銀閣と又四郎」という学習をしました。この教材では、理解していないことで差別が生まれるとい

うことを学びました。そこで、僕は今流行っている新型コロナウイルスと重なり、新型コロナウイルスについて理解できないことで、今差別が起こっているのではないかと考えました。そんなときに、医療従事者への差別が起こっていると聞き、やはり、差別が起きてしまうんだなと思いました。どうして今、自分たちを守ろうとしてくれている人たちに差別するようなことがあるのか。そう考えると、悲しい気持ちになりました。僕は新型コロナウイルスが流行っている中、風邪をひいてしまい、病院へ行きました。するとそこでは、病院の中には入れず、先生方が出てきて診察してくださいました。僕はそこで改めて、医療従事者の方々の大変さや感染症拡大を防ぐために努力してくださっていることを感じました。

僕は、新型コロナウイルスを通して、様々なことを学び考えました。今、一番に感じていることは、このような病気がこの地球では発生してしまうんだなということです。僕たちはこのような病気に負けることなく、上手に付き合っていけないと感じます。このようなウイルスで簡単に自由を奪われてしまうのは許せません。みんなこの新型コロナウイルスに対して負の感情でいっぱいかもしれないけれども、このような新型コロナウイルスが発生してしまった以上、コロナウイルスと共に生活していかなければなりません。これからも感染者が増え、大変なこと、辛いこともあるかもしれませんが、みんなで力を合わせてそれぞれが自分にできることを考え、昔のようないかな生活を取り戻していきましょう。僕もこれからはしっかり自分ができることを考えて行動し、一秒でも早くこのウイルスが終息するように、感染症予防対策を徹底していきたいと考えていま

す。

コロナの影響で変わった生活

松島中 一年 福吉 真琴

テレビで、新型コロナウイルスのニュースが流れ出したのは、僕が小学校六年生の終わりのことだった。世界で何が起きているのか、不安だった。その頃、僕たちは、学校で卒業式や卒業プロジェクトの話し合いをしていた。しかし、二月末、政府の緊急事態宣言を受けて、三月から臨時休校になってしまった。卒業式が行われるの心配だったのを昨日のことに覚えている。そんな中、練習もできなくて、在校生もいなかったが、卒業式を無事行うことができたことは、嬉しいことだった。

四月に入って、中学校の入学式を迎えた。新しい生活をスタートしてすぐに、また臨時休校。臨時休校中は、家から一歩も出ず、学校から出された課題などをして家庭での時間を過ごした。登校日もあったが、マスク着用、検温、アルコール消毒と今までとは違うことが増えた。授業も、少人数で感染予防が徹底されていた。「ソーシャルディスタンス」を意識して、密閉・密室・密接を防ぐ決まりが学校生活の中でできた。最初の頃は、マスク着用も検温も正直面倒くさくて大変だなと思っていただけけれど、その生活が今では当たり前になってきた。

二期期になっても、新型コロナウイルスの猛威は消えず、感染予防を意識した生活が続いた。楽しみにしていた集団宿泊教室も、日帰りの集団活動教室になった。宿泊がないことは、残念だったけれど、

友達と一緒にいれることがとても楽しかった。中学校での体育大会も、同じように縮小され、練習期間も短く、午前中だけの開催になった。だけど、クラスみんなで協力して、思い出に残る体育大会にできたと思う。

正直なところ、コロナウイルスはインフルエンザのようにシーズンだけで、すぐに収まると思っていた。それが、一年経ってもまだまだコロナ禍が続いている。去年、臨時休校になった当初、僕は学校を休める、遊ぶ時間が増えたと単純に喜んでいたら、コロナ禍でどこにも行けない。コロナ禍でいろんな場所が使えない。友達と遊ぶことだって、気を遣う。それば、今の僕の世界の現実だ。

本音は、友達、親戚の人、じいちゃん、ばあちゃんと自由に会って、一緒に笑って過ごしたい。だけど、それができないことは、すごくストレスを感じることもあった。

それなら、僕たちはどうすればいいのか。それは、身の周りの人に感謝して、ちょっとした不自由を我慢し、自分にできる感染症予防をすることじゃないだろうか。医療従事者の人たち、家族、周りの大人の方々、僕たちの生活を支える仕事をして下さっている人たちに感謝すること。これが一番大切じゃないかと思う。コロナ禍は、いつ終息するか、まだ誰にもわからない。だったら、今自分が何をすればいいのか考えよう。三密を避けたり、ソーシャルディスタンスを心掛けたり、マスクの着用を徹底したり、不要の外出を避けたりとできることはたくさんある。これらのことを一人一人が徹底すれば、きっとコロナ禍の終息は、少しずつ近づいてくるはずだ。

いつ、誰が感染するかわからない。いつ、終息するかもわからない。でも、いつか気を遣うことなくみんなに会えて、また楽しく過

ごせる日々が帰ってくると思う。その日まで、自分にできることをやっていくのみだ。

コロナ禍が終息して、世界中の人たちが笑顔で暮らせる世界を、僕は待っている。

コロナ禍での学校生活

松島中 一年 久保田 健人

二月下旬、夕飯を食べている時、安倍前首相の記者会見で衝撃的な事実を知らされた。

「緊急事態宣言 臨時休校」

そこから臨時休校が始まった。家より学校の方が好きだった自分は、泣きたいような気持ちになった。それでも、登校日があったことが救いだ。卒業式も先生方のおかげで、行いう事ができた。卒業式の後、久しぶりに会うクラスメイトみんなで遊んだりした。しかし、楽しかったのもつかの間で、臨時休校は幾度となく延長され、五月末までということが決定した、中学生という自覚がないまま、時間だけが過ぎていった。他の二校から進学してきた同級生とも話すことが出来ず、休校中なので友達とも遊べず、コロナなので行きたかった本屋にも行くことが出来なかった。とても暇で無駄な休みだった。

そして、六月、休校期間が明け、ようやく学校生活が始まった。見慣れない先生、同級生、初めての教科、仲良くなる期間が二ヶ月もなかった事になっているため、不安でいっぱいだった。学校が始まっても数々の制約があった。朝、体温を測ったり、友達と話す際

も、「密」にならないように意識しないとイケなかったり、楽しんでいた給食も、会話をしないように食べないといけなくなった。行事では集団宿泊教室は集団活動教室になった。運動会も半日になるなど、楽しみにしていた思い出もなくなってしまったように感じた。

そういう事を乗り越えて、今がある。コロナが流行って良いことがあったかと聞かれると、答えはもちろん「ノー」である。良い事は何もないのに、軽率な行動をしまっている人がいる。東京では、新規感染者数は増加し続けているが、以前に比べるとそのことに驚かなくなっている。皆が鈍感になってしまっているのではないだろう。実際、熊本でも新規感染者は増加の一途をたどっている。ニュースではマスクの着用率も定着していると報道していた。

自分の行動が、多くの人に大きな影響を与えるかもしれないという気持ちを持って、多くの人に生活をしてもらいたいし、まずは自分自身がしっかりと自覚を持って行動をしたい。

差別のない世界へ

姫戸中 一年 藤川 栗名

二〇二〇年になって、しばらくたったころ、日本で「新型コロナウイルス感染症」が流行し始めました。そのことによって、感染した方が苦しんでいます。その方達は、症状だけでなく、いじめや差別にも悩まされていることをよく聞きます。

感染した方達は、発熱や頭痛、味覚嗅覚の異常などの症状やその他の症状に苦しむ方もいます。このような症状に苦しみながら、治療を受けて必死に病氣と闘い、回復した方もいらっしゃいますが、

亡くなられた方や後遺症に悩まされる方もいます。

このような方やその家族に悪口を言ったり無視をしたりする人がいることもよく聞きます。私は、苦しみに耐え続けた人へのいじめや差別がなくなっただけでほしいと思います。

きっと、感染した方は、私たちが思っている以上に辛い思いをされていると思います。そのような方にひどい言葉を言ったり差別をしたりするとさらに苦しまれると思います。逆に、優しい言葉をかけられるととてもうれしくなると思います。言葉は感染した方の心を深く傷つける刃物のようなものかもしれませんし、感染した方の生きる力になるかもしれません。だから、発言するときには言うべき言葉なのかを考えるといいと思います。

このようなことは、新型コロナウイルス感染症のこと以外でも同じようにするべきだと思います。他にも病気に苦しんでいる人がたくさんいます。生活に必要なお金がなくて困っている人や災害によって被害を受けた人などたくさん辛い思いをしている方がいます。

そのような人に、悪口を言ったり何もしないのではなく、優しい言葉をかけたり、何かできることをしたりするのが大切だと思います。私は、ひどい言葉を言われたとき、言い返してしまったことがあります。これからは、その人に言い返したりせず、酷い言葉を言うのをやめてもらうよう努力したいと思います。やめてほしいときは、それをきちんと行って、人を傷つけるような言葉を言う人を減らしたいです。そのためにも、まず私が悪口などを言わないように気をつけていきたいです。そして、悪口を言われたり、差別されたりして辛い思いをしている人がいたら助けたいと思います。

また、外国では、肌の色の違いによる人種差別で事件が起きまし

た。その事件を知って私は、肌の色が違うことによって差別をするのはおかしいと思いました。肌の色が違っても同じ人間であることに変わりはないし、何もおかしいことではありません。見た目で差別することは絶対にダメだと思います。

はやく新型コロナウイルス感染症がおさまり、色々な差別をなくして、世界中の人々が仲良く、平和に過ごせる日が来るといいと思います。

休校中の生活

姫戸中 一年 山中 陽向

ぼくは休校中ひまでした。友だちとも会えなくてお店にも行けませんでした。通常であれば中学校で入学式をして、平日に毎日学校に行ってみんなと遊んだり授業を受けたりしているはずでした。しかし、新型コロナウイルスのせいで休校になったからです。

ぼくの休校中の一日のくらしは、まず宿題をしました。その後はゲームやテレビを見ていました。それでもひまなので、漫画本も読みました。登校する日はありましたが、いつも通りの生活にはもどきませんでした。5月になると習っていた剣道も塾もできなくなりました。今まであたりまえと思っていたことがあたりまえではないと言ふことに気がつきました。しばらくして、塾はテレビ電話を使ってすることができるようになりました。しかし、剣道はまだできませんでした。なぜかという剣道はどうしても接触があったり対面になったりするからです。家にいてばかりでは体力も落ちるのでフリスビーで人がいない場所で遊んだり、走ったりして、い

つ剣道が始まってもいいように体力をつけていました。

5月の後半ぐらいには剣道の練習が始まりました。しかし、筋トレや素振りばかりで面などの防具を使つての練習はできませんでした。それでも、友だちの顔を見たり話したりできて楽しかったです。筋トレのメニューは先生が考えたものできつかったです。しかし、「行きたくない」という気持ちにはなりませんでした。高校生も帰ってきていたし、みんなと体を動かすことができたのですごくうれしかったです。

休校中は悪いことばかりではありませんでした。家族といふ時間も増えて、普段ではやらないようなこともできました。新しい趣味を発見できたり、飼っている犬ともいっぱい遊んだり休校前にはできなかったこともありました。休校がなかったら、あたりまえと思つていたことがあたりまえではないことに気づけなかったかもしれない。

今でも、新型コロナウイルスは終息していないから、また休校になるかもしれません。しかし、今度休校になると1年生で学ぶ内容が終わらなくなるかもしれないので、みんな対策をして、1日も早く終息することを願っています。

コロナ禍で学んだこと

龍ヶ岳中 一年 江口 結愛

私は、新型コロナウイルスによって気づいたことが二つあります。一つ目は、「当たり前前のことは当たり前ではない」ということです。私は中学校に入学してすぐに休校となり、友達と会えなくなり

ました。臨時休校中は、学校から配られたプリントを自分で教科書を見ながら解くことしかできませんでした。また、二週間という短い中学校での初めての夏休みは、友達と遊ぶことができず、自由を奪われた感じがして、とても残念でした。夏は暑かったのですが、感染予防のためにマスクをはめていました。冬はマスクをしていると温かいという発見がありました。私は最近マスクをしないと落ち着かなくなってきました。体育の授業中もマスクをはめて運動していません。給食も、準備中から話さず、黙々と給食を食べるだけで、さびしいし、あまり楽しくありません。一月に入り、全国的に新型コロナウイルスに感染する人が増え、天草や上天草でも感染者が出ています。私も身近に感じてきて、怖い気持ちが強いです。世界中でこんなにコロナが広まるとは思っていませんでした。このたった一つのウイルスにより世界中の人が毎日のように悲しみ、おびえ、苦しめられています。

二つ目は、「人は人で支えられている」ということです。医療関係者の方々は、私が思っている以上に大変だと思います。毎日亡くなる方がいる中で、「看護」という仕事を一生懸命されていらつしやる方は本当にすばらしいと思います。これからの未来が不安になる時もありますが、「人」を助けてくれる「人」がいるから、みんなで手を取り合い、助け合い、協力しながらコロナに立ち向かっていけるのだと思います。地域の方は私達が安全に登校できるように見守ってくださいだったり、マスクが売り切れて困っていた時に、白い布のマスクを手作りして、届けてくださったりしました。本当に助けられました。でも、家にいる時間が長くなっておかげで家族との時間が増えました。姉とチーズケーキ、マドレーヌ、キッシュ

等、おかしやご飯を作りました。特にチーズケーキはチーズの味がしつかりとして、おいしかったです。兄弟と一緒に勉強したり、一緒に何かを作ったり、家事をしたりすることが増えました。家事を手伝うことで、母が楽になる時間が増えて、よかったですと思います。

最後に、今年の思い出と今後のことについて述べます。今年は体育大会と龍陣太鼓が特に思い出に残りました。体育大会では女子全員で踊るダンスを家で姉と練習し、それをビデオにとり、振りを一つずつ確認したおかげで、本番も失敗することなく、最後まで踊ることができました。違うチームの仲間から踊る前に、「一緒にがんばろう」と言われたことが心に残りました。今年は小中合同であったいた行事もできなくなりました。龍神太鼓の最後の授業の時に、龍ヶ岳小学校の六年生が来てくれました。久しぶりに会えて、総合の太鼓の時間の中で一番楽しい時間になりました。六年生は初めて太鼓をたたいて、緊張している様子でした。周りの仲間の太鼓の音をしっかりと聞いてたたくことを教えてあげました。今、学校に登校した時に友達の顔を見た時、友達と話をしている時、休み時間に男子が「ゲームしようぜ」や女子が「推し」の話をしている時が一番幸せだと思います。これから修学旅行などの楽しい行事をたくさんして、中学校を卒業したいと思います。少しでもマスクなしの生活を送りたいです。そのために私が今頑張っていることは不要不急の外出をひかえ、外から帰ってきたら、手洗い、うがい、消毒をすることです。また、今、目の前にある一つ一つの自分自身が出れることを少しでも増やし、何にでもチャレンジしていきたいです。今までの当たり前前の生活が一日でも早く戻りますように…。

【二年生】

新型コロナウイルスから学んだこと

大矢野中 二年 川口 翔己

昨年末から新型コロナウイルスが世界中で大流行した。新型コロナウイルスのせいで、学校の行事もたくさんなくなった。また、たくさんの方も亡くなった。このことを通して、僕は学んだことがたくさんある。

まず、一番最初に学んだことは、油断禁物ということだ。僕は中国で新型コロナウイルスが流行しているとニュースで聞いても、あまり気にすることはなかった。なぜなら、他の国で流行してもさすがに日本まで来ることはないと思っていたからだ。しかし、これは大きな間違いだった。新型コロナウイルスが最初に確認された武漢から帰国してきた日本人から、他の人へ感染してしまったとニュースで聞いたとき、僕は焦った。このとき、僕はもっと早く僕を含め、日本人たちが感染対策をしていれば、感染の広がりを止めることができたのではないかと思った。日が経つにつれて、あつという間に東京を中心に日本全体に広がった。そして今、毎日「過去最高」を更新中だ。感染者は、毎日千人以上。今では、緊急事態宣言をした県も出ている。熊本県も、先日独自で、緊急事態宣言を出した。このようなことから「油断禁物」だということを改めて感じている。他人事ではなく、「自分ならどうするか。」という思いで考え行動しなければならぬと思う。

二つ目に学んだことは、差別をしたり偏見を持つたりしてはいけ

ないということだ。それは、これまで感染者がいなかった町に感染者が出ると、その人が周りの人から避けられたり、たくさんのおじめを受けたとか、職場を追われたなどの現実があると聞いたからだ。僕はあり得ないと思った。確かに感染した人に近づきたいとは思わない。同じように自分が感染してしまっても周囲の人はそう思うかも知れない。しかし、そのことで、本人が嫌な思いをしたり住んでいるところを追われたりするのはおかしい。感染したくて感染する人などいないだろう。僕は悲しくなった。ただこういう現実があったことを知って、もっと新型コロナウイルスが怖くなるとともに、差別や偏見は本当にあつてはいけないと感じた。

二学期の人権学習では、「水平社宣言」について学習した。そのことを通して、「いじめや差別は、『する側』の問題であり、互いを尊重し合うことでなくすことができる。」ということを学んだ。だから、予断と偏見で、コロナ感染者や医療従事者に冷たいまなざしを送ることはあつてはならないと思っている。

今、学校が再開し、みんなと会って、話したり遊んだり、勉強したりできる喜び。この当たり前のことがどんなに幸せなことなのかを改めて感じている。三月、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中学校は休校になった。正直言って、最初はとても嬉しかった。だが、外出できない苦しみを毎日押しつけられて初めて学校に行きたいと思った。学校が再開されても、学校行事がなくなったり縮小されたりしていった。部活動の練習や試合も縮小されたり中止されたりした。それでも学校にいられることが嬉しい。そして、学校にいる時間をもっと大切にできるようになった。毎日のマスク生活や換気、手洗いうがい、三密をさけるなどの生活はとても嫌だ。し

かし、一人一人の心がけと行動で、新型コロナウイルスの感染者が一日でも早くこの世界からいなくなることを願っている。

できることからしっかりと

大矢野中 二年 上田 夢来

コロナウイルスで休校になって喜んだことを後悔する。感染を防ぐために外に出られず、夏休みが短縮され、学校行事までずいぶん少なくなってしまう。

でもこんなに時間があるときだからこそ、勉強や運動などで自分の力を伸ばして、友達に差を付けるチャンスだと思った。だから自分はず、運動する時間を増やすことにした。

また、勉強では、知り合いの方から問題集をいただき、頑張ろうと取り組んでみたけれど長続きせず、やはり地獄のようだった。運動も勉強も途中からは結局サボり気味になってしまった。

これではいけないと思い、今度は庭の草を切ったり畑を作ったりした。庭の草を切るときには、草刈り機を初めて使ってみた。初めは父から使い方を教わり、恐る恐る動かしてみた。思っていたよりもきつかったけれど、手に振動が伝わってくるのが意外とおもしろかった。草を刈った後の庭は、うるさい蛙の鳴き声も虫の音も聞こえなくなり、夜が少し静かになった。また、ブロックで周囲を囲い、中に土を入れて畑を作った。枝豆やキュウリ、トマトなど他にたくさん種類の野菜を植えた。今はどんどん成長してきて大きくなっている。実際に食べられるようになるよう、水や肥料やりを忘れな

いで続けていきたい。

休みの延長期間に入り、各教科から課題が出されることになった。その中に、国語の課題に「読書」があった。日頃はあまり読書をしていない僕だが、徐々に厚めの本を二冊読んだ。飽きたら読むのをやめて漫画でも読もうと思っていたのだが、途中からもっと先が知りたくなって、最後まで一気に読み通してしまった。最近、じっくりと本を読む機会がなかった。でも実際に読んでみると結構おもしろかった。だから、これから図書室や本屋さんでおもしろそうな本を見つけたら、目を通してみてほしいかなという気になった。

休校中は、本をたくさん読めたり、草刈りをしたり、畑を作ったりと、普段できないことができたりして、少しは成長できたかなと自分では思う。その意味で、休校は、僕にとって無駄にはならなかったと思う。しかし、コロナウイルスで仕事に制限されている方や、患者の方々に直接関わっていらつしやる医療従事者の方々がたくさんいる。また、僕たちの生活にもたくさん制限がかかっている。誰もが安心して生活できる日常を取り戻すために、早く感染が治まってほしいと願う。

最近では、また感染する人が増加してきている。薬の開発が進んではいれるものの、第二波、第三波はとどまるところを知らない。やつとワクチンができて、外国での使用が始まっている。しかし、東京での感染者が急激に増加しているばかりでなく、日本全国、そして熊本県でも五十人を超える日が続いている。感染経路についても、夜の飲食店のみでなく、家庭内や院内感染の広がりがとても気になっている。ここで、しっかりと僕自身も気を引き締めないと、感染の確率が上がるのではないかと考える。

僕自身のことでは小さいかと考え、手洗い・うがい・

マスク着用など、できることをしつかりやっていきたい。完全に感染が収束したら、外に出られなかったことからのストレスを、釣りに行ったり学校の友達と思い切り話したりして、発散させたい。

コロナ差別と私のクラス

大矢野中 二年 林田 美月

今、世界中で新型コロナウイルスが流行しており、誰もが不安な日々を送っている。そんな中、「差別」というさらに不安を煽る言葉を耳にした。テレビでも多く見たり聞いたりするようになった。感染した人の住所をつきとめ、SNSで拡散したり、陰性になってやっと学校に行けるようになったのに、そのことでいじめを受けて不登校になったりしていた。また、デマの情報も流され、命を助けるために働いてくださっている病院の医師や看護師の方にまで、そんな「差別」は広まっていた。

私は、このようなニュースを見て、感染した人はもちろんのこと、命を助けるために闘っている医師や看護師にまで差別をしているのはおかしいと思った。昔から人が抱える差別の問題。その差別は全てが解消されることはなく、今でも人との間に根強く残っているものがある。世界の人々と協力し合って生きていかなければならない今でも、続いている差別がある。そんな現状だから、新型コロナウイルスだけでなく、その「差別」も終息しない。中学生の私でもわかる。今は差別をしている場合ではない。みんなと一緒に闘うときだ。

だから私は、コロナと差別の両方と向き合っていきたいと思って

いる。コロナに感染したからといって、その人を責めないで、相手を尊重しようと思える気持ちを広めていきたいと考えている。そのために、まずは、クラスのみんなと向き合いたい。私のクラスは、行事にとっても盛り上がり、みんなで挑戦するクラスだ。行事だけではなく、一つ一つの小さなことに対しても盛り上がるができる。一位を取ることが難しいときでも、盛り上がったクラス一位をめざしたり、応援で一位をめざしたりと、結果だけではなく、見えない努力をして、お互いに協力してきた。優しく、おもしろいなかまも多いと思う。しかし、悪いところも残念ながらある。落ち着きがなく、私語で先生に注意をされることも多い。授業は自分の将来のために集中して受けるべきであるのに、寝ていたりする人もいる。そして、お互いに注意をし合えばいいのに、クラスではお互いに注意できないということも、私のクラスの悪いところだと思う。

この状況を踏まえて、コロナの差別と自分のクラスを重ねて考えてみた。もし、私のクラスで新型コロナウイルスに感染した人が出たらどうなるだろう。いじる人やバカにする人。身体や心の状態を心配する人。様々な人がいると思う。感染した人を心配する人は多いと思うが、残念ながら、今の私のクラスでは感染した人を傷つけてしまう人もいると思う。私は、そうなる前に、一人ひとりがお互いを尊重していけるようにしたい。また、そうになったら注意できるようになりたいと思っているし、このクラスからそんな人を傷つけて何とも思わない人の考え方をなくしたいと思っている。

差別をなくすことは難しい。根強く残っていて、かつ、間違った情報が広まるのも、この時代は早い。でもそれを解決しなければ世界中の人々が笑顔にならないと思う。自分の言動に責任を持たず、

相手を傷つけてしまう言動は絶対になくさなければならぬ。だから、まずは自分から見直し、コロナと差別と闘い、勝って笑顔のある世界をみんなで作りたいと思う。私の生涯の目標は「差別」という言葉をなくすことだ。クラスのなかまと向き合い、今、この危機を乗り越えたいと思う。

新型コロナウイルスさんへ

維和中 二年 小林 夕風

こんにちは。新型コロナウイルスさん。急な話ですが、今から私があなたに伝えたいことを言います。

あなたは二〇一九年十二月八日に初めて人に感染したそうですね。私があなたを初めて知ったのは去年の二月頃でした。それから、三月二日からの長い休校が始まりました。四月から二年生になる私は、勉強に追いつけるかな？中体連大会はできるのかな？などたくさん不安がありました。そんな不安の中、登校日は唯一の楽しみでした。友達と会えることが嬉しかったからです。休校期間中は、外出もできない、友達と遊ぶこともできない中でとても暇だと思っていました。そして「気をつけておけばいいや」や「どうせ自分は感染しないだろう」と軽い気持ちで捉えていました。そういう気持ちで毎日過ごしていると、日に日に感染者数が増えていき、ついに熊本で初の感染者が確認されたというニュースを見ました。それを知ったときは自分の周りに近づいてきていると感じ、とても怖かったです。自分や家族が感染しないように、家の玄関に消毒を置いておき、帰ってきたら消毒をしたり、家に帰ったら、手洗いがいを

したりすることをこれまで以上に心がけました。そして世の中はマスクをすることが当たり前になりました。

また、部活動にも支障が出ました。一番ショックだったことは、年に一度のとても大きな大会、中体連大会ができなくなったことです。私は三年生にとつての中学校最後の大会ができなかったことがとても悲しかったです。それまで毎日毎日、中体連を目標にきつい練習も皆で乗り越えてきました。そして、三年生にとつて一番の思い出に残る大会にしたいと心から思っていました。だからこそ、中止になったと聞いたとき、わたしはとても悔しかったです。チームの皆もうつむいた表情でした。けれど、代替試合があったので良かったです。

また、私たち二年生がとても楽しみにしていた修学旅行。行き先は毎年恒例の関西方面の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のために、行けなくなってしまうました。二年生で行う行事の中で私が一番楽しみにしていた行事でした。とても残念です。他にも、職場体験学習も一日になったり、運動会や文化祭も半日になったり、歓迎遠足が中止になったりと悔しい思いもたくさんありました。これまで当たり前でできていたことが、できなくなるが多かったです。今まで経験したことがない一年になりました。

でも、一つだけ、あなたに感謝することがあります。それは、ごく普通の当たり前の生活が、どれだけ特別なのかということに気付かせてくれたことです。学校行事では、中体連大会があることは当たり前、修学旅行があることは当たり前、学校に行けることは当たり前だと思っていました。さらには、マスクをしないで受ける授業は当たり前。買い物に行けることは当たり前。長期の休みの日に家

族で遠出する旅行は当たり前。毎週部活の試合をするのは当たり前。たくさんのお前さん・お前さん。でも当たり前ではなかったのですね。新型コロナウイルスが流行したことを通して、当たり前の日常がどれだけ有り難いことになりました。

この先、私たちがどうなるのか誰も分かりません。自分がコロナウイルスに感染してしまうかもしれません。身近な人がコロナウイルスに感染してしまうかもしれません。今、私にできることは、こまめに手洗いというをしたり、マスクをつけたり、授業中換気をしたり、不要不急の外出を控えたりすることです。そして、周りのみんなに声を掛け合うことです。みんなで声を掛け合い対策を広めていくことで、感染を防げるかもしれません。自分にできることをしっかりとやっておくことで、何かしらの解決策につながるっていくかもしれません。いつかコロナウイルスが終息することを信じて、今ある日常を大切に過ごし、感謝して過ごしていきたいです。

新型コロナウイルスさん、私たちは対策をしっかりとっていくことで、あなたに打ち勝ちたいと思います。

当たり前前の未来へ

維和 中 二年 山下 湧心

僕は、新型コロナウイルス感染症により、多くの物を失いました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大で一斉休校などがあつたおかげで、当たり前前の生活が実は幸せだったことが改めて分かりました。コロナを初めて知ったのは二〇一九年の十二月頃でした。「中国で原因不明の肺炎の発生が複数報告されています。」とニュースで

流れました。僕はあのとき、「中国の話だから日本には関係無いだろう。」と思っていました。二〇二〇年でこれほどに感染拡大するとは思いませんでした。

年が明けた二〇二〇年一月十六日、国内で初の新型コロナウイルスの感染者が確認されたと発表がありました。僕は、「もう来てしまったか。」と思いました。その頃、中国当局は武漢市を「都市封鎖」しましたが、その前に約五〇〇万人がすでに帰省や旅行で武漢市を出ていたと武漢市長が明らかにしました。

一月下旬、日本にとって正念場となる出来事が起きます。感染症対策や隔離のやり方などが問題視されたダイヤモンド・プリンセス号の感染者増加についてです。僕は、「日本で感染者が初確認されたとき、政府が注意などしていれば、あのような感染者増加にはならなかったのではないか。」と思いました。しかし、今思うと、新型コロナウイルスに対しての情報や知識が少なく、対応が分からなかったのかなと思います。

その二ヶ月後の三月、学校は一斉休校になりました。僕たちは、しばらく学校に行かない退屈な日々が続きました。たくさんのお前さんが出て、それに追われる日々でもありました。ゲーム等がたくさんできると喜ぶ友達もいましたが、僕は、やはりみんなと勉強したり、運動したりする毎日が楽しいと感じていました。授業の内容も今年に全体的に遅れているので、僕は、クラスメイトと一緒に学んだり、遊んだりする時間や、来年に控えている受験までの勉強時間を失ったとも思いました。その時、改めて、みんなと学校で過ごす時間や勉強する場所があることは幸せなことなのだと感じるようになりました。だからこそ、この当たり前前の日々が早く戻るように感

感染症拡大防止の対策をしっかりと行っていきたいです。

そのようなコロナ禍の中、六月から中学校が本格的に再開しました。しかし、行事は延期や中止、あっても縮小といった形でした。そのような中でも僕たちのことを考えて、職場体験学習や小中合同運動会、校内マラソン大会などを短縮してでも企画し、開催していただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。「ありがとうございます。」と何度も言いたいです。

今、僕の中学二年生が終わろうとしています。このような制限された一年はもう一生経験できないかもしれません。一つのウイルスに世界が恐れたことは、数百年に一度ほどの出来事かもしれないからです。しかし、その脅威により、大切なことに気付くことができました。「日々の当たり前」です。

僕たちは先の見えない道を進んでいるかもしれません。でも、絶対新型コロナウイルスの特効薬ができて、感染者が報告されない明るい未来がきっとあります。その日がくるまで、まず僕たちにできることは、こまめに消毒や、帰ったら手洗い、今は我慢して外を歩かない、三密を避けるなどの対策を徹底して行うことです。今こそ新型コロナウイルスに人間の本気を見せつけ、新型コロナウイルス患者0の未来を目指し、みんなで対策をしましょう。そして「日々の当たり前」が早く戻りますように・・・。

コロナ禍の中で

松島中 二年 池田 愛梨

去年の十二月、中国でコロナ感染者が確認されてから約一年。い

まだに終息せず、拡大が広がっています。今年二月頃から休校になり、私たちは、中学一年生をしっかりと終えることができませんでした。いきなり休校になり、一年生が途中で終わってしまったことに複雑な気持ちでした。

休校期間中は、それぞれの教科の先生から出された課題を一人で終わらせる時間がほとんどで、友達と会うことも話すこともできない状況が続きました。家での学習は、ゲームやスマートフォン、漫画、テレビなどの誘惑がたくさんあります。私は集中して課題を終わらせることができませんでした。他にも休校期間中に起きた問題もありました。ずっと家にいたせいで、生活リズムが乱れて、睡眠時間が長くなったり、逆に短くなったりしました。食事も昼は適当に取るなどしていました。コロナによる休校のせいで、今までの生活とはガラッと変わってしまいました。

六月になりやっと休校期間が終わりました。みんなと勉強することができるようになりました。しかし、学校が再開してもソーシャルディスタンスや消毒の徹底など、生活スタイルは変わりました。二年生の学習も一年生の終わっていない学習内容もありとても不安でした。そのような中での学校再開でしたが、みんなと一緒に勉強できる日常にとっても充実感を持つことができました。

学校以外でも、コロナ感染症は様々な問題を引き起こしています。特に、コロナ感染者に対する差別や偏見、医療従事者への差別や偏見、さらには宅配業者の人にも偏見や差別の視点で接している人たちがいます。その人たちによる心ない言葉で傷ついている人たちがいます。少し考えれば分かることだと思いますが、コロナ感染症は私たちのその判断まで狂わせているように思います。今、この世の中

を支えてくださっている方々。私は、もっと周囲の人たちと一緒にこの人たちを称え、偏見や差別を無くしていきたいと思えます。

私たちの生活は変わりました。長期間の休校、中体連大会の中止、体育大会延期と短縮での実施、修学旅行の延期、その他にも様々な問題がありました。以前は許されていた行動も強く批判されるようになりました。コロナ感染症は私たちの楽しみ、目標を奪っていききました。でも、コロナに負けるわけにはいきません。私は自分自身の楽しみも見つけることができました。好きな歌を見つれたり、新しい趣味を見つれたり、家族との時間も増えました。生活が変わったからこそ見つかったものもあります。私は前向きに考えていきたいと思えます。

もし、コロナ感染症が終息したら、私は自分が我慢していたことをたくさん友達と楽しみたいと思います。映画を観たり、少し遠出をしたり、みんなで買い物をしたりしてみたいです。おもいっきり楽しみたいです。そのためにも、今はこの状況を乗り切るためにも、コロナ感染症に対する対策をしっかり行い、一日でも早く終息させるために私は生活していきたいと思えます。

コロナと向き合う

松島中 二年 山下 誓梨

令和2年、2月末から臨時休校が始まりました。学校から帰り、家で携帯電話を見てみると、「全校一斉休校」という通知を目にしました。テレビを付けると、ニュースで首相が発表しているところが生放送されており、そこで驚いたことは今でも覚えています。そ

の頃はあと少して1年生が終わる時期で、突然の休校は正直嬉しかったです。ですが、そう思えたのはほんの少しの間だけでした。

休校が少しずつ延長され、通常登校が始まった6月。朝の早い起床や支度、授業など、久しぶりで最初は慣れませんでした。慣れてきたと思ったら、次はコロナウイルス感染症対策で新たな生活様式になりました。全員マスク着用での登校、人と人との距離を遠くし、なるべく班活動や調理実習をしない、全学年集合はしない、等たくさん当たり前が当たり前じゃなくなりました。この生活が始まって約半年の今になっては、もうこれが当たり前前で、毎日全国各地で感染者が出てくるのも日常になりました。

自分はこの生活になれましたが、たくさん人の恐怖が潜んでいると感じています。私が一番怖いのは「差別」です。コロナに感染してしまった人は雇いたくなくて雇ったわけではありません。仕方のないことなのです。それでも絶えないコロナ差別には、私達一人一人が適切な行動を取ることが大切です。例えば、正しい情報を選択することや、周りに流されないこと、だめだと思ふことは自分からはつきり言う行動力を高めることを意識しながら生活していこうと思えます。

今のご時世、世のためにいつにも増して一生懸命働いてくださっている方々がいらっしやいます。最近では医療の緊急事態宣言が出されていますが、自分も感染するリスクはとても高いのに、必死になつて務めてくださっている医療関係のお仕事をされている方々に、改めて感謝したいと思います。

これから、いつ、どんなことになるのか分かりませんが、だれも予想することはできません。そんな今だからこそ、私は2つのこと

を頑張ります。一つ目は予防をしっかりと忘れずに行うことです。マスクの着用、消毒、手洗いうがい、ソーシャルディスタンスなど、自分ができることを徹底します。二つ目は差別をしないことです。まずは正しい情報だけ選択し、判断します。そして、差別は絶対にしません。これからの世界が平和に過ごせることを願っています。

コロナ禍について

姫戸中 二年 碓 尊将

僕は、今、世界中でコロナ禍になっている状態について、世界中の一人ひとりが遠距離の移動や近い距離で大きな声での会話などの感染のリスクを高める行動を減らそうとする意識を持つ必要があると思います。感染して療養中にもかかわらず、病院を抜け出して買い物をした人もいました。このようなとても迷惑なことをしないようにする考えを持つ必要があります。

僕がそう思う理由は二つあります。

一つめは、自分が感染していた場合、周りの人が濃厚接触者と判断され検査を受けなければなりません、その人に陽性反応が出ればその人の濃厚接触者も検査を受けなければなりません、つまりたくさんの人に影響が出てしまうからです。

二つめは、感染者が増えていくと、今までできていたこと、会食、おでかけ、祭り、プールなど、たくさんのができなくなり、暇な時間が増えて、楽しいことが減ってしまうからです。

楽しみがたくさんあることを優先し、感染者が増えていいのかというそれは違うと思います。迷惑をかけることにならない

と思うからです。

この新型コロナウイルスと人との戦いは長く続くと思います。コロナに効くワクチンができるまで、一人ひとりが感染対策をしっかり意識して行動すると感染拡大を防ぐことができると思います。それでも感染してしまった場合は周りに拡げないように意識することが大切だと思います。

もう二度と何ヶ月も休校となり夏休みが短くならないように一人ひとりの行動の一つ一つに責任を持ってほしいと思います。

短かった夏休み

姫戸中 二年 志水 冨

新型コロナウイルスがはやり、今年の夏休みは短くなり、時間があまりありませんでした。

夏休み前から、私は部活動のキャプテンとなり、覚えることが多くなり、自分の練習があまりできなくなりました。夏休みの部活動の一週を終えて、なんとなく流れを覚えることができ、自分の練習が少しずつできるようになってきました。しかし、まだ、キャプテンとして声が出ていなかったり、曖昧な指示をしてしまったりすることがあります。だから、これからいろいろな工夫をして、みんなをまとめて、それに、自分の練習もたくさんできるようにキャプテンになれるように頑張りたいです。

勉強も頑張りました。数学や理科の宿題がたくさん残っていたので、それを一つ一つ理解しながら進めていきました。

家でしていたこととしては、夕ご飯の手伝いをしました。特に、

豚肉とタマネギの卵とじを作ったときは家族のみんなが「おいしい」と言ってくれて、とてもうれしかったです。

今年の夏休みは、海に行くことも多くなり、かえって日焼けをしてしまいました。でも、去年よりも、友達と遊ぶことが増えてとても楽しかったです。いい思い出になりました。

学校生活では、気が緩まないように感染防止に努めます。二年生として、一年生のお手本になり、三年生の背中を見ながら、残りの日々を頑張っていきたいです。

勉強では、三年生になると受験があるので、これから勉強することは忘れないように何度も復習して普段のテストでも良い点が取れるように頑張ります。

あいさつは、誰に対しても正しくいつでもみんなの気持ちがいいようなあいさつができるように頑張ります。下級生のお手本になれるようにしたいです。

この、学校生活、勉強、あいさつの三つの点を意識して自分の理想の三年生になれるように、これからも継続して、新型コロナウイルスにも負けないよう頑張っていきたいです。

【三年生】

感染症拡大で学び、気付いたこと

大矢野中 三年 益田 叡一

私は、新型コロナウイルスによって学んだことや気付いたことが四つあります。

一つ目は、社会的な協力の大切さについてです。感染が拡大し始めた頃、政府はこの感染症を抑えるために外出の自粛をするように呼びかけました。すると、そのときの状況をしっかりと理解した日本の国民の人たちは、外出を控え、外出をしないように呼びかけ合い、感染の進行速度を小さく抑えることに成功しました。しかし、今、この努力は水の泡になっていくことは明らかです。感染者は当初の頃とは比較にならないほど激増し、亡くなる方の数も日に日に増えているのが現状です。医療体制は逼迫し、医療崩壊を起こしていると考えられる人も多くとよく聞きます。これは、政府の政策の甘さもあるかもしれませんが、私は、一人ひとりの意識の甘さがこの結果を生んだと思います。我慢したら少しは良くなった、だからもういいだろう：こんな考えで旅行をしたり、大人数で夕食をしたりした人が多いのではないのでしょうか。このことから私は、集団の一員としてその集団に貢献し続けるという社会的な協力の大切さを感じ、自分も継続して意識していきたいと考えました。

二つ目は、見極める力についてです。感染症が世界に広まる前までは、人が多いところにも気にせず遊んだり話したりしていました。しかし、感染症が拡大し、感染者が増えたため、密集しないように

しようという意識、自分がどんな状態か見極め、判断して行動しようとする意識が普段からできるようになりました。こういった意識は、例年なら今の時期に多いインフルエンザなどの他の感染症の予防ができるということにも繋がります。状況を見極める力が自分や周囲の人を守ることに繋がるということに気付くことができました。三つ目はテレワークについてです。テレワークは、情報化が進む現代に合った仕事の仕方だと思います。社会全体がテレワークに切り替わることで、情報伝達のスピードが上がり、今まで移動や、待機に使っていた時間がなくなり、仕事が効率化されることに気付きました。これからは、5Gがどんどん普及していき、音声や動画などの遅れが改善され、こういった遅れによるストレスも解消されていくのではないのでしょうか。自分が実際に行うまではまだ時間があるとは思いますが、自分でも難なくできるよう、学んでいきたいと思っています。

四つ目は、生活についてです。感染症が広まる前まではよく外出し、運動も少しづつではありますが、行うことができなくなりました。しかし、この外出自粛をきっかけに、不要不急の外出はかなり減ったと思います。外出することがなくなった分、運動もしなくなってしまうました。勉強ができる時間は増えましたが、自分の生活の過ごし方の変化は自分にとって大きなもので、より良く過ごすためには、と考える時間が増えたように思います。

私は、いつ、こういった感染症が出て、みんなで協力してその感染症に対応したりすることが大切だと思います。また、そういったウイルスに感染することは、誰にでも起こり得ること、その考えをみんなが持っていれば、感染症での差別、偏見はだめだとみんな

が思うようになり、差別や偏見の減少に繋がることもあると気づきました。今後は、これまでの自分を振り返り、差別や偏見が減少するように身近なところから変えていきたいと考えます。

コロナ禍から学んだこと

大矢野中 三年 浦上 歩夢

二〇二〇年一月、僕たちが知らない間に、あるウイルスが中国で流行しました。それが、新型コロナウイルスです。僕がそのことを知ったのは一月の終わり頃だったと思います。中国で死者がたくさん出ていて、最初は「怖いなあ」と他人事のように、軽く捉えていた記憶があります。しかし、日本でも一人目の感染者が出て、二人目、三人目とどんどん増えていきました。国は感染拡大を抑えるために二月末に緊急事態宣言を出し、学校も休校になりました。初めは、「休みだ、嬉しい」と思っていました。しかし、日が過ぎるにつれ、感染者も増え、日本でも死者が出始めました。熱が出る、咳が出るという情報は以前から知っていましたが、あるとき、重症化している人は、高齢者や持病を持った人がなりやすいと聞きました。このときから、僕はコロナウイルスの怖さを強く感じるようになりました。なぜなら、僕も、時に入院をしなければならぬような持病を持っているからです。そのため、父や母は、よく「手洗いうがい、しっかりとしてね」「マスクしっかりとつけて、消毒もしてね」などと周囲の誰よりも予防の声かけを僕にしてくれ、心配もしてくれました。僕は、こういった家族の支えがあつて、みんなが側にいてくれるから今でも感染せずに生きていられると思います。そう思う

と、感謝の気持ちでいっぱいになります。

そして四月、休校が終わり、中学最後の年がスタートしました。しかし、そこには今までとは違った学校生活が待っていました。感染予防のため、登下校時もマスクの着用をするようになりました。給食では班を作らず、全員前を向いて食べたり、自分でセルフの形式で給食を準備するようになったりするなど、今までとは違うルールがたくさんできたように思います。しかし、約一週間後、熊本でも感染者が増え、再び休校になりました。このときはみんな、「えー、また休校かあ。学校のほうがいいよね」と言っている人がたくさんいました。一度、一ヶ月の自粛、休校を経験したからこそ出た言葉だと思います。しかし、今回の休校は前回よりも長い一ヶ月半の休校でした。この自粛期間中、東京では毎日のように過去最多人数を記録していました。熊本でも毎日、一人・二人と感染者が出ていました。五月いっぱい休校だったので、毎年五月に行われていた体育大会も延期になりました。今回の休校の影響で受験の範囲も、三年生の後半がなくなると聞いています。三年生という大事な年にこんなことに、と悔しく思います。また、特に、受験生をはじめとする学生は休校により勉強が進まなかったり、修学旅行も延期や行くことができてもうまく楽しめなかったりしたと思います。

この中で、僕が感じたのは、まず、親への感謝です。休校期間に家に居たからこそ、学校の楽しさに気付きました。だからこそ、その学校に行けているのは親のおかげだということにも気付くことができました。次に、自分の行動に責任を持つことの大切さです。自粛中、不必要な外出をして感染し、そこからまた感染する人が増えたことがありました。僕を支えてくれていた家族を守るためにも、

こういった行動は、自分は絶対にしたくないと考えています。自分の行動に責任を持ち、自分のために、家族のために、行動をしたいと考えています。

コロナウイルスについて

大矢野中 三年 坂田 崇光

僕は、現在流行しているコロナウイルスについて、正直、中学校生活最後の思い出をつくる年、そして、将来に繋がる大切な受験の年になぜ流行するんだという気持ちでいます。これまで頑張ってきた部活動最後の大会も中止になったものが多く、とても残念な気持ちでいるなかが多くいると思います。僕たちは、コロナによって奪われたものがあまりに多い。このことに強い悔しさを感じます。

しかし、あるときニュースで、日本の若い世代の人たちがインタビューで「コロナ慣れしてきた」と答えているのを見ました。大勢の人が集まる場所に、平然とマスクなしで自分たちも集っていくその姿に、この人たちは何を考えて、何を言っているんだと思います。自分の近くの、親しい人が苦しい思いをして初めて理解するのでは遅いのに、なぜ、とこのときも悔しく思いました。海外では徹底的に感染予防をしている国もあります。それなのに、今この日本では、「コロナ慣れ」と称されるように、自分がかからないと根拠のない油断をし、感染している人たちがいます。そんな油断しているときこそ危ないのに、いまだに甘い考えで外出して、クラスターなどが起こっているという現状もあるようです。もちろん、こういった人たち以外にも、自分なりに対策をしていたのかかったと

いう人もいますが、それでも、この現状はとても悲しく思います。

僕は、感染予防をするためには、一人一人の強い意識が必要だと思います。人々が協力して、お互いの距離を取り、三密を避けよう意識していない人が多いので、増加傾向が変わらないのではないのでしょうか。互いに距離を取る、大声を出さないなど、自分ができることを意識すれば簡単なことだと思います。僕自身は、予防のために、日々対策を行っています。例えば、学校から帰ったらマスクの外側を内側にして折って捨て、手を洗い、消毒をするようにしています。日々積み重ねていくことで、その習慣が身に付き、感染者の増加を食い止めていくことにも繋がると思います。

そして、コロナ差別というものをなくさなければならぬとも強く思います。もし友達や家族などの周りの人が感染した場合、自分はその人から少し距離をおこうと思ってしまうかもしれません。しかし、「それは違うよ」と注意してくれる人が自分の周りには今、たくさんいます。そんな家族や友達のように、正しくないことを正しくないと本人に伝えること。そして、そのおかしさをしっかりと理解し、その考え方や状況を変えていこうとしていけること。こういったことができる自分になっていきたいと考えています。

また、その他にも、コロナウイルスが流行し、気づいたことがいくつもあります。例えば、医療従事者の方々への感謝の思いや、当たり前は当たり前ではない、という気づきです。患者さんを病院の方々が一生懸命救おうとされている姿をニュースで見たり、友達と共に過ごせない日々を経験したりしたからこそ、気づいたことだと思います。悔しいことや、悲しいことも、もちろん数えきれないほどたくさんありましたが、きっと、この体験や気づきが自分にとつ

て意味あるものになる日がくるのだと思います。これからも自分は、今まで通り予防を行い、自分の周りでコロナウイルスを予防しようとし、しない人には、一緒に学び、一緒に変わっていくようにしていくなど、自分にできることから、一つずつできればと思っています。

孤独という辛さ

大矢野中 三年 千原 一斗

僕は、今回の新型コロナウイルスの発生により、多くのことを考えました。特に、医療の関係者やコロナウイルス感染者に対する差別やいじめについては、強い衝撃を受け、深く考えたように思いました。自分が思っていたよりも、酷く深刻で、強いおかしさを感じました。コロナウイルスと最前線で闘っている医師や看護師の方々が差別されることは絶対に間違っていると思います。自分の命が失われるかもしれないという危険な状況下でありながら、患者のために一生懸命働いている姿は、尊敬という言葉では足りないほどのものだと思います。医師や看護師の方々は様々な場面で酷い言葉を浴びせられながらも、患者のために働いてくださっています。それなのになぜ、差別をされないといけないのか。僕は、これは、人々の無知からくるものだと思います。知らないから怖い、だから差別をして、自分から遠ざけようとする。そして、このような差別や偏見は、コロナウイルスに対してではありません。

今、この社会には、多くの差別があると思います。人種差別や部落差別など、無くしたいと強く願われ、多くの人が闘いながらも、なお、多くの差別が存在している実情があります。コロナ禍で改め

て差別というものについて考えることのできるこんな今だからこそ、僕たちは人権について改めて見直すべきではないでしょうか。差別というものは、多くの人が差別をしているのに気付かずに、それを当たり前として認識しているときに起こるものだと思います。自分たちは正しい、間違っていないという考えが子どもにも、大人にもあるときに、その差別はなくならないと思います。だからこそ、その差別が存在しているとき、唯一気付いているのは、差別やいじめを受けている人だけだと思います。しかし、今、このコロナで差別をされている方々は違うと思います。相手が傷つくことを分かっているのに、差別や偏見が続いている。この状況は、やはりおかしいと思います。避けて当然だ、そんな考えが多くを占めていたら、そんな辛さを一人で抱え込んでしまうことになり、さらに苦しい思いをすることになってしまいます。そんな状況が続いて居しまうと、不登校や自死まで考えてしまう人もいるのではないかと思います。

今のこの社会には、辛い人に本当に寄り添える人が必要だと思います。辛いとき、話しかけてくれるなかま、苦しいとき、静かに寄り添える、そんななかまが必要だと思います。僕は、根拠のない噂を信じないことで、本人を間接的にでも傷つけないことになると思います。そうして、正しい判断が常にできる、そんな人に僕はなりたいと思います。辛いときに、しっかりと支えられる人になりたいです。人の気持ちを察して、寄り添っていられるなかまになりたいです。周囲の人々にも話をして、自分だけでなく、少しずつ差別をさせない雰囲気を作っていきたいと思います。コロナが収束しようとせずとも、しっかりとその関わる人たちを支える力を身につけていけます。

SNSを通して命について考える

維和中 三年 池田 翔太

僕は、初めて新型コロナウイルスが流行したとき「危険」という事を全く知らないで「大丈夫」だと思っていました。しかし、現実ではそう簡単に「大丈夫」とはなりませんでした。

三月～五月にかけて学校が休校になったり、志村けんさんなどの有名人が感染により亡くなられたりして僕の考えは「大丈夫」ではなく「危ない」へと変わっていききました。まさか、新型コロナウイルスで人が死に至り、世界の経済を揺るがし、自分の生活にまで大きく関わってくる事態になるとは想像もできませんでした。

現在、感染者の数が増え続けています。たくさん重症者も出ています。それなのに人々の考えは「大丈夫」へと戻っています。外を出歩く人、会食をする人が減ることなく、それが感染拡大につながっていると聞きます。このような生活が続いてしまうと、たくさんクラスタが発生するかもしれません。

そのような中で、僕が一番考えさせられたことは、「SNSの使い方」についてです。緊急事態宣言が出て、お家時間が増えた時、SNSの使い方での誹謗中傷が増大しました。そのせいで、有名人が自殺を選ぶといったことも起こりました。このような自殺に僕は考えさせられることが多くありました。それはSNSの正しい使い方や危険性などです。言葉は時に刃物になってしまい、簡単に人を傷つけることができます。また、SNSは悪口を書いてよいところではなく、「書けてしまうところ」だということを残念ながら理解することができました。

たくさんの方がコロナウイルス感染や自殺などでこの世を去っ

て行きます。いつも声を聞いたり、動画やテレビで見ていた人が急にいなくなったりすると、とても寂しく悲しいです。自分が知っていたり、見ていたりした方が亡くなった時、いち視聴者として何か出来なかつたのか、という無力さを感じました。

僕は、自粛期間中にSNSを使っていて、人への誹謗中傷を見たことがあります。それを見て、僕は何も言うことができませんでした。そこで何か言えていたら、何か変わっていたのかなと思いました。言う勇氣を持ちたいと思いました。

また、自殺する人が増えてきたとき、僕は『三年A組—今から皆さんは、人質です—』というドラマを見直してみました。『三年A組』も、ネットでの誹謗中傷から命を落とした生徒がおり、そこで担任の先生がクラスの生徒にインターネットやSNSの危険性や正しい言葉の使い方を書いていくお話です。その話を見返すと、一人一人が気持ちを熱く語っていて、教師が警察沙汰にしてまで生徒達を正しい道へと進ませようする場面にグッとくるところがありました。誰かに従わされるのではなく、自分の過去から逃げずに向き合い、これから生きていくことが大切だと感じました。そして、勇氣を持って正しいことを言うことが大事だと思いました。

人という生き物は、簡単に人を傷つけることができます。自分は傷つけていないと思っても、相手がものすごく傷ついているかもしれません。傷ついた人は、「死にたい」という思いからではなく、「生きるのが疲れた」という考えになって自殺を選ぶのかもしれない。一人一人の無責任な発言や行動が、一人の命を奪ってしまうかもしれません。若くして命を落とすということは、未来をなくすということです。僕は、命を奪うような言動ではなく、一人で

も多くの命を守れるような言動を心がけて生きていきたいです。

このように、SNSを通して命について真剣に考えさせられた一年になりました。新型コロナウイルスの感染者が身近に出ると、誹謗中傷や風評被害が起こったりすると聞きます。僕は、そういった被害が0になるような世界になってほしいと願います。そして、僕も勇気を持って踏み出していきたいです。

今できることに思いを込めて

維和中 三年 中村 ありさ

新型コロナウイルスの影響で、制限の多い一年だったと思う。昨年度末、新型コロナウイルスの感染が拡大してくると、全国で緊急事態宣言が出され、私の通う維和中学校も休校になった。私が中学最後の一年を迎えてすぐのことである。

最初は熊本県内での感染者数は数人で、あまり実感もなく過ごしていた。しかし東京で感染者数が増え、県内でも増えてくると新型コロナウイルスの怖さをじわじわと実感することになる。五月、休校期間も延長され、外出自粛が続いた。私は元々家にいることが多かったのでストレスをあまり感じていなかったが、ニュースで長い自粛生活が続き、ストレスを感じている人が多いと聞き、たくさんの人々に影響が出ているなど感じた。

新型コロナウイルスが少し落ち着き、六月から学校が再開した。再開した学校では、暑い中マスク着用、手や机の消毒が徹底された。教室の換気が行われ、体育館でも密を避けるために広がって集まっていた。最初は慣れなくて、マスク着用も忘れることが多かったが、先

生方の言葉かけや、みんなの意識が高まり、少しずつ徹底していくことができた。

そのような制限の多い学校生活であったが、一番影響を受けたのは、学校行事だった。その中でも、小中合同運動会は、五月から九月に延期になり、また一日から午前中だけの短縮された運動会になった。また、郡市陸上大会は中止になり、郡市駅伝大会は実施方法が変わった。三年生にとってどれも最後の行事だったので、残念だった。

特に駅伝大会。私が中学校で一番力を入れて頑張ったことは駅伝大会だ。中学校一年生の最初は練習がきつくて先輩達についていくのが精一杯だった。ついていけなくなる時もあった。特に夏休みの暑い中での練習や放課後の練習はきつく、メニューもハードで諦めそうになるときもあった。でも、皆と声を掛け合って、協力し合いながら練習に取り組むことで、最後まで頑張ることができた。私は一年生、二年生と駅伝大会ではアンカーを務めさせていただいた。そして、中学最後の駅伝大会も、きついながらも頑張る覚悟でいた。そんな矢先に新型コロナウイルスでの休校、部活動も自主練に変わり、ほぼ走る時間が無くなってしまった。休校期間も長引き、その間に体力もどんどん落ちていった。私はこのままの状態、本番は走れるのだろうか、不安でいっぱいだった。

そのような中、陸上大会、駅伝大会に向けての練習が始まったが、今までのように走ることが出来なかった。陸上大会は中止となり、駅伝大会はいつものコースではなく、運動競技場を周回するカタチで開催された。今年もアンカーを務めることになった。新型コロナウイルスのおかげで練習に存分に取り組むことはできなかったが、

皆で協力し合い、今できることに全力で取り組むことができた。不安な日々もあったが、こうしてコロナ禍でも駅伝大会に向けて全力で取り組むことができ、思い出に残る大会となった。「今できることに思いを込めて。」校長先生の言葉が思い出された。

東京では再び感染者が増え、医療体制が逼迫し、県内でもさらに感染者が増えてきている。医療体制が逼迫すると、新たな感染者が出て治療できず、助かる命も助からなくなる。このような事態になる前に早めの政策が必要と感じた。

また、医療従事者や感染者への批判や誹謗中傷が起きている現実を知り、身近な人権問題について考えることもできた。特に医療従事者は危険と隣り合わせで日々戦っておられる。患者のために一生懸命に働いておられる。私たちはそのことを忘れず、感謝の気持ちを持ちたい。そして、感染者を増やさないように、自分にできる対策をしっかりとしなければと考えさせられる。

私は、今年受験である。緊急事態宣言が再び発令され、不安があった。しかし、このまま受験の日を迎えられそうである。「今できることに思いを込めて。」このようなコロナ禍でも受験ができること、勉強ができることに感謝し、しっかりと取り組みたい。そして、駅伝で培った最後まであきらめずに全力で頑張ることをモットーとし、中学生最後まで走り抜きたい。

新型コロナウイルス感染症について

湯島中 三年 古賀 紅葉

新型コロナウイルスと聞くと、誰もが警戒し、中には悲しみを抱

いたり、いかりを抱く人もいるだろう。そんな私たちの人生に大きく関係するようになってしまった新型コロナウイルスについて述べていこうと思う。

この新型コロナウイルス感染症によって変わったことはたくさんある。ここではそのうちの二つの例を挙げたいと思う。

一つは、ニュースについて聞く新しい言葉についてである。例えば「クラスター」や「パンデミック」、「三密」や「ウィズコロナ」「五つの小（こ）」など、新型コロナウイルス感染症に関する初めて聞くような単語がたくさん出てきたことだ。

もう一つは、私が住んでいる離島の湯島での変化についてである。最近、よく話題になっている「GO TO キャンペーン」というものを知っているだろうか。「GO TO キャンペーン」とは、主に旅行に出かけた先の宿泊代やお土産代を一部、もしくはそれ以上を払わずともサービスを受け、商品を買うことができる、いわゆる旅行など「ちょっととした息抜きをお得にできますよ」というような、自粛期間外出を我慢してきた私たちにはとてもありがたいキャンペーンだ。だが心配な点がある。湯島の場合、少子高齢化が著しく、お年寄りがとても多い地域であるため、もし「GO TO キャンペーン」で観光客が増え、島の誰かが感染してしまったら、最悪の場合、命を落とす人が出てきかねないという点だ。

このように、新型コロナウイルスによって、私たちの身近なところにも生活の変化が現れている。

次に、自粛期間中のことについて、変わった点とあまり変わっていない点について述べたい。

変わった点は、学校行事のことである。毎年楽しみにしていた島

民合同体育大会、修学旅行、職場体験、家庭科の保育実習、もちつきなど、三密になるのを防ぐため、中止または延期となった。やむを得なかったとはいえ、とても寂しかった。しかし、人と人の距離を一定に保ったり、マスク・うがい・手洗い・換気を徹底したりした上で学習発表会については実施できたので、よかったと思う。

変わらなかった点としては、湯島小中学校は少人数のため、十分な対策の上で休校していても学習をすることができ、休校が開けてからも普段とあまり変わることなく授業を進めることができたということだ。

ここまで私の身近なところの変化などを挙げてきたが、もっと視野を大きく広げて見てみると、たくさんの方の生活に変化が現れていることが分かる。

一つは、医療従事者のことである。私は新型コロナウイルス感染症に関する映像の中で、心に残るものが一つあった。それは、夏、暑い中感染症防止対策で着ておられた防護服姿だ。とても苦しうに汗を流しながら患者さんのシーツを替えているというものだった。医療従事者の方々の苦勞が改めてわかったと同時に、もっと感謝の気持ちを持たなければいけないと感じた。

もう一つは、「コロナ差別」というものだ。学校や仕事場で、帰省者、両親が医療従事者である、花粉症などの新型コロナウイルス感染症に似た症状の人などに対して、新型コロナウイルス感染症につながるような情報があると、避けたり噂したりといった差別が発生した。これを「コロナ差別」という。

このような差別が起きるには二つの理由があると思う。一つは、自分が新型コロナウイルスに感染したくないからである。これが一

番大きいと思う。誰にでもある「感染したくない」という恐怖心が原因だ。もう一つは、意識の違いだと思う。「〇〇さん、熱が出たらしい。」という不確かな話を聞いて、新型コロナウイルスに感染したと解釈して信じ込んでしまう。感染しないように気をつけることは大切なことだが、噂などの確かな情報かどうか分からないものを信じて行動するのは絶対にしてはいけないと思う。

新型コロナウイルスは、減ることはあっても無くなることはないと言われている。だからこそ、これからの生活で新型コロナウイルスと向き合い、正しい情報、適切な対応の仕方を身に付けていく必要がある。新型コロナウイルスの感染予防のための知識と、情報を見極める力を全員が持つべきである。

私は、自分の健康を保つために、これからも手洗い・うがい・マスクの徹底、アルコール消毒を心がけたい。また、正しい情報とそうでない情報を判断し、取捨選択する力を身に付けながら、毎日元気に過ごせるようにしたいと思う。

「コロナ差別」をなくすために

松島中 三年 岡部 心美

私は、これからの社会では、新型コロナウイルスを、インフルエンザウイルスと同じような価値観で見ていく必要があると思う。

令和二年始めから、日本でも新型コロナウイルス感染症が広まり、現在も感染者数が増加し続けている。マスクの常時着用やアルコール消毒の徹底など、一人一人が細かい対策をしても状況はなかなか良くはなっていない。そして、生活面や経済面など、いろいろ

な面で問題が生まれている。

中でも、最も深刻な問題が「コロナ差別」だ。ウイルスに感染した人だけでなく、その家族や友達までが対象となって差別を受けるということがあつていっていると聞く。人権を踏みにじる、絶対に許せない行為だ。それ以外にも、さまざまな事例がある。まず、学校などへのバッシングだ。最近、学校や老人ホームなどの公共施設でクラスターが相次いでいるが、私は、決して感染防止対策が不足していた結果ではないと思う。しかし、ネット上ではこれらの施設に対して「消えろ」「出て行け」など、目を覆いたくなるような言葉が浴びせられている。また、東京差別も同様である。東京都では、一日に数百人以上の感染者が出るのが当たり前になってきている。人口が多いので、感染者数が多くなるのは仕方のないことである。にも関わらず、「東京の人間は、〇〇県に入って来ないでほしい。」「実家に帰るな。」など、心ない声を発している人を、テレビを通じて目にした。感染の拡大を防ぐためにも、一人一人が行動を自粛する必要があるのは確かだが、それにしても言葉が過ぎていく。

一部の人を傷つけてまで発せられる正論は、本当に正義なのだろうか。私は、そうは思わない。みんなが苦しんでいるこんな状況だからこそ、私たちは、自分と同じように周りの人を大切にしながら、対策をする必要があるのだ。

コロナに対する不安や恐怖が、人々を差別へと導いている。私はこの状況がとても歯がゆい。だからこそ、もう一度主張したい。私たちは、新型コロナウイルスを、インフルエンザと同じように、「あたり前の目」で見ることがある。インフルエンザとコロナウイルスは、全く違う感染症であり、感染した際の症状も異なる。私の

主張は間違っているのかもしれない。しかし、恐怖ばかりが人々の心を支配しているうちは、差別はなくなならない。世界中の人々が、恐怖の目だけではなく、あたり前の目で見ようとすることが、コロナ差別をこの世からなくす最善の方法ではないだろうか。

コロナウイルス生活の中で

松島中 三年 本瀬 真誌呂

新型コロナウイルスが流行してもう一年が過ぎようとしています。最初に休校となったときは、単純に学校が休めると喜んでいました。思ったよりも休校は長引き、やっと学校に通えるようになってもまた休校となりました。休みが増え続けてから、もうすぐ受験生なのにとだんだん不安になってきました。このときに初めてコロナウイルスがどんなに恐ろしいか気づきました。毎年行っている旅行も今年はコロナウイルスの影響でどこにも行けませんでした。久しぶりに友達と遊ぶ約束をしても、「コロナ禍だから」と言われ、遊びに行くこともできませんでした。このまま体育大会や文化祭などの三年生にとつて最後の学校行事もなくなってしまうのだろうと残念に思っていました。

しかし、そのような厳しい中でも学校の先生方は学校行事を中止せず開催してくれました。「コロナなのに？」と思う方もいるかもしれませんが、私はとても嬉しかったです。このような厳しい状況の中でも生徒のことを一生懸命考えてくれているということに改めて実感しました。体育大会では、テントの中にいる時はマスクを着用したり、文化祭では生徒の顔が見えるようにと透明マスクが配付

されたりしました。合唱コンクールも二度延期になりましたが、各学級に分け、ソーシャルディスタンスを保ちながら実施されました。先生方が色々なことを考えて学校行事を実施してくれたことで、厳しく限られた状況の中でも一生懸命楽しく参加することができました。

他にも、ボランティアの方々から一人あたり三枚のマスクを頂きました。今ではマスクも通常より高い値段で売られており、手に入りにくい時代です。そのような中で私達の為に作ってくださったことに本当に感謝しています。

今年は様々な場面で我慢することが多かった一年でした。しかし多くの人の支えがあつて学校行事なども無事にできたし、楽しむことができました。コロナウイルスが終息したら思いっきり外へ出かけ遊びたいと思いますが、それにはまだ時間がかかりそうです。今でも「コロナウイルス」という言葉を聞かない日はありません。最近ではコロナ以外にも新型のウイルスが出ていると聞きます。コロナ生活に慣れてしまっている今だからこそ一番危ない時期だと思います。慣れたからといって気を緩めずに手洗い・マスク・換気など当たり前のことを徹底して安全に生活できるようにします。一人一人の心がけで世界は大きく変わると思っています。みんなが安心して過ごせる未来を早く見たいです。

休校でがんばったこと

姫戸中 三年 花田 大樹

新型コロナウイルスがやはり休校が続きました。休校の間、時間

が沢山できました。まず、ウイルスなんかには負けず毎日走ることをがんばりました。朝か夕方のどちらかには家の近くを走っていました。部活動もあまりできなかったのですがこれからも続けていきたいと思っています。

他にも勉強を沢山がんばりました。兄が受験生だったこともあり一緒に勉強していました。学校の課題の他にも、問題集で勉強しました。家での自分の仕事としては、毎日お風呂を掃除することを責任持って行いました。たまに、料理をすることもありました。特にカレーを作ったときは家族のみんながおいしいと言ってくれてとてもうれしかったです。

家にいることも多くなったので、外で遊ぶことも意識して行いました。小さな弟もいるので、家族みんなでたこ揚げをしたりしました。とても高く上がって弟も喜んでくれて楽しかったです。いい気分転換になりました。

三年生として、感染拡大防止に努めて、下級生のお手本になるような生活をし、受験に向けて継続して勉強をがんばっていきたくです。

新型コロナウイルスに負けない

姫戸中 三年 齋藤 涉

去年、姫戸中の「こころの講演会」に来ていただき、僕たちが修学旅行で行ったときには案内していただいたりと、とてもお世話になった薬師寺執事長の 大谷徹装さんから、メッセージが届いて紹介されました。それは次のような内容でした。

「感染症のなかったときと同じ生活にすぐには戻れない。そこで今回の変化を大規模なダイヤ改正として受け止める。ダイヤの改正があれば今までと同じ列車はもう来ないのだから、新ダイヤに即した生活リズムを身につけなければ、自分を苦しませるだけである。来ない列車を待つのではなく、目の前に来た列車に乗って前に進む。これが新しい生き方だと思います。」

僕はこの内容に触れて、新型コロナウイルスによってこれまでの生活が普通ではなくなっている今、どうすべきか考えるきっかけになりました。今までの生活にすぐ完全に戻ることはできないと思うので、世の中が変化していくのに対応していかなくてはいけません。

僕は、これから「前は良かったのに」ではなく、世の中の変化に対応しそれに慣れて、この生活が前の生活と変わらないくらいハッピーなものにしたいと思いました。



上天草市
KAMI AMAKUSA

※背表紙

上天草市児童生徒作文集「コロナに負けない」

令和3年3月

上天草市教育委員会